

平成 28 年度

# 年 次 報 告 書

分冊：教員の年間活動報告

神 戸 常 盤 大 学

神戸常盤大学短期大学部

# 目次

	頁数
1. 保健科学部・医療検査学科	3～24
2. 保健科学部・看護学科	25～56
3. 教育学部・こども教育学科	57～76
4. 短期大学部・口腔保健学科	77～94
5. 短期大学部・看護学科通信制課程	95～104
6. 教育イノベーション機構	105～116

## 1. 保健科学部 医療検査学科

教員名	松田 正文	所属学科等	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	副学長、自己点検・評価委員会委員長				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	臨床検査学Ⅰ、生理機能検査学ⅠA・ⅠB・ⅡB、 生理機能検査学実習Ⅱ、生理機能検査学演習、臨床病態学Ⅰ・Ⅱ、 臨床病態学演習Ⅰ・Ⅱ、総合医学検査演習、医療安全				
担当科目コマ数	8.8				
本年度の課題					
教育：不整脈と病態との関連を明確に示す 研究：動脈硬化性変化の早期発見（若年者）、透析患者心血管イベントの予知					
本年度の目標					
教育：不整脈による血行動態の変化が病態に及ぼす影響を詳細に解説し、不整脈が関係する病態の原因・発生機序を明らかにする。 研究：若年者：各種動脈硬化指標と生活習慣との関係を引き続き見てゆく。 透析患者：Ca、P代謝を中心に、これらの透析によるコントロール・レベルと心血管系事故との関連を解析する。					
主な活動内容					
1. 目標達成に向けた活動内容 教育：不整脈が関係する病態の原因・発生機序に重点を置いた授業を行った。 研究：「若年者の動脈硬化」は、過去数年間の卒業研究で蓄積されたデータを解析している。 目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった					
2. 教員としての主な活動内容 1)教育活動：不整脈による血行動態の変化と病態との関係を解説したが、心臓の電気生理学や物理学の話が多くなった。 2)研究活動：「若年者の動脈硬化」については未だにごく初期の動脈硬化を示す指標を見出せない。透析患者の副甲状腺機能、Ca・P関連薬剤、透析条件など多くの因子を解析しているが、心血管系事故の予知には至っていない。 研究テーマ：透析医療 研究の現状：「若年者の動脈硬化」、「透析患者の心血管系事故の予知」いずれも難しいテーマであるが、継続中である。 本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 2 回） 論文（ 0 編） 著書（ 0 冊）					
3)社会的活動等：社会福祉法人和光会理事					
今後の課題					
データを蓄積し、その統計学的検討を行う。					

教員名	坂本 秀生	所属学科	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	医療検査学科長、ゲノムサイエンス研究ユニット責任者、国試対策委員長				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	M科:臨床検査入門、医学総論、検査機器総論、分子細胞生物学、医療英語、臨床検査学演習、文献講読、遺伝子工学、先進医学検査学、先進医学検査学I、国際保健医療活動I、国際保健医療活動II、チーム医療と臨床検査、卒業研究 N科:自然と環境III、国際保健医療活動I、国際保健医療活動II O科:遺伝子と再生医療				
担当科目コマ数	9.2				
本年度の課題	学生の可能性を伸ばす。学科運営の円滑化。第11回 日本臨床検査学教育学会学術大会を含めた実行委員を務める学会の成功。				
本年度の目標	時間配分を調整し滞りない学科運営、実行委員を務める各種学会の成功。				
主な活動内容	<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>28年度は学科運営に加え、臨床化学会近畿支部例会の例会長、第11回 日本臨床検査学教育学会学術大会の大会長、世界医学検査学会の実行委員及び国際学生フォーラム責任者、日本医学検査学会の実行委員と複数学会で運営に関わった。</p> <p>臨床化学会近畿支部例会に関しては、臨床化学会会員の教員及び畑中客員教授のご尽力を頂き「補体の臨床化学」をテーマとして成功裏に終了出来た。また、第11回 日本臨床検査学教育学会学術大会では、準備段階から全学科教員だけでなく法人及び事務職員の皆様の協力、学会当日は多数の学生にも手伝ってもらい、500名を超える参加者があったにも関わらず、事故やトラブルもなく終了出来た。</p> <p>この間、医療検査学科の客観的評価に直接つながる、臨床検査技師国家試験に対しては医療検査学科全教員の協力もあり、現役生には現役生の平均と同程度、卒業生に関しては全国平均より遙かにより合格率を残す事が出来た。これらは学科の力を信じ、時間配分を調整できた成果であり、28年度の目標を達成出来たと言える。</p> <p>目標達成度の評価:①.できた 2.ほぼできた 3.あまりできなかった 4.できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <p>成績不審者、欠席や遅刻が多い学生に対して個別面談及び電話やメールを通じた指導を行った。特に4年生の国家試験対策では多くの時間を費やし、学生との対話を通じて個々に沿った指導を心がけた。</p>				

大学院進学希望の学生に対して早めに個別面談及び、学習指導を行い今年も名古屋大学大学院、神戸大学大学院の進学者を送り出すことが出来た。

## 2)研究活動

研究テーマ：Cablesの機能解明、ポイントオブケアテストングを効果的に用いる具体策の研究  
 研究テーマの現状：「Cablesの機能解明に関する研究」は科研費の基盤研究Cにて、3年継続で採択された最終年度として成果をまとめた。「ポイントオブケアテストングを効果的に用いる具体策の研究」については、在宅医療にポイントオブケアテストングを活用することを提唱し、臨床検査振興協議会が設ける「在宅医療ワーキンググループ」の委員に選ばれ、活動範囲を広げた。

研究の現状：

本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照

学会発表（国際2回、国内8回） 論文（3編） 著書（1冊）

## 3)社会的活動等

日本臨床検査学教育協議会 副理事長、アメリカ臨床病理学会 国際資格 日本諮問委員会 委員長、国際臨床化学会 C-IeL 委員、日本臨床検査医学会 評議員、日本臨床検査自動化学会 評議員 POC 技術委員会 幹事、日本臨床化学会 評議員 国際交流委員会 委員長、日本臨床衛生検査技師会 国際 WG 委員、世界医学検査(IFBLS)学会実行委員、日本医学検査学会実行委員、兵庫県臨床検査技師会 理事

今後の課題

円滑な学科運営の実施及び、数年後を見据えた学科のあり方について検討を始める。  
 自身の研究活動を推進させる。

教員名	岩井 重寿	所属学科等	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	個人情報保護委員会・委員長、M科臨地実習委員長、ライフサイエンス研究センター細胞病理研究ユニット・責任者				
クラス担任	2年生・責任者	クラブ顧問	なし		
担当科目名	臨床病理検査学、臨床病理検査学実習Ⅰ、組織学・同実習、検査リスクマネジメント論、臨床検査入門、細胞検査学特論Ⅰ、細胞検査学特論Ⅱ、卒業研究、総合医学検査特論、総合医学検査演習				
担当科目コマ数	8.3				
本年度の課題	● 教育効果を一層高める。				
本年度の目標	1. マンツーマン指導を意識した授業形態を図る 2. 検査と疾患の理解を育む				
主な活動内容					

<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>特に実習においてはグループ分けされたことより目配りや質問対応の時間が充実することを鑑み、その実践によって担当科目以外の領域も含めて幅広い教授が可能だった。また、形態的検査（診断）の疾患鑑別への挿入に関しての価値を与えた。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 細胞検査士養成教育で細胞検査士資格認定試験の全員合格を達成した。</li> <li>● 臨地実習委員長として学生指導と運用に努めた。</li> <li>● 教授内容は国家試験問題を確認したところ、そのすべてが網羅できていた。</li> </ul> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 反応性中皮細胞の細胞組織化学的特徴による体腔液細胞診断の向上</li> <li>2. 漿膜の創傷・治癒における中皮前駆細胞の多分化能に関する実験的解明</li> </ol> <p>研究の現状：</p> <p>研究時間確保等の見直しが必要である。</p>
今後の課題
特になし

教員名	井本 しおん	所属学科	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	図書・紀要委員会委員長、M科就職委員長、健康保健センター・健康管理室責任者、遺伝子組換え実験安全委員会委員、LSC委員				
クラス担任		クラブ顧問	イムノヘマトロジー		
担当科目名	科目責任者：血液学, 血液検査学, 血液検査学実習I, 血液検査学実習II, 臨床病態学II, 医療コミュニケーション演習、人体のふしぎ (E科) オムニバス：臨床病態学I、臨床病態学演習I、臨床病態学演習II、総合医学検査特論、総合医学検査演習、卒業研究、医療安全、検査リスクマネジメント、臨床検査入門				
担当科目コマ数	12.0				
本年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究時間の確保</li> <li>・研究成果の論文化</li> </ul>				
本年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業研究を発展させ、学会発表、論文化をめざす</li> <li>・M2 前期から血液形態観察に馴染ませる</li> </ul>				

・就職委員長の職務遂行
主な活動内容
<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業研究の成果を8月に日本臨床検査学教育医学会で発表、H29年度神戸常盤大学紀要に原著論文として発表した。</li> <li>M2血液学、血液検査学で繰り返し血液細胞ノートでの形態確認を促した。</li> <li>就職ガイダンス、模擬面接等可能な限り対応し例年と同様の就職内定率を得た。</li> </ul> <p>目標達成度の評価：1.できた②.ほぼできた 3.あまりできなかった 4.できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <p>教育活動：わからない学生を減らすべく重要ポイントの説明に力を入れた。</p> <p>委員会活動：就職委員会では、ガイダンスや面接などで多大な時間が必要であった。</p> <p>研究活動：</p> <p>研究テーマ：ヘミンによる細胞死誘導は <b>Ferroptosis</b> に合致するかどうかの検討</p> <p>研究テーマの現状：ヘミンによる細胞死の鉄依存性を英文論文にまとめ投稿中。</p> <p>専門領域：臨床血液学、輸血・細胞治療学</p> <p>本年度の研究業績：</p> <p>学会発表（ 1 回） 学術論文（ 1 編） 著書（ 冊）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会的活動等</li> </ul> <p>兵庫県献血推進協議会委員、兵庫県合同輸血療法委員会委員、日本輸血・細胞治療学会 I&amp;A インспекター、兵庫さい帯血バンク倫理委員など</p>
今後の課題
・研究成果の論文化、研究時間の確保

教員名	梶倉 匡文	所属学科	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	危機管理委員会・委員長、M科卒業研究委員、M科国家試験対策委員				
クラス担任	1年 Aクラス（学年責任者）	クラブ顧問	なし		
担当科目名	医療検査学科：公衆衛生学Ⅰ、公衆衛生学Ⅱ、公衆衛生学実習、医動物学・同実習、労働衛生学Ⅰ、医療統計学、免疫検査学Ⅰ、免疫検査学Ⅱ、免疫検査学実習、先進医学検査学Ⅰ、先進医学検査学、検査リスクマネジメント、卒業研究、総合医学検査特論、総合医学検査演習 看護学科：保健統計学、公衆衛生学				
担当科目コマ数	12.6				
本年度の課題					
①授業内容の充実					
②研究時間の確保					
本年度の目標					
①受講生の目線に立った分かりやすい授業になるように心がける。					
②研究を再開させる。					

主な活動内容
<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>①最新の事例を積極的に講義に取り入れ、授業に対する学生のモチベーションを上げるように努めた。配布プリントの充実を図った。</p> <p>②研究時間を確保できず、実験に着手できなかった。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <p>・教育活動</p> <p>授業アンケート結果を真摯に受けとめ、できるだけ多くの受講生の意見を授業に反映させるようにした。前年度よりもプリントの内容を充実させた。</p> <p>・研究活動</p> <p>研究テーマ：ネコ免疫不全ウイルスを用いたエイズウイルス潜伏感染モデルの構築</p> <p>研究テーマの現状：研究時間を確保できず、実験に着手できなかった。関連論文の入手、細胞の準備、試薬調製などの準備作業を行った。</p> <p>専門領域：免疫系感染症学</p> <p>本年度の研究業績：</p> <p>テーマ別研究・ジョイント研究・科研・その他の外部資金（ ）</p> <p>&lt;研究テーマ： &gt;</p> <p>学会発表（ 1回） 学術論文（ 1編） 著書（ 0冊）</p> <p>・社会的活動等</p> <p>&lt;査読&gt;神戸常盤大学紀要 2件</p>
今後の課題
授業内容の更なる充実と研究活動の再開

教員名	澤田 浩秀	所属学科	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	研究倫理委員長、遺伝子組換え実験安全委員長、M科卒業研究委員長、M科細胞検査士養成課程委員、ライフサイエンス研究センター委員				
クラス担任	医療検査学科4学年	クラブ顧問	なし		
担当科目名	医療検査学科：生理学Ⅰ、生理学Ⅱ、生理機能検査学ⅡA、生理機能検査学ⅡB、環境生理学、労働衛生学Ⅰ、文献購読、臨床検査学演習、医療英語、検査リスクマネジメント論、卒業研究、総合医学検査特論、総合医学検査演習 看護学科：臨床検査総論、医療機器総論 口腔保健学科：臨床検査学、こども教育学科：人体のふしぎ				
担当科目コマ数	9.2				
本年度の課題	1. 研究活動の充実化、2. 外部研究資金の獲得 3. 臨床検査技師としての認知症予防対策および認知症検診への参加				
本年度の目標					

<p>研究面において、研究課題である“腸管免疫賦活によるパーキンソン病予防の研究”および“ミクログリア活性化制御によるパーキンソン病治療法の開発”の研究について結果をまとめ論文作成を行う。また、“臨床検査技師としての認知症予防対策”の課題としての研究およびその対策を実行する。科学研究費など外部研究資金の獲得に向けて取り組む。</p>
<p>主な活動内容</p>
<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>1. 当面の研究課題である“腸管免疫賦活によるパーキンソン病予防の研究”および“ミクログリア活性化制御によるパーキンソン病治療法の開発”に関して、共同研究先である国立長寿医療研究センター実験動物管理室の客員研究員として登録され、同施設において平成25年度より動物実験を実施した。研究の進捗状況は十分とは言えない。</p> <p>2. 科学研究費など外部研究資金の獲得には至らなかった。</p> <p>3. 臨床検査技師としての認知症予防対策への参加については、介護施設「うみのほし大久保」および認定NPO法人「認知症予防ネット神戸」との共同研究により、近赤外光分析法(NIRS)を用いた脳内酸素化ヘモグロビン測定による認知症予防への評価の研究を実施した。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <p>どの科目においても、図表の説明を中心に、特に視覚から理解できるような授業を行った。各科目とも、穴埋め箇所に重要な点を書き込んでいくプリントを配布し、これに沿って授業を行った。授業評価(授業の満足度)に関しては、生理学Ⅰが3.9、生理学Ⅱが3.9、生理機能検査学ⅡAが4.0(いずれも医療検査学科)であった。評価されなかった点として、授業の聞きやすさ、授業の進行速度、板書やスライドなどの適切性、学生の質問や意見への対応性であった。今後も、できるだけゆっくり話すこと、授業内容をわかりやすくまとめること、わかりやすく板書することに注意した授業を行うよう心がけたい。</p> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：①腸管免疫賦活によるパーキンソン病予防の研究、②ミクログリア活性化制御によるパーキンソン病治療法の開発、③NIRS法を用いた認知症予防の研究</p> <p>研究の現状：</p> <p>① ドーパミン神経に作用する薬物であるロテノン Maus に経口または皮下投与することにより、パーキンソン病モデルマウスを作成した。このモデルマウスに酪酸など短鎖脂肪酸またはバンコマイシンなどの抗生物質を経口投与し、それぞれ腸管免疫を賦活または低下させることによって、パーキンソン病における黒質ドーパミン神経変性およびミクログリア活性化がどのように変動するかを観察した。</p> <p>② ドーパミン神経毒である MPTP をマウスの腹腔内投与することにより、パーキンソ</p>

<p>ン病モデルマウスを作成した。このモデルマウスに、ミクログリア活性化を抑制すると考えられる各種 LRRK2 阻害薬または phosphodiesterase 阻害薬を投与し、マウスの黒質ドーパミン神経変性抑制およびミクログリア活性化抑制について検討した。</p> <p>③ 1) 看護学科・柳本教授および「うみのほし大久保」との共同研究で、施設に入所されている歩行困難な高齢者に対して歩行支援機を用い、心拍数、血圧、SPO2 とともに NIRS 法による脳内酸素化ヘモグロビンを測定し、歩行機使用による歩行改善度、ストレス軽減についての証明を試みた。</p> <p>2) 「認知症予防ネット神戸」との共同研究で、物忘れ相談会（認知症検診）時に NIRS 法を用い、前頭部における脳内酸素化ヘモグロビンを測定し、認知症の検診への有用性について検討した。</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照  学会発表（ 3 回） 論文（ 1 編） 著書（ 冊）</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>①日本臨床衛生検査技師会認定認知症領域検査技師ワーキンググループとして、認定認知症領域検査技師認定試験の実施と認知症対応力向上に向けた事業を計画中である。</p> <p>②第6回認知症予防学会学術集会 2016年9月24日 仙台  認定認知症領域検査技師スキルアップセミナー講師「認知症と臨床検査」</p> <p>今後の課題</p> <p>1、研究活動の充実化：研究へ費やす時間をできるだけ確保し、研究テーマの内容を論文として発表できるようにすること。</p> <p>2、科学研究費など外部研究資金の獲得</p>
--

教員名	鈴木 高史	所属学科等	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	国際交流センター委員・図書紀要委員・KTU副センター長・カリキュラム委員				
クラス担任	3年生（学年責任者）	クラブ顧問			
担当科目名	免疫学、免疫検査学 I、免疫検査学 II、免疫検査学実習、先進医学検査学、文献講読、総合医学検査特論、総合医学検査演習、臨床検査学入門、労働衛生学、検査リスクマネジメント、卒業研究				
担当科目コマ数	9.6				
本年度の課題	各種状況を見極めながら適切にエフォートを振り分けて、教育・研究活動の推進を目指す。				
本年度の目標	国家試験対策問題の研究 論文発表				
主な活動内容					

<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>教育では、学生の理解力を随時把握しながら、講義を行い、また効果的な国家試験対策のための資料作成を行う。</p> <p>研究では、データをまとめて論文発表を行う。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <p>免疫(検査)学関連講義の新たな組み立てを行い、免疫検査学の国家試験対策用の資料作成を行った。</p> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：熱帯疾患の新規コントロールツールの開発</p> <p>研究の現状：</p> <p>1. CRISPR/Cas9システムを用いたロックインシステムの構築を行った。</p> <p>2. アフリカトリパノソーマ原虫のTbUNC119分子、TbUNC119BP分子に対する抗体作製を行った。</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照</p> <p>学会発表（ 2 回） 論文（ 4 編） 著書（ 冊）</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>今後の課題</p> <p>研究の推進と論文発表</p> <p>学習進度が異なる学生への効果的な教育方法の探索</p>
--

教員名	柳田 潤一郎	所属学科等	医療検査学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	学生委員会、国際交流センター、学生相談室				
クラス担任	2年Bクラス	クラブ顧問	体育会代表		
担当科目名	微生物学、病原微生物検査学実習、卒業研究				
担当科目コマ数	14.1				
本年度の課題					
講義科目では、ヒトと微生物の関わりと色々な微生物の特徴を理解する。					
実習科目では、代表的な病原微生物の分離・同定法を習得する。					
本年度の目標					
講義では、微生物学の基本的事項を解説し、理解させる。					
実習では、微生物の取り扱い方法を習得させる。					
主な活動内容					
<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>講義では、新聞・雑誌等からも話題を取り上げ、教科書と共に解説した。</p> <p>実習では、培地試薬の調製、顕微鏡観察および微生物の分離・同定法を行った。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p>					

<p>1)教育活動</p> <p>講義では、身近な話題から教科書へ導入し、また学生の自主的な学習も取り入れた。</p> <p>実習では、ヒトの感染症の原因となる代表的な微生物について、基本操作、培地試薬の調製、標本の顕微鏡観察、分離同定法など実際に取り扱うことにより、教科書で学んだ知識の理解が深まるように努めた。</p> <p>大学コンソーシアムひょうご：学生派遣プログラム・ネパールコースを帯同した。</p>
<p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：ネパールにおける感染症の研究</p> <p>研究の現状：ネパールにて、住民健康調査、検便、水質検査等の調査を継続中。</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照</p> <p>学会発表（ 1 回） 論文（ 2 編） 著書（ 冊）</p>
<p>3)社会的活動等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・神戸女子大学健康福祉学部健康スポーツ栄養学科で非常勤講師（食品衛生学実験）</li> <li>・西播磨地区小学校校長会にて「JICA 草の根技術協力：ネパールでの安全な水の供給促進事業」の講演(2016. 5. 16. : 宍粟防災センター)</li> </ul>
<p>今後の課題</p> <p>講義・実習科目では、学生により興味を持ってもらうための工夫をする。</p> <p>卒業研究では、自主的な実験や積極的なディスカッションができることをめざす。</p> <p>研究活動では、ネパールでのフィールドワークを継続する。</p>

教員名	坊垣 美也子	所属学科等	医療検査学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	教務委員 医療検査学科国家試験対策委員				
クラス担任	医療検査学科1年Aクラス	クラブ顧問			
担当科目名	検査入門実習 臨床検査入門 生化学Ⅰ 生化学Ⅱ 生化学実習 臨床化学検査学実習 卒業研究 総合医学検査特論 生化学（看護通信制課程）				
担当科目コマ数	11.6				
本年度の課題	平成 29 年度に予定されているカリキュラム改正に向けた新カリキュラム授業の組み立て、授業時間減に伴う補習授業の内容、運用方法等の準備を進める。				
本年度の目標	平成 29 年度カリキュラムで、旧カリキュラム生化学Ⅰ（必修 30 時間）から新科目の生体物質の化学（選択 15 時間）に移行する授業項目の内容および構成を決定する。				
主な活動内容	1. 目標達成に向けた活動内容 M1後期の生化学Ⅰの授業で、新カリキュラムで選択科目に移行する授業項目について、小テストおよび授業の理解度に関するアンケートを実施した。小テストおよびアンケート結果から授業内容の絞り込み、構成、履修指導のあり方を検討した。 目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった				

<p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <p>①各講義の追再試験で不合格となった学生に補充指導を行い、単位修得を支援した。</p> <p>②M1Aクラスの担任として、旧カリキュラム最終学年であることを念頭に2回の学生面談を実施し、成績に問題がある学生についてはさらに面談を行うなど入念に指導を行った。</p> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：血管内皮細胞と末梢血単球の相互作用に関する研究</p> <p>研究の現状：THP-1のマクロファージへの分化条件、標識方法、細胞マーカー発現等の確認を進めた。</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照 学会発表（     回） 論文（     編） 著書（     冊）</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>今後の課題</p> <p>平成29年度カリキュラム移行に伴い、旧カリキュラム学生に対して円滑に単位が修得できるよう、担当科目の指導を強化する。新カリキュラムで時間数減となる科目（生化学I）については、学生の学修達成度が旧カリキュラムと同等(以上)となることを目指す。</p>
---

教員名	新谷 路子	所属学科等	医療検査学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	M科臨地実習委員・副委員長、神戸常盤ボランティアセンター運営委員				
クラス担任	1年Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	臨床検査入門、解剖学、病理学、基礎検査学Ⅰ、基礎検査学Ⅱ、基礎検査学実習、検査リスクマネジメント論、卒業研究、総合医学検査特論、E科：人体のふしぎ				
担当科目コマ数	8.5				
本年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・M科臨地実習委員として、安全で充実した臨地実習の実施を行う。</li> <li>・研究体制（設備、時間）を整える。</li> <li>・学生の授業に対する期待や理解度を把握し、学生が分かりやすく振り返りが行いやすい授業を行う。</li> </ul>				
本年度の目標	<p>教育：学生が講義内容を理解し、興味を持って主体的に参加できる授業の構築を行う。</p> <p>研究：研究環境を整え、学会発表・論文投稿に繋げていく。</p>				
主な活動内容	<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病理学や解剖学の講義では、組織写真やイラストなどで視覚的に理解を助けた。</li> <li>・基礎検査学実習では学生の興味を引き出すために、自己尿や病院試料を検体として用いた。</li> </ul> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p>				

<p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では、まとめプリントや問題集などを配布し、学生の理解の促進に努めた。</li> <li>・実習では、レポートの重要項目に関して解説を行い、疑問点が残らないよう努めた。</li> </ul> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：種々の組織における細胞周期・細胞死関連蛋白の発現に関する免疫組織化学的研究</p> <p>研究の現状：種々の組織における細胞周期・細胞死関連タンパクの発現パターンを明らかにすることを目的とし、細胞周期および細胞死(アポトーシス、ネクロプトーシス、オートファジー、など)関連タンパクの発現を免疫組織学的に解析している。</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照 学会発表(4回) 論文(3編) 著書(0冊)</p> <p>3)社会的活動等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・神戸大学大学院保健学研究科客員准教授</li> <li>・宝塚北高校における臨床検査技師の仕事紹介・講師</li> </ul> <p>今後の課題</p> <p>教育：分かりやすく、自己学習(予習・復習)に意欲を持てる授業を構築していく。</p> <p>研究：共同研究等、発展させて行く。論文発表を行う。</p>
---

教員名	布引 治	所属学科	医療検査学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	FD委員会委員、広報委員会委員、細胞検査士委員会委員、LS研究センター細胞病理委員会				
クラス担任	3年Aクラス	クラブ顧問			
担当科目名	検査学入門実習、臨床病理検査学実習Ⅰ、病理検査学実習Ⅱ、組織学・同実習、臨床検査学演習、細胞検査学、細胞検査学演習、細胞検査学特論Ⅰ、細胞検査学特論Ⅱ、医学検査特論、卒業研究、総合医学検査特論				
担当科目コマ数	11.5				
本年度の課題	細胞検査士養成教育の充実と発展				
本年度の目標	細胞検査士試験合格率アップ				
主な活動内容	<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>教材の充実。授業内容の改良。</p> <p>前年からの課題の続きとして細胞検査士教育における電子教材導入を目標とした。学生各々にタブレット端末を与え、顕微鏡撮影写真を繰り返し学習できるよう指導した。結果として細胞検査士試験合格率100%達成。</p> <p>目標達成度の評価 ①.できた 2.ほぼできた 3.あまりできなかった 4.できなかった</p>				

<p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動 細胞検査士を目指す学生のための教育内容の充実。理解しやすい教科書作り。全国の養成課程教材を参考にテキストを一新した。</p> <p>2)研究活動 研究テーマ：遺伝子多型 Genetic polymorphismの解析 研究テーマの現状： 遺伝子多型 Genetic polymorphism の解析 腫瘍病変における遺伝子変化について ALDH1 を中心に検討。細胞診材料から得られた HPV-DNA と遺伝子多型の関連性を研究中。特にアルコール飲酒と発癌との相関について論文執筆中。 学会発表（ 1回） 論文（ 1編） 著書（ 冊） 細胞診専門医制度の現状と展望. 日本臨床細胞学会雑誌第55巻, p106, 2016. Papanicolaouは如何にして細胞診を開発したか. 細胞検査士会会報Vol. 60, p17-18, 2016 .</p> <p>3)社会的活動等 日本臨床細胞学会評議員、同学会細胞検査士委員会委員、同学会施設認定制度委員会幹事 日本臨床細胞学会近畿連合会理事、 兵庫臨床細胞学会理事 日本デジタルパソロジー研究会幹事、兵庫県細胞検査士会理事 医療関連サービスマーク制度調査指導員（（財）医療関連サービス振興会）</p> <p>今後の課題 細胞検査士試験対策としての学習機材と教材の充実。細胞検査士試験合格率100%の維持。</p>
--

教員名	杉山 育代	所属学科等	医療検査学科	職名	講師
委嘱委員・職務	入試委員・臨地実習委員				
クラス担任	3年Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	生理学実習、生理機能検査学実習Ⅰ、生理機能検査学実習Ⅱ 画像検査学、生理機能検査学演習、卒業研究、特論、検査リスクマネジメント、E科人体のふしぎ				
担当科目コマ数	13.7				
本年度の課題					
各検査のつながりを考えられる学生に育てる。					
本年度の目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生理機能検査結果を解析する際、単に検査結果をその基準値と比べるだけの解析ではなく、病態や生化学データや他のデータを関連させて学生に考えさせる授業を行う</li> <li>・入試委員としての役割を遂行する。</li> </ul>					
主な活動内容					

<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の事前に講義資料を配布し、学生に十分考える時間を与えることが出来た。</li> <li>・積極的に委員会活動を行った。</li> </ul> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <p>“考えて行う臨床検査”、が出来る臨床検査技師が臨床現場では求められている。このような臨床検査技師を育てる教育の始まりが学生教育にあると考え、以下の体験を繰り返し練習することで知識と技術が臨床現場に生かされると確信している。①検査で考える面白さを体験する ②各検査データには繋がりがあることを実感する。このような考えのもとにプログラムした超音波検査実習を毎年進化させて行っている。今年も進化させた結果、学生から 1. データに意味を考えるようになった 2. あらゆる分野を繋げて考えるようになった 3. 考えるのが楽しくなった。という評価を得た。</p> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：生活習慣と動脈硬化・脳血流などの関連性  認知症検診における近赤外光分析法を用いた脳内酸素化ヘモグロビン変化測定の有用性の検討</p> <p>研究の現状：研究時間を確保できなかった</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照  学会発表（ 2 回） 論文（ 編） 著書（ 冊）</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>今後の課題</p> <p>カリキュラム改正に伴う、来年度から始まる新授業内容の検討。  研究時間の確保</p>
---

教員名	関 雅幸	所属学科等	医療検査学科	職名	講師
委嘱委員・職務	教務委員会、医療検査学科臨地実習委員会、情報インフラ整備ユニット				
クラス担任	1年Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	〔医療検査学科〕 情報科学概論、医療工学Ⅰ、医療工学Ⅱ、情報処理演習、医療工学実習、ロボティクス演習、卒業研究、総合医学検査演習、総合医学検査特論 〔看護学科〕 情報処理演習 〔こども教育学科〕 生命と科学				
担当科目コマ数	12.4				
本年度の課題	本学におけるプログラミング教育について検討する。				
本年度の目標	プログラミング教育において用いるツールを検討する。				
主な活動内容					

<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>学会誌や書籍を用いてプログラミング教育の入門に用いる環境を検討した。次年度の基盤教育分野の授業「プログラミング入門」では Scratch を採用することにした。</p> <p>目標達成度の評価：1. <input type="checkbox"/>できた <input type="checkbox"/> 2. ほぼできた <input type="checkbox"/> 3. あまりできなかった <input type="checkbox"/> 4. できなかった <input type="checkbox"/></p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療工学実習においてオリエンテーションの内容を修正し、例年より1つ多くテーマを実習することができた。ブレッドボード実習ではすべての学生が同じ種類の実習を行うことができた。</li> <li>・医療工学実習において平成29年度にブレッドボード実習のグループ数を増やせるように教室、実習装置等について検討し準備を行った。</li> </ul> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：(1) 含水鉱物及び含水岩石の電気伝導度測定実験 (2) ロボット作成を用いた情報処理教育</p> <p>研究の現状：(1) 論文投稿準備中 (2) 基礎知識を収集中</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照 学会発表 ( 2回) 論文 ( 1編) 著書 ( 冊)</p> <p>3)社会的活動等</p>
今後の課題
医療工学実習にてブレッドボード実習のグループ増により、教育効果を高める。

教員名	澁谷 雪子	所属学科等	医療検査学科	職名	講師
委嘱委員・職務	就職委員会（副委員長）、地域交流センター委員、学生委員会				
クラス担任	医療検査学科2年Aクラス	クラブ顧問	バドミントン部（顧問） フットサル部（副顧問）		
担当科目名	生化学実習、臨床化学検査学実習、薬理と検査、臨床検査学演習、総合医学検査特論、総合医学検査演習、卒業研究				
担当科目コマ数	11.8				
本年度の課題					
教育活動において、学生の自主性、考える力、伝える力を高めるよう努める。 研究活動において、研究中のテーマを進めるよう努める。					
本年度の目標					
教育活動：学生実習、就職支援、地域交流に力を注ぐ。 研究活動：研究中のテーマについて検討する。					
主な活動内容					
<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>就職支援では、ガイダンス時に質問を多くし、学生を入れた面接ロールプレイを取り入れた。地域交流では、企画をスムーズに運営するために、計画・実行について先輩が後輩</p>					

<p>に伝える、計画中に考えたこと記録していくなどの対策を行った。</p> <p>研究活動では、研究内容について日本臨床検査学教育学会学術大会において発表を行った。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた ② ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <p>臨床化学検査学実習では、学生が検査データの解析、検査データと疾患の関係についてまとめ、発表をするグループワークを取り入れた。</p> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：唾液の臨床検査について</p> <p>研究の現状：唾液成分とストレス、栄養状態の関係について研究を行った。</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照</p> <p>学会発表（ 1 回） 論文（ 1 編） 著書（ 冊）</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>兵庫県臨床検査技師会 理事</p>
<p>今後の課題</p>
<p>教育活動、就職支援、地域交流において、学生が考える機会を増やしていく。</p> <p>研究活動において、研究中のテーマを進めるよう努める。</p>

教員名	北野 悦子	所属学科等	医療検査学科	職名	助教
委嘱委員・職務	就職委員、ハラスメント防止対策委員				
クラス担任		クラブ顧問	茶道クラブ		
担当科目名	免疫検査学実習、輸血・移植検査学実習				
担当科目コマ数	9.0				
本年度の課題	昨年度、指示待ち学生を解消するために実習の場でも、プレゼンテーションの場を作ったが、その活用と、実習が、国家試験にも関連していることを3年時より自覚させ、自発的勉強に結びつけること。				
本年度の目標	実習においては、自発的に、また、進んで発表できる学生を育てる。				
主な活動内容	<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>「免疫検査学実習」及び「輸血移植検査学実習」では、項目ごとに実習中に結果を班交替で発表して、プレゼンテーションの場を作った。また、「免疫検査学実習」では、反応の待ち時間に、関連する国家試験問題を解き、学生が発表した。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた ② ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p>				

<p>1)教育活動</p> <p>各実習とも、自主的に考えるように、各自のレポートの添削には、なるべく丁寧な解説を付けるよう努力し、学生同士のディスカッションに役立つようにした。</p> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：①「異常補体を示す症例の解析」</p> <p>②「唾液中の補体成分存在について-唾液中の補体成分測定を試み-」</p> <p>③「EDTA 血漿で測定することによる補体価へ影響因子について」</p> <p>④ 遺伝性血管性浮腫HAEの解析と治療法</p> <p>研究の現状：①②③は、継続中。④は、「研究報告」参照：共著として論文2つに。</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照</p> <p>学会発表（      回） 論文（ 2 編） 著書（      冊）</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>高大連携で、兵庫県立明石南高校で、「免疫とアレルギー」の題で、2回講義をうけもった。</p> <p>今後の課題</p> <p>研究面では、②と③の完成と、新たに出てきたテーマについて完成させること。</p> <p>教育面では、もっと学生が自発的に実習に取り組めるように努力すること。</p>
--

教員名	今西 麻樹子	所属学科	医療検査学科	職名	助教
委嘱委員・職務	教務委員会、自己点検・評価委員会				
クラス担任		クラブ顧問	バトミントン部(副顧問) 弓道同好会(副顧問)		
担当科目名	生理学実習、生理機能検査学実習Ⅰ、生理機能検査学実習Ⅱ、 医療コミュニケーション演習、臨床検査学演習				
担当科目コマ数	11.1				
本年度の課題					
教育：現在受け持っている実習項目以外の検査項目について指導できるよう準備					
研究：新たな研究テーマの策定と研究時間の確保					
本年度の目標					
教育：心電図検査、超音波検査に関する更なる知識・手技の習得					
研究：新たな研究テーマの策定と研究時間の確保					
主な活動内容					
1. 目標達成に向けた活動内容					
教育活動では超音波検査士より技術指導を受けた。また心電図、超音波に関する新規図書を購読。研究活動では現環境で可能な研究課題の情報収集を行った。					
目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった					
2. 教員としての主な活動内容					

<p>1)教育活動</p> <p>生理学実習・生理機能検査学実習Ⅰでは実習前説明のためのスライドを改編し、実習内容や理解しておくべき事をより明確にした。生理機能検査学実習Ⅱでは、各検査項目の理解が深まるよう課題に関する解説を行った。</p> <p>研究テーマ：①認知症検診における近赤外光分析法を用いた脳内酸素化ヘモグロビン変化測定の有用性の検討、②ホルター心電図による自律神経機能の評価</p> <p>研究の現状：①データ収集中、②追加データの収集・まとめ</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照 学会発表（      回） 論文（      編） 著書（      冊）</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>社団法人兵庫県臨床検査技師会 学術部管理運営研究班班員 TOKIWA 健康フェアに参加</p>
<p>今後の課題</p> <p>教育：新カリキュラム移行に伴い実習科目が減るため、実習内容を再編成する。 研究：共同研究等の参画、研究時間の確保</p>

教員名	澤村 暢	所属学科等	医療検査学科	職名	助教
委嘱委員・職務	国試対策委員、就職委員、カリキュラム委員				
クラス担任		クラブ顧問	イムノヘマトロジー部副顧問		
担当科目名	血液検査学実習Ⅰ、血液検査学実習Ⅱ、医動物学・同実習、医療コミュニケーション演習、病原微生物学実習Ⅱ、臨床検査学演習				
担当科目コマ数	12.1				
本年度の課題					
研究時間の確保					
本年度の目標	新2号館実習室の整備・実習の円滑運用				
主な活動内容	<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>実習を行いながらの移転であったが、実習への影響を最小限にとどめることができた。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <p>・教育活動</p> <p>次年度から導入予定のOSCEに関する調査、立ち上げ準備等を行った。</p>				
2)研究活動	<p>研究テーマ：FGAノックアウト細胞を用いたフィブリノゲン合成・分泌に関する研究</p>				

<p>研究の現状：ノックアウトの効率が悪いので、効率を上げる工夫を考えている          本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照</p> <p>学会発表（ 2回） 論文（ 編） 著書（ 冊）</p> <p>3)社会的活動等          10/2 TOKIWA 健康フェアにて健康チェックを行った          平成 28 年度兵庫県精度管理専門委員会委員</p>
今後の課題
OSCE の立ち上げ

教員名	溝越 祐志	所属学科等	医療検査学科	職名	助教
委嘱委員・職務	入試委員、地域交流センター				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	遺伝子・染色体検査学実習、検査入門実習、微生物学実習、免疫検査学実習				
担当科目コマ数	15.4				
本年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一定の研究成果を得る。</li> <li>・実習の授業体系に工夫を凝らす。</li> </ul>				
本年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語論文を投稿し、アクセプトされる。</li> <li>・担当科目まなぶる▶ときわびと I を通して、 Team Based Learning の手法を学び、他の科目に反映できないかを考える。</li> </ul>				
主な活動内容	<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>①「阻害剤を用いたプレセプシン産生経路に関する in vitro 解析」 / 第 11 回日本臨床検査学教育学会学術大会</p> <p>②「細胞株を用いたプレセプシン産生系モデル確立に関する検討」 / 第27回臨床化学会近畿支部総会</p> <p>③ プレセプシン複合体の形成機序の解明 — 相互作用タンパクの同定 — / 神戸常盤学術フォーラム / 神戸常盤大学</p> <p>研究代表者として上記3つの演題の口頭発表をおこなった。ただし、目標の一つとしていた本年度中の論文投稿が間に合わなかったため本年度の目標として、論文投稿を引き続き設定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が能動的に実習に参加できるような授業形式を模索し、実施を行った。</li> </ul>				
目標達成度の評価	1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった				

## 2. 教員としての主な活動内容

### 1)教育活動

- ・ マナバを用いた課題提出及び、実習の結果配布を行い、実習時間の短縮を実現した。
- ・ 実験結果を予想させてから実習を始めさせることで、考える実習の実施を図った。

### 2)研究活動

研究テーマ：プレセプシンの産生機序の解明

研究の現状：細胞株において、プレセプシンを産生させる系を確立させた。現在は、培養細胞のゲノム編集を行い、プレセプシン産生に関与する因子の探索を行っている。

本年度の研究業績：学会発表

1. 阻害剤を用いたプレセプシン産生経路に関する in vitro 解析 / 第 11 回日本臨床検査学教育学会学術大会 / 兵庫
2. 細胞株を用いたプレセプシン産生系モデル確立に関する検討 / 第 27 回臨床化学会近畿支部総会 / 奈良
3. プレセプシン複合体の形成機序の解明 — 相互作用タンパクの同定 — / 神戸常盤学術フォーラム / 神戸常盤大学  
学会発表 ( 3 回 ) 論文 ( 編 ) 著書 ( 冊 )

### 3)社会的活動等

- ・ 健康福祉まつり 兵庫県臨床検査技師会 ( 2016. 10. 29, 30 )
- ・ シニア安心くらしセミナー 「脳の血流と笑いの関係～笑いは万能な処方箋～」講師 ( 2017. 1. 18 )

### 今後の課題

- ・ 英語論文を投稿し、アクセプトされる。
- ・ 学生に能動的な姿勢を持ってもらうための、授業展開を目指す。
- ・ 個別ディスカッションなどを取り入れ、内容が理解できていない学生へのフォローを厚くする。

教員名	三浦 真希子	所属学科等	医療検査学科	職名	助手
委嘱委員・職務	就職委員、臨地実習委員、卒業研究委員、KTU研究開発推進センター				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	病原微生物検査学実習 I・II、公衆衛生学実習、基礎検査学実習				
担当科目コマ数	13.0				
本年度の課題	基礎検査学実習は、実習室の変更、学生数、時間数の変更に伴い、内容を見直す必要がある。育児休暇からの復職 1 年目であるため、研究基盤を再構築する必要がある。				
本年度の目標					

<p>実習を円滑に進めるよう工夫をする。</p> <p>研究基盤を再構築するため、情報収集を含めた活動を行う。</p>
<p>主な活動内容</p>
<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>目標達成度の評価：1. できた ② ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <p>実習を円滑に進めることができるように試薬、器具類の準備を行った。</p> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：AZM耐性淋菌の分子遺伝学的解析による迅速診断法と迅速疫学診断法の確立</p> <p>研究の現状：菌株の確保、研究費の獲得に向け活動している。</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照</p> <p>学会発表（      回） 論文（      編） 著書（      冊）</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>TOKIWA 健康フェア「モバイルヘルスチェック」に参加</p>
<p>今後の課題</p>
<p>学会、研修、セミナー等で情報収集し、実習内容の充実と学びやすい実習環境づくりをはかる。</p> <p>研究費の獲得し、研究に費やす時間の確保をする。</p>

教員名	佐野 太亮	所属学科等	医療検査学科	職名	助手
委嘱委員・職務	国試対策委員、臨地実習委員、カリキュラム委員、細胞病理研究ユニット、学内安全対策委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	病理部		
担当科目名	検査入門実習、組織学・同実習、臨床病理検査学実習Ⅰ、臨床病理検査学実習Ⅱ				
担当科目コマ数	10.0				
本年度の課題					
<p>昨年度から行っている研究テーマの成果が得られるように、研究時間を確保するとともに、教育ではより学生が理解しやすいように日々情報収集を行う。</p> <p>また、細胞検査士養成課程の合格率を維持するため、試験対策をより充実したものにする。</p>					
本年度の目標					
<p>1. 研究時間の確保に努める。</p> <p>2. 国試対策では模擬試験結果を反映した問題集を作成する。</p> <p>3. 養成課程のオリジナルテキストの改定を行う。</p>					

<p>主な活動内容</p> <p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の基本的な知識を習得するため、電子ジャーナルの利用、学会での情報収取を行った。</li> <li>・模擬試験や問題集作成のため、データベースの見直しを行うとともに、ソフトウェアの発展的な技術習得のため、講演を聴講した。</li> </ul> <p>目標達成度の評価：1. できた <input checked="" type="checkbox"/> 2. ほぼできた <input type="checkbox"/> 3. あまりできなかった <input type="checkbox"/> 4. できなかった <input type="checkbox"/></p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <p>臨床病理検査学実習Ⅰ、臨床病理検査学実習Ⅱ、組織学・同実習の準備、レポート、スケッチの書き方のサポートを行った。</p> <p>細胞検査士養成課程では、1次試験筆記対策、筆記対策模試を行うと共に精神的なサポートを行い、学生の勉学以外のストレスの軽減に励んだ。</p> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：家族性多発性GISTモデルマウスのGISTからの初代培養系の樹立</p> <p>研究の現状：続行中</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照</p> <p>学会発表（ 1回） 論文（ 0編） 著書（ 0冊）</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>昨年度に引き続き、子宮の日（子宮頸癌検診啓発活動）で行う学生フォーラムの学生指導と当日の資料の配布のボランティアを行った。</p>
<p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育効果のさらなる向上</li> <li>・研究データのまとめ</li> </ul>

## 2. 保健科学部 看護学科

教員名	鎌田 美智子	所属学科	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	保健科学部学部長、運営委員会委員、高大連携委員会委員、入試合否判定委員 入試問題作成委員				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	【4大】看護学概論、基本看護技術IV（看護過程）、看護教育論、看護研究、看護活動基礎実習、基礎看護学実習（看護過程）、課題別総合実習 【短期大学部通信制課程】看護過程（スクーリング科目）				
担当科目コマ数	5.7				
本年度の課題	授業活動のエビデンスとなる研究活動の比重が少ない。				
本年度の目標・方針	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎看護学領域の教科運営の充実をはかり、その検証の継続。</li> <li>2. 学部運営の効果をはかり、あわせて個人の研究活動の比重を高める。</li> </ol>				
主な活動内容	<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎看護学領域の強化運営の充実とその検証 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 毎月1回の基礎看護学領域会議を主宰し、領域内教員（7人）らと「各授業内容の精選、授業方法、評価法」等に関して、討議・検討を重ねた。今年度は「看護教育評価」の考え方に関する学修を主導し、領域内の授業活動に活かした。</li> <li>(2) 基礎看護学科目 臨地実習のうち、基礎看護学実習は改編2年目 学生による授業評価（総合）では、「4.0」で、改編前の「3.4」からアップしている。また看護領域の科学性への感動や、興味深さ等の感想が多く、難解な印象の「思考することを思考する：診断過程」を学修することへの意欲が高まっている。</li> </ol> </li> <li>2. 学部運営の効果をはかり、あわせて個人の研究活動の比重を高める。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 昨年度から新設の「学部学科長会議2回／年」を継続。医療検査・看護学科の運営に関する課題を検討し、次年度への充実を考慮した。</li> <li>(2) 教育研究への取り組みの環境を高め、結果テーマ別研究に『看護学臨地実習科目におけるクライテリオン設定とその評価に関する調査研究』が採択された。さらにそれは「日本看護学研究学会第43回学術集会」に採択され、発表予定である。</li> </ol> </li> </ol> <p>目標達成度の評価：1. できた ②. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業等 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「看護学概論（1年次）」の授業評価における「総合評価」は「4・0」と昨年度より1ポイント上昇。毎回の授業欠席等は従来と変わらず少なく（1回：0.09人）</li> </ol> </li> </ol>				

毎回の授業感想・質問においても、1回の授業あたり128項目と多い。記述内容は看護学の奥深さや確立過程への興味や感動、今後の展望等が詳細に記載され、看護学への興味・関心・探求の姿勢は高いと思われる。成績評価では、昨年度より2.4ポイント高くまた再試験当者はごくわずかとなっている。この授業は概念的な内容が多く、難解な印象を与えるという科目上の特性があるが、以上のような状況から、「看護学・看護実践を概観し、看護への興味・関心探究を導く」といった授業のねらいは、ほぼ達せられたものと思われる。

- (2) 「基本看護技術Ⅳ（看護過程）：2年次配当・オムニバス」では「総合評価：4.1」と昨年とほぼ同様の状況であった。「看護教育論」は選択科目であるが、選択条件の変更により昨年度55人、今年度は68人が選択している（変更前6～10人）。総合評価は「4.0」と、昨年よりは0.6ポイント上昇しているが、変更前の少人数のゼミ「4.6」よりも大幅に低下している。講義形式のスタイル変化を工夫したつもりではあるが、やはり選択科目の場合、少人数を対象に、ディスカッションを中心に進めることが望ましいと思われる。しかし、現状の選択状況では今後さらに授業方法を検討する必要がある。

短期大学部通信制課程の「看護過程」では、総合評価「4.3」。自由記述欄においても「難しい内容だが、臨床で行っていることの意味が分かり、理論や看護の専門領域を深め学ぶことへの意欲と興味が高まった」等の、看護実践の中核となる方法論を学ぶ意義が多く寄せられていた。

#### ・研究活動

1. 研究テーマ：看護過程（看護診断）、看護行為の構造化、看護学生の臨地実習における思考力、臨床力に関する研究、看護学教育評価等
2. 研究テーマの現状：平成28年度テーマ別研究で採択「看護学臨地実習科目におけるクライテリオン設定とその評価に関する調査研究」が採択され、その結果は、平成29年「日本看護研究学会第43回学術会議（8月）」に採択され、発表予定である。
3. 専門領域：基礎看護学（看護学概論、看護過程、看護診断、看護歴史）、看護教育論、看護教育評価論、看護管理学、看護技術学

#### ・本年度の研究業績：

1. 日本看護研究近畿・北陸地方学術集會に採択され、発表
1. 28年度本学テーマ別研究に採択「看護学臨地実習科目におけるクライテリオン設定とその評価に関する調査研究」
2. 学会発表（ 2回） 学術論文（ 1編） 著書（ 冊）

#### ・社会的活動等

1. 読売新聞シンポジウム「心の看護が社会を変える。未来へのメッセージ」  
香山リカ氏ほかとともにシンポジスト（9月 大阪堂島ホテル）
2. 全国通信制学校協議会研修会講演（9月本学）
3. 日本私立看護系大学協議会理事

#### 今後の課題

授業活動のエビデンスとなる研究内容の公表が少ないことへの取り組み。

教員名	長尾 厚子	所属学科等	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	運営委員・通信教育委員・看護学科長・通信教育委員長				
クラス担任			クラブ顧問		
担当科目名	(通学課程) いのちと共生・看護対象論Ⅰ・看護活動基礎実習・生活健康論実習・基礎看護学実習(看護過程)・課題別総合実習・看護研究演習 (通信制課程) 看護教育指導技術・看護対人関係論・看護と研究 基礎看護学演習・基礎看護学実習				
担当科目コマ数	9.5 (CCN) 162時間				
本年度の課題					
1) 教育活動における授業内容の精選・授業方法の工夫 2) 研究テーマの追求に向けて研究活動を実施する。					
本年度の目標					
1. 担当科目における教育内容及び教育方法の充実を図る。 2. 研究活動の実施					
主な活動内容					
1. 目標達成に向けた活動内容					
1) 担当科目における教育内容及び教育方法の充実					
①看護対象論Ⅰ」におけるSP(模擬患者)演習の充実					
昨年度から本学の地域交流事業の一環として、地域ボランティアと「SP養成講座」を受講された方の内11名が「看護対象論Ⅰ」の模擬患者として参画していただいた。模擬患者とのセッションは全員が実施し、全員の学生が「とても良かった」と回答した。臨場感あふれる授業内容がコミュニケーションの苦手な学生への効果的な学習方法であることが確認でき、各自がSP・教員のフィードバックから今後の課題も見いだせている。本学での「SP養成講座」の継続が必要である。					
②「看護教育指導技術」(通信制課程スクーリング科目)					
本学・京都・東京と会場により受講者数が異なるため、教育内容の精選・教育方法の充実を図った。					
2) 研究活動の実施					
①テーマ別研究(共同研究)					
「看護学臨地実習科目におけるクライテリア(到達基準)設定とその評価に関する調査研究」をテーマに、研究活動を実施した。					
②公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団 2015年度在宅医療助成(後期)一般公募の研究資金による研究(共同研究)					
「へき地で勤務する看護職者に関する研究—都市部から着任してきた人たちへの経験と学びのプロセスに着目して—」をテーマに、研究活動を実施した。					
目標達成度の評価: 1. できた ②. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった					
2. 教員としての主な活動内容					
1)教育活動					

<p>(通学課程) ①「いのちと共生」は1年次前期に開講され、受講者数が医療検査学科・看護学科合わせて128名となり教育方法に工夫を加えた。</p> <p>②「看護対象論Ⅰ」は、SP(模擬患者)演習の充実を図った。</p> <p>③「基礎看護学実習(看護過程)」は、施設との調整を図り、実習内容の充実を図った。</p> <p>(通信制課程) ①「看護教育指導技術」は、本学と地方会場の受講者数の違いにより、教育方法の工夫を図った。</p> <p>④基礎看護学実習では、スクーリング内容の充実を図った。</p> <p>⑤テキスト科目である「看護対人関係論」「看護と研究」「基礎看護学演習」は、添削指導の充実を図った。</p> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：①実習評価に関する研究②へき地で勤務する看護職者に関する研究 ③看護学科通信制課程卒業生の学修成果の研究④対人援助者としての能力育成に関する研究</p> <p>研究の現状：①テーマ別研究「看護学臨地実習科目におけるクライテリア(到達基準)設定とその評価に関する調査研究」に採択され、調査を実施、成果をまとめ次年度学会発表予定②2015年度在宅医療助成(後期)一般公募「在宅医療研究への助成」に採択され研究成果をまとめ、学会発表③調査終了し一部を日本看護学教育学会で発表、さらに分析を続行中。④SP参加型演習の実施による対人援助者としての能力育成に関する成果を雑誌に掲載。</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照</p> <p>学会発表(2回) 論文(1編) 著書( 冊)</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>看護協会主催の看護教員養成講習会において「2年課程(通信制)の教育内容・方法について講演。</p> <p>今後の課題</p> <p>1. 新しい基盤教育分野の「いのちと共生」を実施し、ときわコンピテンシーの到達度を確認する。</p> <p>2. 1以外の授業科目の授業内容の精選・授業方法工夫を図る。</p> <p>3. 研究テーマの研究活動を継続する。</p>
--

教員名	森松 伸一	所属学科	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	健康保健センターセンター長、研究倫理委員会副委員長、入試委員、看護学科学生研究倫理委員会(学研委員会)委員長、高大連携委員、担任統括				
クラス担任	1年生Aクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	看護病理・病態学、症候論Ⅰ、感染看護学、病原微生物検査学Ⅰ・Ⅱ、感染制御学、臨床病態学Ⅰ(分担)、総合医学検査特論(分担)、人体のふしぎ(分担)、臨床検査学(分担)、国際保健医療活動Ⅰ・Ⅱ(分担)				
担当科目コマ数	9.3				

<p>本年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・N科1年生対象の後期授業科目（感染看護学、看護病理・病態学）はどちらも未だ医療についての知識や理解が乏しい時期に開講されることから、解剖生理学とも協調を取ってわかりやすい授業に持って行く。</li> <li>・使用している教科書の改定・執筆を行う。</li> </ul>
<p>本年度の目標・方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スキルとして相変わらず評価が低い板書について改善・努力する。</li> <li>・サン・ラザロ病院（フィリピン）との学術協定締結後も国際的な視野に立った研究活動や大学コンソーシアムひょうご神戸関連の国際学外活動を充実させる。</li> </ul>
<p>主な活動内容</p> <p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>「学生による授業評価」での評価点は低いものの上昇傾向にあり目標は達成されつつあるものと思われる。サン・ラザロ病院との学術協定締結後の国際学外活動（大学コンソーシアムひょうご神戸）に結びつけたことは評価できるが看護コースの応募者が少ないことが課題となる。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動</li> </ul> <p>主な教育活動内容として担当科目はそれぞれにシラバスを作り、パワーポイントや教科書などの資料に基づいて講義を行っている。また受講票カードにタスクとして前回の授業の重要ポイントや基本事項を質問後にまとめさせると共に出席カードとしても利用している。講義はポイントを押さえ、できるだけ分かり易く、また重要項目は繰り返し強調するようにして行っている。</p> <p>「学生による授業評価」では態度教育として特に授業中の態度について重きを置いており最初の授業の中で学生との間で約束として取り決めている。この指導のためか学生の評価は全体的に低い（「学生へのメッセージ」参照）。また、特に1年生対象科目は臨床科目が前期にないため、理解が難しいことも要因の一つかと思われる。これは「学生による授業評価」でカテゴリー別授業評価結果の内の総合評価を見ても明らかであるが、年度を追う毎に点数は上昇してきている。各学科平均よりも低い点数については自分が力を入れて準備して伝えなかったメッセージが学生にうまく伝わらなかった結果として、もっと努力しなければと思っている。N科1年生対象の後期授業科目（感染看護学、看護病理・病態学）はどちらも未だ医療についての知識や理解が乏しい間に開講されることも考えられる。特にスキルとして相変わらず評価の低い板書についてはさらに学生に分かり易いようになるよう、これからもPDCAサイクルを利用して改善・努力していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究活動</li> </ul> <p>研究テーマ：感染制御および感染制御技術の臨床へのフィードバック</p> <p>研究テーマの現状：これまでのHIVやMRSA、<i>Helicobacter pylori</i>などの病原体そのものを用いた研究から、学生実習などを基にしたアンケートなどの解析を中心とした論文作成に大きく変わってきている。このため論文としてまとめ上げる活動は少なくなってきたお</p>



<p>健スポでは、歩数計を活用したため、受講生が運動量を把握できた。そのことが、学生の学習を喚起したと思われた。また、障害者スポーツを導入したことにより、障がい者の理解度が高まった。</p> <p>・研究活動</p> <p>研究テーマ：歩行支援機を活用した介護予防プログラム開発</p> <p>研究テーマの現状：</p> <p>現在、歩行支援機（ACSIVE）を使用して、歩行困難者の方が、歩行を簡便にできることを目指している。また、ウェアブル脳波計を使用して、知症患者と視覚障害者との会話時の脳活性度について研究している。</p> <p>専門領域：運動生理学，教育学</p> <p>本年度の研究業績：</p> <p>＜研究テーマ：1. 一般社団法人による地域住民の健康支援を目的としたウォーキング活動 2.歩行支援機を有効に使うことの重要性。 3.視覚障がい者の世界を広げるブラインドポールウォーキングナビゲーター</p> <p>学会発表（ 3 回） 学術論文（ 2 編） 著書（ 冊）</p> <p>・社会的活動等</p> <p>毎日放送「サタデープラス」など出演， 神戸市社会福祉協議会講演 など 他 30 本</p>
<p>今年度の課題</p>
<p>研究テーマである，</p> <p>1.. 歩行支援機を活用した介護予防プログラム開発</p> <p>2. 認知症介護予防プログラムの完成を目指す。</p>

教員名	尾崎 雅子	所属学科	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	教務委員会 副委員長				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	(大学) 基本看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、看護活動基礎実習、生活健康論実習、基礎看護学実習(看護過程)、課題別総合実習、看護研究(短大部) 看護通信制課程スクーリング「看護過程」				
担当科目コマ数	17.3				
本年度の課題	効果的な教育内容や方法の検討(継続) 研究活動への継続した取り組みおよび新たな課題への取り組み				
本年度の目標・方針	学生の興味・関心を刺激し、学修効果のある授業内容の精選と方法の工夫。 研究活動では次の公表に向けた論文作成				
主な活動内容	1. 目標達成に向けた活動内容 授業内容に対する学生の反応や評価結果から学生の関心度や理解度をもとに教育内容や方法の検討を行った。研究活動では関連研究会へ参加し、新たな論文作成へ取				

<p>り組んだ。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. <u>ほぼ</u>できた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1) 教育活動</p> <p>「基本看護技術Ⅳ（看護過程）」では学習の目的を意識させながら、昨年と同様に進めた。教材として作成した事例を用い、学生個々の到達状況に応じて時間外の学習支援を行った。学生からの授業評価は昨年と差はなかった（総合4.1）。しかし、グループ学習では「グループでの話し合い」が学習の助けになったという意見とそうでない意見に分かれた。何が学べて分からないことは何かを学生自身も確認しながら学習を進める工夫が必要であると感じた。また「基本看護技術Ⅰ（生活援助技術）」では時間外を活用して技術修得へのサポートを行った。先述した科目と同様、取り組みによる成果と課題が学生自身にも把握できるような方法の工夫が必要だと考える。</p> <p>2) 研究活動</p> <p>研究テーマ：1) 看護技術教育の教育方法の工夫と効果について 2) 看護の人間学—東洋的な視点での捉え直し—</p> <p>研究テーマの現状：1) 次年度研究遂行への準備 2) 論文執筆と共著による著書の作成準備</p> <p>専門領域：基礎看護学</p> <p>本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照</p> <p>テーマ別研究：『看護学臨地実習におけるクライテリア（到達基準）設定とその評価に関する調査』へ共同研究者として参加</p> <p>学会発表（ 0 回） 学術論文（ 0 編） 著書（0 冊）</p> <p>3) 社会的活動等</p> <p>(1) 兵庫県看護協会「まちの保健室」（本学拠点）ボランティア</p> <p>(2) はすいけデイサービスにおける神戸市介護予防事業（口腔機能向上プログラム）</p> <p>(3) 平成28年度兵庫県専任教員養成講習会「臨地実習指導における教育方法（基礎看護学）」の講師</p> <p>今後の課題</p> <p>担当する授業科目において、教育内容・方法の検討と共に評価についても検討し「学びの見える化」に取り組む。研究活動については教育活動との関連で新たな課題について取り組む。</p>
---

教員名	畑 吉節未	所属学科	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	FD委員長 就職委員長				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	在宅看護学概論・在宅看護特性論・在宅援助論・精神看護学概論・看護研究方法論・看護研究演習・看護活動基礎実習・健康支援実習Ⅰ・課題別総合実習				
担当科目コマ数	19.0				

本年度の課題
在宅看護学・災害看護学をはじめ、自らが担当し研究を行っている分野に関して、さらなる研究の蓄積を図り、国内外に発信するとともに、教育内容に反映させる必要がある。
本年度の目標・方針
1) 研究成果を論文として外部により多く発信する。 2) 研究を深め、その成果を教育に反映させる好循環を生み出し、学生に還元する。 3) FD委員長として3年目の役割を確実に遂行する。 4) 大学内部・関連機関への研究支援を行う。
主な活動内容
<p><b>a. 目標達成に向けた活動内容（目標ナンバーと対応）</b></p> <p>1) 16回の学会発表、11本の論文を発信した。外部研究資金は継続中の3つの科研と新たな4つの助成研究に取り組んだ。</p> <p>2) 「災害看護」と「在宅看護」の授業や病院研修に、研究の成果を活用し研究と教育との循環を生み出すことができた。特に熊本地震の支援の実際を講義に反映できた。</p> <p>3) 3年目のFD委員会委員長としての役割を計画的に遂行した。SDの義務化に伴う新たなSD委員会の在り方への提案を行った。</p> <p>4) 学科内での共同研究としてのテーマ別研究3本、香川大学医学部の修士課程性への論文指導、東京都・熊本・神奈川県の訪問看護代表者との共同研究、外部講演14本</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. <span style="border: 1px solid black;">ほぼできた</span> 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p><b>b. 教員としての主な活動内容</b></p> <p>・教育活動</p> <p>[授業総合評価]単 独 科 目：在宅看護概論4.8 / 災害看護5.0 オムニバス科目：在宅看護援助論3.0 / 在宅看護特性論4.1</p> <p>[健康支援実習Ⅰ] 事前学習指導を強化し実習評価点を向上と非常勤講師への指導</p> <p>・研究活動</p> <p>究テーマ：「災害看護教育プログラムの開発」「訪問看護ステーションの災害への備え」 「POCTが創出する新たな在宅看護像」</p> <p>研究テーマの現状：テーマごとに研究の全体像を描き、計画的に研究を遂行している。</p> <p>専門領域：看護教育方法論の開発・評価、看護対人技能、災害看護、在宅看護</p> <p>・本年度の研究業績</p> <p>[科研]</p> <p>①基盤研究C(研究代表者)：災害時ハイリスク在宅療養者に持続可能な在宅ケアを提供する基本モデルの構築</p> <p>②基盤研究C(分担者)：在宅療養高齢者に対する生活の質向上のためのチームアプローチの自己評価指標の開発</p> <p>③挑戦的萌芽研究(分担者)：野外教育・防災教育を通じた「いのちの教育」の開発—評価尺度作成と日常化への挑戦—</p> <p>[その他の外部研究資金・学内競争資金支援研究]</p>

<p>①財団法人在宅医療助成勇美記念財団 研究代表者「在宅療養者・家族のための大規模災害の備えの現状と課題」</p> <p>②学内テーマ別研究テーマ（共同）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携室実習指導者の学習支援の構造</li> <li>・在宅で生活する精神障がい者と家族のストレスに焦点を当てた支援方法の検討 — 訪問看護師のストレスへの着目点とケアの成果 —</li> <li>・精神障がい者に対して「人間対人間としての深い関心を寄せる力」の構成要素の検討 — ケアリング倫理の視点から —</li> <li>・学会発表（16回, 内国外1） 学術論文（11編） 著書（冊）</li> <li>・社会的活動等</li> </ul> <p>[講演・研修会講師・シンポジスト]</p> <p>①神戸常盤女子高等学校父兄会講演「看護のまなざし」</p> <p>②川崎病院看護部研修会「看護を語ることの意味」</p> <p>③川崎病院研修会：災害訓練の指導</p> <p>④川崎病院看護部研修会「後輩の学びと成長を育む指導力」</p> <p>⑤川崎病院：「語り部シンポジウム in 川崎病院」シンポジウムコーディネータ</p> <p>⑥川崎病院：「語り部シンポジウム in 川崎病院」基調講演「阪神・淡路大震災を語る — 川崎病院の物語から川崎病院の経験知へ —</p> <p>⑦熊本市訪問看護ステーション連絡協議会：「被災地での支援者の心のケア」</p> <p>⑧神鋼記念病院看護部研修：「ケアのタペストリーを織りなす看護者のまなざし」</p> <p>⑨熊本県訪問看護ステーション連絡協議会：「災害経験を生かし新たな備えを考える — 私たちは災害から何を学び、何を伝えるのか —</p> <p>⑩みどり病院：「後輩育成のコミュニケーションスキル」</p> <p>⑪兵庫県立総合リハビリテーション中央病院：「ナラティブー看護臨床からのまなざしー」</p> <p>⑫神戸在宅医療・介護推進財団：「災害経験を生かし新たな備えを考える」</p> <p>⑬災害医療通訳セミナー：基調講演「災害時における医療の現場 — 過去の災害対応事例をもとに —」、ワークショップ企画</p> <p>⑭熊本地震支援報告会シンポジスト：「そのとき、災害看護の現場で」</p> <p>[学会活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本看護学会 論文選考査読委員、優秀論文選考ワーキンググループ委員</li> </ul> <p>[外部機関への研究支援]</p> <p>熊本県訪問看護連絡協議会 / 熊本市訪問看護連絡協議会 / 東京都訪問看護災害対策委員会 / 帝人訪問看護ステーション / 香川大学医学部医学系研究科</p>
<p>次年度の課題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 研究成果を論文として外部により多く発信する。</li> <li>2) 研究を深め、その成果を教育に反映させる好循環を生み出し、学生に還元する。</li> <li>3) FD委員長として4年目の役割を確実に遂行するとともに義務化するSDとの調和を図る。</li> <li>4) 大学内部・関連機関への研究支援を行う。</li> </ol>

教員名	庄司 靖枝	所属学科等	看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	教務委員、実習委員、就職委員、KTU委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	小児看護学概論、看護対象論Ⅴ、小児援助論、母子支援実習Ⅰ 母子支援実習Ⅱ、健康支援実習Ⅱ、課題別総合実習、看護研究 看護活動基礎実習、				
担当科目コマ数	21.3				
本年度の課題	<p>学生が実習で実践できる看護計画の立てられるような、講義演習の見直しを行う。</p> <p>「小児がんの子ども転籍に関わる人の体験や思いの調査」の教員の調査をまとめる 母子支援実習Ⅱの学生からの実習評価の結果をまとめ、短期実習の有用性の検討をする</p>				
本年度の目標	<p>学生の小児看護の実践力を養うための演習・講義の見直しと構築</p> <p>「小児がんの子ども転籍に関わる人の体験や思いの調査」の子どもに関する自分の研究の分析とまとめ</p> <p>母子支援実習Ⅱの短期実習に関する有用性のさらなる分析</p>				
主な活動内容	<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育に関しては卒業生を演習に参加してもらい、より実践を考慮した演習を取り入れることが出来た。</li> <li>・母子支援実習Ⅱの実習評価のアンケート結果からの短期実習の有用性を踏まえ、単位修得後の学生にその内容について詳しくインタビューし調査した結果を加えて、有用性を昨年から引き続き分析している。</li> <li>・学生が実習で実践できる看護計画の立てられるような、講義演習の見直しについては、臨床経験4～5年の卒業生を迎え演習に参加してもらうことで、臨地実習を考慮した演習の工夫ができた。加えてこの演習に関しても学生にアンケートを行い、卒業生を加えた演習の効果について調査を行った。</li> </ul> <p>しかし、「小児がんの子ども転籍に関わる体験や思いの調査」に関しては、特別支援学校の教員への調査は終了するも、まとめることはできていない。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. <u>あまりできなかった</u> 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小児援助論の演習では従来の人形を使うような一並びの演習ではなく、実習で受け持ち学生が苦慮する事例を提示した。その事例の看護計画をグループで話し合い、計画を立て発表する演習を行った。その演習に卒業生が参加し、より実践に近い助言や計画実践の方法を学ぶことが出来た。実習で会うことが出来る卒業生の参加は、学生の実習への意欲につながったり、学生のロールモデルとなっていた。</li> </ul> <p>2)研究活動</p>				

<p>研究テーマ1：「小児がんの子どもの転籍に関わる人の体験や思いの調査」  研究テーマ1の現状：上記の特別支援学校教員の調査の分析はまだまとめられていない  研究テーマ2：小児看護学における短期間の臨地実習の検討 - 学生実習評価アンケートより -  研究の現状2：前年度のアンケートをもとに卒業生から上記のインタビュー調査を行った  本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照</p> <p>学会発表（      回） 論文（      編） 著書（      冊）</p> <p>3)社会的活動等  兵庫県看護協会「平成28年兵庫県専任教員養成講習会」の教育方法の講師（8月）  兵庫県看護協会「まちの保健室 子育て支援」（6月、10月）  神戸大学周産期センター「かるがもの会」に学生と参加し、共同企画も行った（9月）  小児がんの子どもの親の会（さくらんぼの会）ボランティア（親の会と共同で小児がんの子どもたちに、クリスマス会を本学生とともに開催）（12月）を行った</p>
<p>今後の課題</p> <p>教育活動に関して  学生の小児看護の実践力を養うための演習・講義の見直しと、その一環として実習への実践力を強化するための卒業生を交えた演習の構築を引き続き行う。  学生の自宅での学習時間を増やすための課題や小テスト、リフレクションの工夫を行う  上記の演習後アンケート調査を行い、より効果的な演習になるように精錬していく。</p> <p>研究活動に関して  研究テーマ1、2を論文としてまとめていく。  教育活動の「卒業生を交えた演習」の効果に関して調査・分析も行う。</p>

教員名	生島 祥江	所属学科	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	ハラスメント防止対策委員会委員長、個人情報保護委員、看護学科臨地実習委員会委員長				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	成人看護学概論、看護対象論Ⅱ、慢性病看護論、緩和ケア、リハビリテーション看護論、療養支援実習Ⅱ、療養支援実習Ⅲ、課題別総合実習、看護活動基礎実習、看護研究				
担当科目コマ数	26.5				
本年度の課題	学内授業・臨地実習を通して考える学生を育てる				
本年度の目標	前年度に引き続き考える学生を育てる授業内容・方法の工夫。臨地実習における学生の倫理的配慮を養う。				
主な活動内容					

<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>基礎知識を manaba 上のドリル問題や授業中の小テストにより学生とともに確認できるようにし、授業時間ではグループワーク・発表の時間を多く持つようにした。臨地実習指導では、学生がカンファレンステーマを決める際から介入して、看護を考えるカンファレンス内容になるよう関わった。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた <b>3. あまりできなかった</b> 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <p>チューター学生に対し、看護師・保健師国家試験合格に向けて学習支援を行った。今後の実習指導に生かす目的で、今年度は実習後に学生から任意で実習指導に対するアンケートをとった。</p> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：臨地実習に向けた学内演習のあり方の検討</p> <p>研究の現状：資料収集</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照</p> <p>学会発表（ 回） 論文（ 編） 著書（ 冊）</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>兵庫県看護協会「まちの保健室」ボランティア</p> <p>今後の課題</p> <p>教育活動では、引き続き考える学生を育てる授業内容・方法の工夫、研究活動では研究時間の確保。</p>
--

教員名	黒野 利佐子	所属学科	看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	FD委員・国際交流委員・国家試験試対策副委員長・就職委員				
クラス担任	3年主任 Aクラス担任	クラブ顧問	英語同好会・陸上部		
担当科目名	国際看護活動論・国際医療活動論II・看護技術I/II/IV・活動基礎実習・看護研究・課題別実習・生活健康援助論				
担当科目コマ数	16.7				
本年度の課題	・国家試験対策におけるきめ細やかな個別の支援・自己の研究活動				
	基礎看護技術演習 I/II の指導の一環をしっかりと担う				
本年度の目標・方針					
	基礎看護技術演習 II では、看護技術の必要性・意義を解剖生理から理解できるような講義・演習を工夫する				
主な活動内容					
	a. 基礎看護技術演習の授業は、本年度で二年目、講義の担当にも加わり技術演習指導も、参考書や視聴覚教材など補充しながら昨年よりは、知識も技術面でも工夫しながら教えることができた。				
	目標達成度の評価：1. できた ②. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった				
	b. 教員としての主な活動内容				



意工夫ある授業づくりを実践していきたいと決心し実行してきたつもりである。しかし今年度の国試不合格者は5名と昨年度より増えた。不合格者の面々を見るとそれまでの模試の成績低迷者4名に、卒業必須単位習得に二倍の時間を要した留年生1名であった。このような学生達には国試対策に絞った私塾に通わせたり、試験直前の一か月ほど大学の一室に缶詰め状態で学習させて個別指導と称していたが、今一步合格ラインに達しなかった。本年度は個別指導が目標であったのに、私自身が締め切りを遠く過ぎてなかなか大学にこない留年生の看護研究に振り回されつづけ、情けない結果となった。来年度は私が学生主任を務める学年の受験である。やはり成績低迷者の徹底した個別の支援～とくに研究と国試対策を含めたスケジュール管理とそれぞれの学習課題の把握～が合格に直結するものであると改めて考えさせられた。

「都会から移住してへき地で勤める看護師の学びのプロセス研究」は、伊東助教とジョイント研究という形をとっているが、実質的には伊東助教のご尽力の成果にコメントをする程度でとてもジョイント研究の体をなしていない。来年度5月は佛教大学で国際医療社会学会が開催される。この学会発表に臨んで2月からやっと文献検索・抄読をはじめ準備に取り掛かった。来年度こそは、自分が主体となって発表できる研究成果をあげられるよう努めてまいりたい。

教員名	岩切 由紀	所属学科等	看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務					
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	クリティカルケアⅠ・Ⅱ、看護研究方法論、看護研究、療養支援実習等				
担当科目コマ数	25.7				
本年度の課題	1. クリティカルケアⅠ・Ⅱのアクティブラーニング導入による授業展開法の転換 2. 外傷看護に関する研究の実施				
本年度の目標	1. アクティブラーニング導入による授業展開法および評価方法を実施する。 2. 研究計画後、倫理審査を経て研究を開始する。				
主な活動内容	1. 目標達成に向けた活動内容 必修科目：クリティカルケアⅠでは、講義から主体的に学ぶポートフォリオを活用した授業方法に変更した。これに従い評価方法も変更した。クリティカルケアⅡでも課題選定と探求を実施。看護研究方法論では、全ての対象学生が個別に研究テーマを絞り、研究計画を立案する演習をオムニバス教員で実施した。個別指導で指導を強化した。 看護研究：下記に示す研究テーマについて、計画立案し本学研究倫理委員会の承認後に研究を開始した。平成29年度がデータ収集と分析の期間となる。 目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった 2. 教員としての主な活動内容 1)教育活動				

療養支援実習Ⅱ・Ⅲ、課題別総合実習、看護研究は学生個々に段階的に指導した。
2)研究活動 研究テーマ：重症外傷患者に対する看護実践の構造分析 研究の現状：研究を開始し協力施設との調整中である。 本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 回） 論文（ 編） 著書（ 冊）
3)社会的活動等 日本救急看護学会評議員・査読委員／調査研究委員会委員 第18回日本救急看護学会学術集会 一般演題座長（平成28年10月30日） 同上 ワークショップ 「看護研究のためのステップアップ」講演、演習 兵庫県看護協会 兵庫県専任教員研修講師 成人看護（平成28年8月18日） 看護協会まちの保健室事業における活動（平成28年11月22日）
今後の課題
1. アクティブラーニングを取り入れた授業方法を拡大し、その実施と評価を行う。 2. 研究のデータ収集と分析を進める。補助的な研究計画の立案と実施。

教員名	谷口 由佳	所属学科等	看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	地域交流センター副センター長、学生委員、国家試験対策委員長				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	老年看護学概論、看護対象論Ⅲ（老年）、老年援助論、療養支援実習Ⅰ・Ⅱ、課題別総合実習、看護研究方法論、看護研究演習、看護活動基礎実習				
担当科目コマ数	16.6				
本年度の課題					
教育活動：担当科目における教育内容および教育方法の充実 研究活動：計画通りの着実な遂行					
本年度の目標					
教育活動：前年度の成果をふまえ、教育内容および教育方法のより充実を図る 研究活動：公費助成研究の計画的な実施					
主な活動内容					
1. 目標達成に向けた活動内容 教育活動では、前年度の教育内容を見直し、学生の理解を促す教育方法の工夫に努めた。研究活動では、文部科学省科研費補助金（基盤C）の助成を受けている研究を計画通りに実施した。 目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった					
2. 教員としての主な活動内容					
1)教育活動 学生が理解しやすい授業を目指して、科目の目的や目標を意識しながら、この授業でおさえるべき内容は何なのかを常に考え授業内容の精選に努めた。					

<p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：高齢者の終末期ケアに携わる看護職を対象にした教育支援に関する研究</p> <p>研究の現状：2施設にて実施、研究協力施設の開拓中</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照</p> <p>学会発表（      回） 論文（      編） 著書（      冊）</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>① 兵庫県看護協会神戸西部支部まちの保健室委員</p> <p>② はすいけデイサービスへのまちの保健室活動</p> <p>③ 神戸市介護予防プログラムへの従事</p> <p>④ 本学地域交流事業への参画</p> <p>⑤ 看護協会主催研修会の講師</p>
<p>今後の課題</p> <p>教育活動においては、今年度明らかになった課題の解決に向け、授業内容および方法の検討を継続する。研究活動においては、計画通り、着実に遂行する。</p>

教員名	高城 智圭	所属学科等	看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	教務委員会、実習委員会、保健師養成課程委員会				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	地域看護学概論、公衆衛生看護概論、公衆衛生看護展開論Ⅰ、公衆衛生看護展開論Ⅱ、公衆衛生看護展開論演習Ⅰ、公衆衛生看護展開論演習Ⅱ、公衆衛生看護実習Ⅰ、公衆衛生看護実習Ⅱ、看護研究、生活健康論実習、看護活動基礎実習				
担当科目コマ数	15.9				
本年度の課題	保健師養成課程の円滑な運営				
本年度の目標	保健師養成課程の教育内容および教育方法の充実を図る				
主な活動内容	<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>担当者間の密な連携による継続した教育の充実を行った。</p> <p>学生の関心が高まるような教育内容の工夫および学生の疑問への丁寧な回答を行った。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた (2.) ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <p>各担当科目について、学生がイメージしやすいよう、資料の分かりやすさに加え、事例を多く用いるなど工夫した。また、リアクションペーパーを使用し、学生の疑問や関心に丁寧に回答することで、学生の学習意欲を高めるよう工夫した。</p>				

<p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子育て経験者による切れ目ない支援－産前サポートを行う傾聴ボランティア養成プログラムの開発－</li> <li>2. 発達障がい児を育てる母親への支援</li> <li>3. 保健師による乳幼児を育てる母親への継続支援の特徴</li> </ol> <p>研究の現状：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. プログラムの開発および効果を検証した。</li> <li>2. 対象者へのインタビュー調査を実施した。今後、分析を行う。</li> <li>3. 論文投稿を行った。</li> </ol> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照</p> <p>学会発表（ 1 回） 論文（ 1 編） 著書（ 冊）</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>日本社会医学会 査読委員          神戸労災病院研修 講師          兵庫県看護協会研修 講師          大分県福祉保健部研修 講師          京都市上京保健センター研修 講師          IMS グループ実習指導者講習会 講師</p> <p>今後の課題</p> <p>保健師養成課程の円滑な運営を行う。</p>
--

教員名	鵜飼 知鶴	所属学科	看護学科	職名	講師
委嘱委員・職務	入試委員 臨地実習委員				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	在宅看護特性論、在宅援助論、生活健康論、健康支援実習 I、看護活動基礎実習、生活健康論実習、基礎看護学実習(看護過程)、課題別総合実習、看護研究				
担当科目コマ数	16.5				
本年度の課題					
教育活動：学生の主体的な学修支援					
研究活動：研究の成果発表と外部資金の獲得					
本年度の目標・方針					
教育活動：DVD等を効果的に取り入れたイメージ化した在宅看護援助技術の授業・演習を組み立てる。					
研究活動：地域連携実習での学びに関する研究を計画実施する。					

主な活動内容
<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>教育活動：DVDを活用した教育方法の実施</p> <p>研究活動：昨年度の結果を学会発表及び論文作成</p> <p>今年度の地域連携室での学びに関するデータ収集及び分析を実施</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <p>・教育活動</p> <p>生活健康論では、授業内容を再考し、資料を精選することにより授業評価の点数が向上した。また、家族の健康をまもるプロジェクトを実施し、学生は達成感を得た。在宅看護学では、イメージのつきにくい在宅現場の看護をDVDを用いて講義したが、学生には興味関心をひくのは難しいようであった。</p> <p>・研究活動</p> <p>研究テーマ：地域連携室実習での学生の学びと指導者の学習支援の構造</p> <p>研究テーマの現状：データ収集終了し分析中。学会発表に向けて抄録作成及び論文作成</p> <p>専門領域：看護教育学 在宅看護</p> <p>本年度の研究業績：</p> <p>テーマ別研究・ジョイント研究・科研・その他の外部資金</p> <p>＜研究テーマ： 地域連携室実習指導者の学習支援の構造 ＞</p> <p>学会発表（ 2 回） 学術論文（ 2 編） 著書（ 冊）</p> <p>・社会的活動等</p> <p>兵庫県看護協会「まちの保健室」（本学拠点）</p> <p>兵庫県立東灘高校 兵庫県立明石南高校講義(高大連携)「食事(栄養)と看護」</p>
次年度の課題
<p>教育活動：在宅看護に関する講義内容を精選し主体的に学ぶことが出来るよう工夫する。</p> <p>研究活動：昨年度から継続している研究の学会及び論文発表等により研究成果を発信する。</p>

教員名	藤原 桜	所属学科	看護学科	職名	講師
委嘱委員・職務	臨地実習委員会委員、広報委員会委員、国際交流センター委員、高大連携委員会（明石南高校担当）				
クラス担任	2年Aクラス（2年学年担任）	クラブ顧問	ヨガ・アロマ部		
担当科目名	基本看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、看護活動基礎実習、生活健康論実習、基礎看護学実習、課題別総合実習、看護研究				
担当科目コマ数	20.3				
本年度の課題	<p>1. 教育活動：反省的実践家を育む方略を具体的に考えて授業に取り入れる。</p> <p>2. 研究活動：テーマ別研究の論文公表。新たなる研究の計画。</p> <p>3. 社会活動：人々の健康とQOLに貢献できる活動を積極的に行う。</p>				

本年度の目標・方針
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育活動：反省的実践家を育む方略を授業に取り入れる。</li> <li>2. 研究活動：テーマ別研究の論文が公表でき、共同研究の成果が発表できる。</li> <li>3. 社会活動：人々の健康とQOLに寄与できるような活動が遂行できる。</li> </ol>
主な活動内容
<p><b>a. 目標達成に向けた活動内容</b></p> <p><b>教育：</b>基本看護技術Ⅲ（科目責任者）では、授業時間外でも技術練習が主体的にできるようシミュレーターを自由に使える環境を整えた（フィジコラボ開設）。また、授業内容のコアコンピテンシーが解るよう各単元修了後ミニテストを行った。結果、学生による授業評価では「学生自身の学習」：4.6「授業内容」：4.5「授業方法」：4.4「学習成果」：4.5「全体評価」：4.7と高い評価であった。さらに、単元を担当している基本看護技術Ⅰ、Ⅱではリフレクティブジャーナルを取り入れ反省的実践家を育む方略を実施した（評価未）。</p> <p>さらに、12月21日～29日まで大学の「ネパール交換研修生派遣プログラム」に参加した。また、神戸市看護大学の非常勤講師として、看護技術学概論の授業を担当した。</p> <p><b>研究：</b>神戸市看護大学との共同研究「看護技術学習用オリジナルビデオ教材の活用状況とその有用性」の成果を、看護学教育学会第26回学術集会（ポスター）で発表した。テーマ別研究の論文については執筆中（2017年2月現在）。</p> <p><b>社会：</b>明石南高校の「医療入門」で3回の授業を担当した。また、NPO法人神戸なごみの家主催「がんサロン」「認知症サロン」に計7回参加し、利用者にアロマハンドマッサージを行った。さらに、運営委員として会議に計3回参加した。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p><b>b. 教員としての主な活動内容</b></p> <p>・教育活動 基本看護技術Ⅰ～Ⅲの全ての演習を担当し、基本看護技術Ⅰ「清潔の援助」の単元、基本看護技術Ⅱ「与薬」「罨法」の単元、基本看護技術Ⅲ「呼吸器系フィジカルアセスメント」「循環器系フィジカルアセスメント」の単元の講義を担当した。</p> <p>・研究活動 研究テーマ：「肩こり感を体験している成人女性に対するヨガの効果」 研究テーマの現状：論文執筆中 専門領域：看護技術学 本年度の研究業績： テーマ別研究・ジョイント研究・科研・その他の外部資金 研究テーマ： 学会発表（1回） 学術論文（0編） 著書（0冊） 発表→神戸市看護大学との共同研究「看護技術学習用オリジナルビデオ教材の活用状</p>

況とその有用性」の成果を、看護学教育学会第26回学術集会（ポスター）で発表した。 於：京王プラザホテル（東京）
<p>・社会的活動等</p> <p><b>【講演】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅型有料老人ホーム「フォレスト垂水式番館」：暮らし安心セミナー（2017年3月15日予定）</li> </ul> <p><b>【非常勤講師】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・神戸市看護大学：看護技術学概論「看護技術の拡張－看護と補完代替療法－」の授業を担当。</li> <li>・兵庫県立明石南高校（高大連携）：「医療入門」で計3回の授業を担当</li> </ul> <p><b>【ボランティア】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本学健康フェア：アロマサークルの学生と地域住民にアロマハンドマッサージを行った。</li> <li>・本学大学祭：アロマサークルの学生と地域住民にアロマハンドマッサージを行った。</li> <li>・NPO法人神戸なごみの家主催神戸なごみカフェ：「がんサロン」「認知症サロン」で利用者にアロマハンドマッサージを行った。</li> </ul>
次年度の課題
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育活動：反省的実践家を育む方略の考案と実施。</li> <li>2. 研究活動：新たなる研究の獲得。論文執筆。</li> <li>3. 社会活動：人々の健康とQOLに対する貢献。</li> </ol>

教員名	阿児 馨	所属学科	保健科学部 看護学科	職名	講師
委嘱委員・職務	危機管理（災害）委員・自己点検評価委員・就職委員				
クラス担任	4年生クラス担任	クラブ顧問			
担当科目名	基本看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、看護研究演習、看護活動基礎実習、生活健康論実習、基礎看護学実習、課題別総合実習				
担当科目コマ数	19.5				
本年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生に良質のケアを保証するための教材研究。</li> <li>・基礎看護学実習において表現が上手くできない学生へのアプローチ</li> <li>・卒業年度を迎えたクラス担任としての支援活動。</li> </ul>				
本年度の目標・方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業において学生の思考を促進する学習活動を検討する。</li> <li>・実習において学生の経験の意味づけを行い、看護実践の学びを深化させる。</li> <li>・国家試験対策、就職活動に対しても情報を得て、支援と激励を行う。</li> </ul>				
主な活動内容	<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義、演習は、個人による事前学習、学生間で事例を深く読み必要な看護について考え、発表するという学習活動を取り入れた。基礎看護学実習において表現が不足、または現象が見えていない学生に対して対話やカンファレンスにより学びを深化するように関わることが出来た。4年生の国家試験対策や就職活動に関する情報交換を</li> </ul>				



<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>(1) について、精神看護特性論では、短時間のグループ討論と発表をこまめに行い、その都度コメントを返していった。ある程度の双方向授業が実施できたと思う。学生評価も前年度に比べると0.4~0.5ポイントのアップがみられた。精神援助論では、ミニワークを取り入れ、アクティブラーニングとしては変化を加えることができたが、授業内容によって、教員と学生との双方の交流が不足することがあった。</p> <p>(2) について、研究テーマ「在宅で生活する精神障がい者と家族のストレング스에焦点を当てた支援方法の検討—訪問看護師のストレング스에の着目点とケアの成果—」にて常盤大学テーマ別研究助成金を獲得し、データ収集を済ませ分析をすすめている。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <p>今年度は授業に発問やミニワークを積極的に取り入れたことにより、前年度に比べると双方向の授業が実施できたと思う。ただし精神援助論については、授業テーマのつながりの悪いところがあり、また、連続2コマ授業の配分がうまくいかず、講義とグループワークのどちらかに偏ることが多かった。このことは来年度の課題としたい。</p> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：①「在宅で生活する精神障がい者と家族のストレング스에焦点を当てた支援方法の検討—訪問看護師のストレング스에の着目点とケアの成果—」(平成28年度常盤大学テーマ別研究助成金)</p> <p>②「在宅看護における対応困難事例, 暴言, 暴力の現状と対策に関する研究」</p> <p>研究の現状：①在宅で生活する精神障がい者・家族に訪問経験のある看護師にインタビューを実施し、分析を進めている。②結果をまとめ学会発表, 論文作成中である。</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照</p> <p>学会発表 ( 3回 うち共同2回) 論文 ( 0 編) 著書 ( 0 冊)</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>兵庫県立総合衛生学院歯科衛生学科 非常勤講師 「健康心理学」4コマ</p> <p>今後の課題</p> <p>1. 精神援助論の授業内容と方法の見直しと改善</p> <p>2. 「在宅で生活する精神障がい者と家族のストレング스에焦点を当てた支援方法の検討—訪問看護師のストレング스에の着目点とケアの成果—」の研究結果のまとめ</p>
--

教員名	中村 晶子	所属学科等	看護学科	職名	講師
委嘱委員・職務	国家試験対策委員				
クラス担任	2年次	クラブ顧問	なし		
担当科目名	健康教育の理論と方法、公衆衛生看護展開論Ⅱ、公衆衛生看護展開論演習Ⅰ・Ⅱ、健康相談の理論と方法、公衆衛生看護実習Ⅰ・Ⅱ、看護研究				

	、看護活動基礎実習、生活健康論実習、基礎看護学実習(看護過程)
担当科目コマ数	16.8
本年度の課題	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健師養成課程の実習その他運営</li> <li>・委員会における役割の遂行</li> <li>・兵庫県看護系大学協議会公衆衛生看護学実習委員会副員長校としての役割の遂行</li> </ul>	
本年度の目標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習その他の運営を円滑に進める</li> <li>・保健師国家試験 100%合格を目指す</li> </ul>	
主な活動内容	
<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>保健師養成課程選択者の講義と実習を円滑に進めるため、日程および実習内容の調整等が必要であった。また国家試験 100%合格を目指して学生国試委員と話し合い、学生の学修支援を行った。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた ②. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <p>学生の実習Ⅰでの学びが十分に把握できないまま公衆衛生看護実習Ⅱを担当したが、臨地指導者の方々と調整し実習内容を組み立てることができた。また、公衆衛生看護実習Ⅰでは、講義での学びを踏まえた指導が実践できた。さらに健康教育の理論と方法では、健康教育の方法として企画書の書き方を通して必要性和根拠を思考できるよう取り組んだ。</p> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：①効果的なNPO活動のための協働—専門職によるNPO活動の実際から— ②協同学習法の導入効果</p> <p>研究の現状：公衆衛生看護</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 1回） 論文（ 1編） 著書（ 冊）</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>大阪市立大学共生社会研究会事務局</p>	
今後の課題	
<p>1. 教育活動：保健師養成課程の円滑な運営と課題に向けた調整 協同学習法による効果的な授業展開</p> <p>2. 研究活動：協同学習法に関するデータの整理、分析。新たな研究の計画</p>	

教員名	木村 聡子	所属学科等	看護学科	職名	講師
委嘱委員・職務	健康保険センター健康管理室，高大連携委員				
クラス担任	4年生Aクラス担任	クラブ顧問			
担当科目名	活動基礎実習，精神看護特性論，精神看護援助論，健康支援Ⅲ実習，課題別総合実習，卒業研究				

担当科目コマ数	22.4
本年度の課題	
学生の主体的学習を促す授業計画	
本年度の目標	
講義中心の授業から映像や画像を取り入れながら、学生が思考し、それを発言できる授業を行う。	
主な活動内容	
<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>関西FD連絡協議会で行われているアクティブラーニング研修会、ルーブリック評価研修会、グループワーク運営に関する研修会に参加</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：精神障がい者に対する学士絵の人間対人間の深い関心を寄せる力についての構成要素の検討</p> <p>研究の現状：収集したデータを分析中</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照</p> <p>学会発表（ 2 回） 論文（ 編） 著書（ 冊）</p> <p>3)社会的活動等</p>	
今後の課題	
<p>アクティブラーニングの強化と評価基準の明確化（ルーブリック評価等）</p> <p>精神科における倫理的課題についての研究をすすめる。</p>	

教員名	田中 智子	所属学科等	看護学科	職名	講師
委嘱委員・職務	臨地実習委員会				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	老年援助論				
担当科目コマ数	29.4				
本年度の課題					
修士論文を論文としてまとめる。平成28年度は、担当科目ではなく、実習指導に慣れる。					
本年度の目標					

自己の修士論文を論文化するために研究会に参加する。また、本学の方針を理解し、実習指導に慣れ、学生同士で教えあう場面を大切に指導する。
主な活動内容
<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>論文化するために研究会で2か月に1回アドバイスを受けながら仕上げる。          本学の方針は、入職前から学んでいたが、実習指導に慣れたかどうかは疑問はある。しかし、学生同士で教えあう場面を大切に指導はできた。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた ② ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動          実習指導</p> <p>2)研究活動          研究テーマ：心不全患者の患者教育          研究の現状：論文化に向けて作業中          本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照</p> <p>学会発表（2回） 論文（3編） 著書（なし冊）</p> <p>3)社会的活動等</p>
今後の課題
自分の担当科目である老年援助論の進め方の検討

教員名	西原 詩子	所属学科等	看護学科	職名	特任助教
委嘱委員・職務					
クラス担任			クラブ顧問		
担当科目名	基礎看護技術Ⅰ～Ⅳ、生活健康論実習				
担当科目コマ数	15.8				
本年度の課題	神戸常盤大学の看護教育の実際を知り、基礎看護学領域の助教としての役割を果たす。				
本年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習を通して、看護大学生の傾向を知り、関わる。</li> <li>・学生とコミュニケーションを円滑に行う。</li> </ul>				
主な活動内容	<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎看護技術Ⅰ～Ⅲの演習グループを担当。</li> <li>・基礎看護技術Ⅳのグループワークのファシリテーター</li> </ul> <p>目標達成度の評価：1. できた ② ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p>				

<p>1)教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記1と同様</li> <li>・第一看護演習室の整備</li> </ul> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：糖尿病と歯周病について</p> <p>研究の現状：介入研究ご論文作成し投稿</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照</p> <p>学会発表（ 2回） 論文（ 1編） 著書（ 冊）</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活健康論の講義を担当する</li> <li>・新たな研究計画書を作成する。</li> </ul>
---

教員名	伊東 美智子	所属学科等	看護学科	職名	助教
委嘱委員・職務	看護協会まちの保健室・大学地域交流事業（N科関連）				
クラス担任	1年生	クラブ顧問			
担当科目名	母性援助論、母子支援実習Ⅲ（母性）、課題別総合実習、基礎看護学実習（看護過程）、看護活動基礎実習				
担当科目コマ数	28.3				
本年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生Bクラスの担任として、新入生への目配りができるように心掛ける。</li> <li>・臨地実習では、学生個々に合わせた支援を行う。</li> </ul>				
本年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス担任としての役割が果たせるように努力する。</li> <li>・主に母性看護学実習（課題別実習、領域別実習）での学生の学修を支援する。</li> </ul>				
主な活動内容	<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生を担任するに当たり、年度当初に個人面談を実施した。しかし、夏以降は担任自身が臨地実習に出てしまうため、実質的なフォローが出来ていない。</li> </ul> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各実習では個々の学生のレベルや状況に合わせた指導が出来るように、直属上司や科目担当教員と連絡を取り合いながら取り組んだ。</li> </ul> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：①母性看護学 ②へき地看護</p>				

<p>研究の現状：</p> <p>① 分娩見学実習を体験した学生にグループインタビューを実施し、2017年6月の母性看護学会にて研究予定である。この取り組みは次年度、さらに発展させる予定。</p> <p>② へき地看護に関するデータ収集を、隠岐諸島、小豆島、沖縄にて実施し、3月の文化看護学会にて発表予定である。</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照</p> <p>①は本校テーマ別研究費、②は昨年度に獲得した外部研究費で各々取り組んだ。</p> <p>学会発表（3回） 論文（1編：現在査読中） 著書（共同著書1冊：現在編集作業中）</p> <p>3)社会的活動等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本学まちの保健室活動（子育て支援）に6月と10月の2回協力した。</li> <li>・オリーブ島の地域交流合宿に8月17～18日、協力者として参加した。</li> </ul>
<p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生の担任および母性看護学教員として、学生個々に合わせた関わりに務める。</li> <li>・研究発表したものを逐一論文に仕上げ、それぞれの学会に投稿する。</li> </ul>

教員名	紀ノ岡 浩美	所属学科等	看護学科	職名	助教
委嘱委員・職務	国際交流委員会 学生委員会				
クラス担任			クラブ顧問		
担当科目名	公衆衛生看護展開論演習Ⅰ・Ⅱ 療養支援実習Ⅱ・Ⅲ				
担当科目コマ数	33.8				
本年度の課題	大学院修士課程の研究計画書の作成				
本年度の目標	研究計画書を作成する				
主な活動内容	<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>文献検討</p> <p>目標達成度の評価：1.できた 2.ほぼできた 3.あまりできなかった 4.できなかった 4 できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <p>他専門学校における成人看護方法論の講義</p> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：効果的な動機づけによる学習習慣の促進</p> <p>研究の現状：まったくすすんでいない</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照</p> <p>学会発表（0回） 論文（0編） 著書（0冊）</p>				

3)社会的活動等 なし
今後の課題
引き続き研究計画書の作成を目指す。

教員名	笹尾 裕美	所属学科等	看護学科	職名	助教
委嘱委員・職務	国試対策委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	なし				
担当科目コマ数	24.7				
本年度の課題	助教の業務について理解する 小児看護について理解する				
本年度の目標	助教の業務について理解する 小児看護について理解する				
主な活動内容	<p>1. 目標達成に向けた活動内容 年度末にかけての助手・助教業務について指導を受けながら実際に行った</p> <p>目標達成度の評価：1. できた <span style="border: 1px solid black;">2. ほぼできた</span> 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動 領域別実習で領域の教員より指導を受けながら学生指導を行った</p> <p>2)研究活動 研究テーマ： 研究の現状： 本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照</p> <p>学会発表（ 0 回） 論文（ 0 編） 著書（ 0 冊）</p>				
今後の課題	小児看護について理解を深める				

教員名	松岡 真菜	所属学科等	看護学科	職名	助手
委嘱委員・職務	健康管理室、地域交流センター				
クラス担任	4年生Aクラス副担任	クラブ顧問	なし		
担当科目名					
担当科目コマ数	29.7				
本年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学内演習、臨地実習などの教活動を理解する。</li> </ul>				
本年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動に必要な準備を行うことが出来る。</li> <li>・指導のもと学生に対する指導を行うことが出来る。</li> </ul>				
主な活動内容	<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーションや指導を受けながら、講義や演習、臨地実習に関する準備を行い、学生指導をおこなった。</li> </ul> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <p>療養支援実習では、学生の看護展開能力に合わせて、臨地の現象が理解できるよう指導を受けながら関わり、学生の学びへと結びつけ、実践へと繋げた。また、学習が困難な状況の際は、学生が困難に感じている事を共有し、解決方法を見出すように支援をすることが出来た。</p> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：心肺蘇生法 学生の学習効果</p> <p>研究の現状：検討中</p> <p>本年度の研究業績：成人看護学</p> <p>学会発表（      回） 論文（      編） 著書（      冊）</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>神戸常盤大学まちの保健室活動</p> <p>今後の課題</p> <p>自己研鑽や探究する能力の育成</p>				

教員名	井上 裕子	所属学科等	看護学科	職名	助手
委嘱委員・職務	国家試験対策委員会				
クラス担任	1年生Bクラス 副担任	クラブ顧問	なし		
担当科目名	母子支援実習Ⅰ・Ⅱ、健康支援実習Ⅱ、課題別総合実習、看護活動基礎				

	実習
担当科目コマ数	25.8
本年度の課題	
学内演習、臨地実習等の教育活動に対する理解を深め、実践する。	
本年度の目標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動に必要な準備を行うことができる。</li> <li>・実習指導は、指導のもと、個々の学生に応じた指導を行うことができる。</li> </ul>	
主な活動内容	
<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導の下、講義・演習、臨地実習に関する準備、指導を行った。</li> </ul> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた ③あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <p>学内演習などの事前準備は、問題なく行うことができた。臨地実習の場面では、指導の下、個々の学生の看護展開における理解力、行動力を判断し、指導にあたることができた。しかし、学生全員に適切なタイミングで指導することが困難な場面もあった。そのため、今後はもう少し自分の中で優先順位明確にし、学生指導に携わっていく。</p> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：</p> <p>研究の現状：</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照</p> <p>学会発表（      回） 論文（      編） 著書（      冊）</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>神戸常盤大学まちの保健室～子育て支援～ 2回/年</p>	
今後の課題	
自己研鑽や探究する能力の育成。	

### 3. 教育学部こども教育学科

教員名	大森 雅人	所属学科	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	学部長、学科長、教職支援センター、				
クラス担任	なし	クラブ顧問	ドラマサークル		
担当科目名	保育内容（環境）、保育・教育内容研究H（科学するところ）、教育と情報、保育実践演習、教職実践演習、卒業研究、電子コミュニケーション、教育方法の研究、コンピュータリテラシー				
担当科目コマ数	10.1				
本年度の課題					
こども教育学科に導入したコース制に関して、円滑な運営と教育効果の向上を目指す。担当授業の教育効果向上させるための研究をさらに充実させる。					
本年度の目標					
今年度からスタートするコース制の円滑な運営とその教育効果の向上を目指す。担当授業の教育効果を向上させるための研究に取り組むと共に、関連するテーマで科研費の新規獲得を目指す。					
主な活動内容					
<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コース制の円滑な運営と教育効果の向上のため、学科長としての取り組みを行った。</li> <li>・研究成果を学会において発表するとともに、関連テーマで科研費の申請を行い新規に採択された（総額 3,380,000 円 直接経費 2,600,000 円 間接経費 780,000 円）。</li> </ul> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <p>本学のLMS（manaba）を、積極的に活用した授業実践を行った。また、それ以外にも各回授業で伝える知識の構造を明示的に示す教育方法により、教育効果の向上を図った。</p> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：保育者養成校の教育を改善する取り組み</p> <p>研究の現状：科研費の助成期間が終了したので、それまでの研究成果の総括を行うとともに、それを発展させた内容で新規の申請を行った。テーマ別研究にも取り組んだ。</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照</p> <p>学会発表（ 4回） 論文（ 編） 著書（ 冊）</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>但馬地区保育所潜在保育士就職支援セミナー&amp;フェア（兵庫県他主催） 講演を担当</p> <p>川西市教育委員会指定幼稚園教育研究発表会（講話を担当の他に研究指導を7回実施）</p>					
今後の課題					
複数のカリキュラムが同時進行するため、その円滑な運営を目指す必要がある。科研費が新規に採択されたので、その研究に取り組む必要がある。					

教員名	瀬川 和子	所属学科	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	玉田学園評議委員 運営委員会委員 入試委員会委員長 合否判定部会委員長 高大連携委員会委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	器楽ボランティア部		
担当科目名	音楽AⅡ・AⅢ、音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、教科指導法(音楽)、キャリアの基礎Ⅰ・Ⅲ保育・教育内容研究(こどもと音楽)、保育実践演習、保育・教育内容研究(ピアノ実践奏法)、卒業研究				
担当科目コマ数	13.6				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育：小免関連科目の教授法と教材に関する検討</li> <li>・研究：研究時間の捻出と継続的な取組み</li> </ul>					
本年度の目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育：小免関連科目および採用試験内容を確認し指導法を検討する。</li> <li>・担当学生一人ひとりと向き合い、各学生の学習上の問題点とその解決法を共に探すこと</li> <li>・研究：研究を何らかの形にまとめ発表する。</li> </ul>					
主な活動内容					
<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育：小免関連科目の指導資料作成。E4科目の指導計画検討。</li> <li>・研究：楽曲分析</li> </ul> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小免関連科目の講義では、作成資料の内容と配置の見直し。</li> <li>・H.29年3月「ピアノ初心者入門講座」3回実施</li> </ul> <p>2)研究活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりのペースでの取り組みであった。楽曲分析を進めることで理解を深め、構成に工夫したプログラムを組むことができた。</li> <li>・教材については、ピアノ初心者が増加傾向にある一方、経験者もあり、幅広いグレードに対応できる基礎力強化のための指導内容の検討を重ねた。</li> </ul> <p>研究テーマ：ピアノ演奏(デュオ・室内楽)・教材開発 ・ピアノ初心者指導法</p> <p>研究の現状：楽譜収集および楽曲分析</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照</p> <p>学会発表(1回) 学術論文(0編) 著書(0冊)</p> <p>3)社会的活動等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H.28年5月附属ときわ幼稚園 ときわキッズ講師</li> <li>・H.28年9月神戸常盤女子高等学校 保育コース講師</li> <li>・県内高校ガイダンス 本学・学部・学科についての説明広報</li> <li>・部活顧問として、12月学外演奏会部員引率</li> </ul>					
今後の課題					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピアノ初心者が増える傾向にあるため、特に「音楽Ⅰ」の前期習熟度の向上</li> <li>・小免関連科目の教授法の改善、および教材研究</li> </ul>					

・研究時間の確保

教員名	藤本 由佳利	所属学科等	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	学生委員会 副委員長 就職委員会委員				
クラス担任	4年生	クラブ顧問	美術部		
担当科目名	図画工作Ⅰ、図画工作Ⅱ、保育内容（造形表現）教科指導法（図画工作）、キャリアプロデュース、保育実践演習、卒業研究				
担当科目コマ数	14.6				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新担当科目の授業内容の充実</li> <li>・二期生のキャリア支援</li> <li>・作品制作と発表</li> </ul>					
本年度の目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な進度の学生への対応</li> <li>・補充授業時間の確保</li> <li>・2期生の希望進路の達成への支援</li> <li>・一般社団法人 関西二紀展、二紀展への作品制作と出品</li> </ul>					
主な活動内容					
<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間授業計画を緻密に立てた</li> <li>・補充授業時間をとった</li> <li>・就職の相談や模擬面接の実施を行った</li> <li>・関西二紀展、二紀展へ出品した</li> </ul> <p>目標達成度の評価：1. できた <span style="border: 1px solid black;">2. ほぼできた</span> 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <p>4年生担任として面接等を通して、学生支援・理解につとめた。 退学や休学を考える学生及び保護者への相談・支援を行った。 卒業研究・教科指導法の補充授業時間を多くとった。 小学校免許状関連授業の充実を目指し、現場見学および現役教員からのレクチャーを受けた。</p> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：平面作品の制作</p> <p>研究の現状：</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照 学会&lt;展覧会&gt;発表（2回） 論文（ 編） 著書（ 冊）</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>子育て支援センターえん 足型アート企画・運営 2016. 9月 神戸市立なぎさ児童館 指人形劇企画・運営 2017. 1月</p>					

今後の課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新担当科目の授業内容の充実</li> <li>・三期生のキャリア支援</li> <li>・作品制作と発表</li> </ul>

教員名	中田 尚美	所属学科等	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	子育て支援センター「子育て広場えん」センター長、臨地実習委員会委員、就職委員会委員				
クラス担任	一年	クラブ顧問	食育研究会（同好会）		
担当科目名	保育原理、保育内容総論、基礎研究演習Ⅰ、保育内容研究・人間関係保育・教育メソッドの探究、キャリアプロデュース、保育実践演習、卒業研究				
担当科目コマ数	9.3				

本年度の課題
着任初年度であるので、各種状況を見極めながら教育・研究活動の推進を目指す。
本年度の目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援センターにおける子育て支援についての研究と実践を推進する。</li> <li>・担当科目における教育内容及び教育方法の充実を図る</li> <li>・研究を進展させる</li> </ul>
主な活動内容
<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>子育て支援センターの活動内容の整備とスタッフの業務内容の見直しに取り組んだ。研究内容を担当授業に反映し、教育内容及び教育方法の充実を図った。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <p>1年生の担任として面接や個人指導の機会などを利用して個々の学生の理解に努めた。授業内容の精選を図るとともに、担当科目でのグループワークを増やし、学生の自主的な学習を誘導した。</p> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：イギリスにおけるモンテッソーリ教育法受容の様相</p> <p>研究の現状：イギリスにおけるモンテッソーリ教具普及の背景と概要について論究。さらにモンテッソーリ会議（1914年）の議事録によりながら1910年代イギリスにおけるモンテッソーリ教育受容の様相を明らかにしようと試みた。</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照</p> <p>学会発表（ 1 回） 論文（ 2 編） 著書（ 冊）</p> <p>3)社会的活動等</p>
今後の課題

- ・子育て支援センターの運営の充実を図り、その検証を行う。
- ・研究を進展させる

教員名	牛頭 哲宏	所属学科等	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	こども教育学科教員養成コース長・広報委員会副委員長・臨地実習委員会副委員長・問題作成委員・教職支援センター委員・就職委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	基礎研究演習 I (E1) 小学校基礎実習 (E2) 教科指導法国語 (E3) 生活とことば (E1・E3) 小学校実習 (E3) 保育実践演習 (E3) 海外研修 (E3・E4) 卒業研究 (E4) 課題別実習 (E4) 教職実践演習 (E4) キャリアプロデュース (E4) 文章表現法 (N1)				
担当科目コマ数	11.5				
本年度の課題					
教員養成コースの講義や実習指導の充実と実践 学生が興味・関心をもち意欲的に学ぶことのできる展開と内容					
本年度の目標					
教科指導法（国語）や実習指導を通して小学校教員養成教育の充実を図る 初年次教育における文章表現力の育成について、効果的に書く力を高める授業の充実					
主な活動内容					
1. 目標達成に向けた活動内容					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科指導法（国語）や実習指導を通して、小学校実習において力を発揮出来る学生の育成に努めた。</li> <li>・時事問題を題材に選び、学生の関心や意欲を喚起しながら、より良い文章表現の基礎を身に付けさせる講義を心がけた。</li> <li>・大学内における委員会の職務を理解するため、積極的に行事等に参加した。</li> </ul>					
目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった					
2. 教員としての主な活動内容					
1)教育活動					
教員養成コース長として、コースの教員の特性を生かした学生支援体制の確立に努めた。 教員志望学生一人一人に対し面接や個人指導を行い学生理解に努めた。 教科指導法（国語）など小学校教員養成課程の科目について、教育現場において求められる資質を育成するため、小学校現場に出向き研修活動を行った上で、指導内容を厳選した指導を行った。					
教員採用試験対策					
小学校教員養成コースのとりまとめ役として、他の教員と協力しながら教員採用試験対策講座を受け持った。					
教職支援センターとの連携を図り、模擬授業や小論文対策等の指導を行った。					

<p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：「自分の言葉の使い方を振り返る力」を育てる学習指導</p> <p>研究の現状：小学校及び大学における実践のまとめと現場への還元</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照</p> <p>学会発表（ 1 回） 論文（ 1 編） 著書（ 冊）</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>堺市立新浅香山小学校における校内研修の講師</p> <p>神戸市教育フォーラムにおける講演（スクールサポーターについて）</p> <p>静岡県立大学 FD 研修会における講演（アクティブラーニングについて）</p> <p>「ながたっ子未来プロジェクト」（長田区）委員</p> <p>帝塚山大学へ出講</p> <p>今後の課題</p> <p>○大学近隣の小学校との連携を密にし、研究者としての関わり方を探る。</p> <p>○学生が自ら学ぶ意欲を喚起するような講義を心がける。</p> <p>○教員採用試験対策をさらに充実させる。</p>
---

教員名	橋本 好市	所属学科	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	就職委員長・入試広報・臨地実習・E科将来構想 他				
クラス担任	保育者養成コース長	クラブ顧問	ハローベビー部・野球部		
担当科目名	社会福祉・児童家庭福祉・相談援助・施設実習指導Ⅰ・施設実習Ⅰ・施設実習指導Ⅱ・施設実習Ⅱ・保育実践演習・基礎研究演習Ⅰ（実習）・卒業研究				
担当科目コマ数	11.6				
本年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科就職委員長学科として、四年制大学として学科初の大手法人等への内定者増。</li> <li>・新カリ及び旧カリとのソフトランディング。</li> <li>・保育者養成コース長として、コースの特性を生かしたコース運用を図る。</li> <li>・平成27年度～平成29年度 文部科学省研究費補助金【基盤研究(C)】研究課題／領域番号15K03994（研究代表者：直島正樹 相愛大学人間発達学部准教授）の遂行。</li> </ul>				
本年度の目標	<p>本学及び所属学科の今後あり方について、社会的現状と周辺競合大学の状況を分析し、本学が生き残ることができるよう先手を打った取り組みを図る。</p>				
主な活動内容					

<p>a. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>学科業務及び科研費、個人的研究とのバランスを考慮した行動を心がける。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. 教員としての主な活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動 兵庫県施設保育士養成協議会会長として、保育士養成大学と社会福祉関係連盟組織との人材育成・確保・定着への連携した取り組み。 担当科目が多いため、その運用と所属学科学生に適した教授方法・内容を工夫し、実習及び就職への安定的つなぎを図る。</li> <li>・研究活動 研究テーマ：保育士の専門性からみた社会的固有性としての保育ソーシャルワークの意義と可能性</li> </ul> <p>研究テーマの現状：</p> <p>3年間研究の科研であり、3年目を迎えようとしている。保育所への調査及び海外視察等の準備に入っている。</p> <p>関係本の出版、学会等で発表申請済み。</p> <p>専門領域：障害福祉、社会的養護、保育ソーシャルワーク等</p> <p>本年度の研究業績：</p> <p>テーマ別研究・ジョイント研究・<b>科研</b>・その他の外部資金（ ）</p> <p>&lt;研究テーマ:保育士の専門性からみた社会的固有性としての保育ソーシャルワークの意義と可能性&gt;</p> <p>学会発表（ 6回） 学術論文（依頼論文 1編） 著書（ 2冊） その他（ 2編）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的活動等 尼崎市子ども子育て審議会（部会委員長）、社会福祉法人理事・評議員、社会福祉施設スーパーバイザー、職員研修会講師 他多数</li> </ul> <p>今後の課題</p> <p>こども教育学科はコース編成体制から2年を経過しようとしている。入学者数については全国的な懸念材料であるものの、何とか定員を割らずに新年度を向かえることができている。入試に関わる課題克服への一つに就職内定があげられるであろう。入試は就職ともリンクしていると考えているため、就職率だけでなく法人等の組織にも目を向けた指導を心がけてきた。次年度も、この点を踏まえつつ、これまでになかった組織体への内定を獲得できるよう努力していく。</p> <p>昨年度、コース体制の新カリがスタートし、H29年度は教養科目群の新カリがスタートする。したがって、新・旧カリの三本で学科運用をしなければならないことから、学科業務の適正な運用を図りつつ、個人研究（特に科研を進めること）との両立を果たすことができるよう心掛けていきたい。</p>
---

教員名	光成 研一郎	所属学科等	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	学長補佐、教務委員長、教職支援センター長				
クラス担任	なし	クラブ顧問	テニス部		
担当科目名	教育原理、教育方法・技術論、保育実践演習、卒業研究他				
担当科目コマ数	10.9				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学的教学マネジメント改革の推進（学長補佐）</li> <li>・カリキュラム変更にかかる学則、履修規程の変更等への対応（教務委員長）</li> <li>・教員採用試験対策（教職支援センター長）</li> </ul>					
本年度の目標					
上記学内課題に組織として対応する。					
主な活動内容					
<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>学長会議、教務委員会を通じて、カリキュラム変更および5つのポリシーの制定に携わった。また教職支援センター長として、教職支援センター事務局と連携を図り、小学校教諭および養護教諭採用試験対策に取り組んだ。</p> <p>目標達成度の評価： <input checked="" type="checkbox"/> 1. できた    2. ほぼできた    3. あまりできなかった    4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <p>本年度も、小希望者（教員採用試験受験予定者）に配慮した授業を実施した。法令や教育用語について理解することに重点を置き授業を行った。また学生自身が考える機会を提供すべく、「21世紀型スキルを意識した授業方法」をテーマに、2つの異なる授業方法について、グループワークを実施し、方法について比較検討した。さらに、グループ毎の検討結果についてプレゼンテーションも実施した。</p> <p>一方向的な授業ではない、双方向の授業を意識した結果、授業評価は向上した。来年度も双方向性を意識した授業づくりを計画する。</p> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：J. デューイの探究・経験の理論の教育的意義について</p> <p>研究の現状：昨年度に引き続いてPBLやサービスラーニングといった経験学習の導入が、学生の思考力の向上にどのようにつながるかといった研究を行った。来年度この研究成果を教科書作成という形でまとめていく予定である。</p> <p>専門領域：教育学、教育方法</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照</p>					

学会発表（ 1回） 論文（ 2編） 著書（ 0冊）
3)社会的活動等 学生の教育力向上を意識して、地域連携活動に学生を送り出すことを目的に、地域と大学のハブ的役割を果たした。（青少協、蓮池小学校と連携した挨拶運動他）
今後の課題 全学的教学マネジメント改革を推進すべく、学長会議を中心に、意思決定を迅速に行い、各部署におろしていきける（吸い上げていきける）組織作りを学長とともに構築していく。そのための一歩として教学マネジメント推進委員会を来年度立ち上げる。

教員名	多田 琴子	所属学科等	こども教育学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	E科就職委員会、E科臨地実習委員会、ボランティアセンター				
クラス担任	こども教育学科 2年生A組	クラブ顧問	なし		
担当科目名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育内容（健康）・基礎実習Ⅱ・保育指導法・幼稚園実習Ⅱ</li> <li>・保育実践演習・教職実践演習・課題別実習・卒業研究</li> </ul>				
担当科目コマ数	12.2				
本年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規担当科目保育内容健康の授業内容充実を図る。</li> <li>・公立幼保就職に向けて、就職委員として役割を果たす。</li> <li>・実践に寄与する研究パラダイムの構築をめざし、保育の実践を「学」にする取り組みを進める。</li> </ul>				
本年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容を保育現場に引きつけて展開し、模擬保育指導案を健康領域から指導する。</li> <li>・公立幼保就職に向け公立幼稚園勤務経験を活かし、就職面接指導・実技面接指導、エントリーシートの書き方など、個々の学生に合わせて対応する。</li> <li>・保育の実践を「学」にする取り組みとして、現場の保育見学や研究会参加を促し、学生と現場をつなぐ。日本乳幼児教育学会第26回大会に学生のボランティア参加を</li> </ul>				
主な活動内容	<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規担当科目健康は、担当学生に複数回の指導案作成指導を行った。</li> <li>・元園長として公立一時通過の学生に市町村に合わせた個別実技指導を行った。</li> <li>・自主的研究会を定期的に継続し研究大会にはゼミ生参加を促し、学生と現場とをつないだ。日本乳幼児教育学会第26回大会に学生のボランティア参加を促した。</li> </ul> <p>目標達成度の評価：1. できた <b>2. ほぼできた</b> 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎研究演習Ⅰにおいて実習園との連携を図り着実な学びを提供した。</li> <li>・保育内容健康・保育指導法・保育実践演習の模擬保育については、学生の体感的学びが実践力につながる授業展開をした。</li> <li>・模擬保育指導案作成においては、応答的対応を授業外指導として行った。</li> </ul>				

<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの前に立つ自分を内省する時間として、授業に引きつけて保育者・教師になる自覚を促す先人の学びを紹介した。</li> <li>・学生自身の主体的プログラムで教職実践演習の「4年生が2年生に実習を伝える」が展開できるように援助した。</li> </ul>
<p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：保育者の職能形成／幼児期にふさわしい生活を支える保育の創造</p> <p>研究の現状：保育現場と協働関係を築きながら継続的に、教員研修・園内研修・自主的研究会等を進めた。</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照 学会発表（2回）論文（2編）著書（冊）</p>
<p>3)社会的活動等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援・園内研修（附属幼稚園を含む）等 学外講師5回</li> <li>・ひかりのくに異年齢カリキュラム編集委員会（毎月1回）</li> <li>・姫路市立幼稚園自主研修会オブザーバー（毎月1回）</li> <li>・日本乳幼児教育学会第26回大会運営委員（11月26日・27日に開催）</li> <li>・大阪青山大学・兵庫教育大学へ出講</li> </ul>
<p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者養成コース学生の保育者としての力量形成をめざし、授業の充実と正課外の体験活動を支援する。</li> <li>・公立幼保就職に向けて、正課外においても対策指導にあたる。</li> <li>・実践に寄与する研究パラダイムの構築をめざし、保育の実践を「学」にする取り組みを進める。</li> </ul>

教員名	笹井 隆邦	所属学科等	こども教育学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	入試問題作成委員会・教務委員会・図書委員会				
クラス担任	1年	クラブ顧問	なし		
担当科目名	生物と環境・地球環境論・地球と環境・コンピュータ演習Ⅰ・コンピュータ演習Ⅱ・理科・保育・教育研究内容G・卒業研究・いのちの不思議・基礎研究演習Ⅰ・キャリアの基礎Ⅲ・生物（通信）				
担当科目コマ数	11.3				
本年度の課題	<p>観察会や自然体験プログラム(キーナの森)への参加学生を増やしていきたい。</p> <p>明石海峡公園内での自然体験プログラムでも学生の参加を募りスタッフとして活動してもらいたい。</p>				
本年度の目標	<p>エコツアーリズム発祥の地コスタリカでエコツアーリズムを体験し、社会性昆虫および擬態昆虫の調査を行いたい。</p>				
主な活動内容					

## 1. 目標達成に向けた活動内容

目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった  4. できなかった

## 2. 教員としての主な活動内容

### 1)教育活動

学生による授業評価：担当科目のカテゴリー別評価（授業内容・授業方法・総合評価は、「コンピュータ演習Ⅱ」4.0・4.2・4.2・4.3、「地球と環境」、4.8・4.9・4.8・4.8、「地球環境論」M 4.3・4.3・4.2・4.5、「地球環境論」N 4.1・4.0・3.9・4.3 「理科」4.1・4.3・4.3・4.3、「生物と環境」1年 4.2・4.1・4.1・4.5 「生物と環境」3年 3.9・3.9・3.9・4.1 「いのちのふしぎ」4.2・4.2・4.2・4.3 「保育・教育研究内容G」4.2・4.1・4.3・4.5 であった。

### 2)研究活動

研究テーマ：離島の社会性ハチ類の分布・生態調査

研究の現状：調査に行けませんでした。

本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照

学会発表（ 0回） 論文（ 0編） 著書（ 0冊）

### 3)社会的活動等

20160403 「山菜展」 のあそびクラブ 桜が丘春祭り スタッフ

20160423 「春を食べよう」 のあそびクラブ・あさひ児童館 スタッフ

20160731 「カブトムシ・クワガタムシ観察会」（しぜんとあそぼう） 講師  
のあそびクラブ・あさひ児童館

20160806 明石川の生き物展 のあそびクラブ 桜が丘夏祭り スタッフ

20160807 明石川の生物調査（しぜんとあそぼう） 講師 のあそびクラブ・あさひ児童館

20160902 「生きもの観察会」 あいな里山公園 六甲幼稚園 講師

20160905 六甲藤原台幼稚園 講演会 講師

20160906 育英幼稚園 講演会 講師

20160909 北六甲幼稚園 講演会 講師

20160910 「武田尾・廃線敷を歩いて初秋の昆虫をゲット！」第5回こども北摂里山探検隊 講師 兵庫県

20161110 「～裏山の自然と遊ぼう～」第5回ときわキッズクラブ ときわ幼稚園 講師

20161119 「湿原保全体験と里山カレーづくり」 宝塚市自然保護協会 講師 宝塚市少年自然の家にて

今後の課題

上陸後のニホンヒキガエル幼体の行動  
 本学において竹筒トラップを用いたハチの調査  
 離島の社会瀬ハチ類の研究

教員名	山下 敦子	所属学科等	こども教育学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	入試委員会委員、臨地実習委員、教職支援センター委員、 就職委員会副委員長				
クラス担任	1年（教員養成コース）	クラブ顧問	なし		
担当科目名	国語、小学校実習、課題別実習、小学校基礎実習、教職実践演習、卒業 研究、基礎研究演習Ⅰ、海外研修、キャリアプロデュース、アカデミック ライティング、キャリア基礎その2				
担当科目コマ数	9.9				
本年度の課題	小学校教員養成、保育者養成について理解を深め、学生の実践的な能力の育成に努める				
本年度の目標	国語、実習指導等を通して、小学校教員養成のための教育の充実を図る 論理的思考力、論理的表現力について学究的場面、日常的場面において活用する言語運 用能力を育成する				
主な活動内容	<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>(1)国語、実習指導等を通して教育現場に生きて働く知識、実践力の育成に努めた。</p> <p>(2)学科の特性（0, M科）に応じた論文やテーマを題材にし、論理的思考や表現力が育成で きるような講義を心がけた。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年生のクラス担任として面接、個別指導などを行い、学生理解や助言を行うように努めた。</li> <li>・ 国語や実習指導などの科目を通して、教育の今日的課題についての知識や基礎的な実践力を身につけることができるように指導を行った。</li> <li>・ 教員採用試験、就職試験等において自己表現ができるように指導助言を行った。</li> </ul> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：(1)若手教員の国語科指導における実践的力量向上に関する研究 (2)小学校国語教科用図書における教材分析と言語活動の開発</p> <p>研究の現状：(1)については、1年次の研究を終え、集約と論文執筆を行っている段階である。(2)については、教材分析と授業分析を終え、著書としてまとめた。</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 1回） 論文（ 0編） 著書（ 2冊）</p> <p>3)社会的活動等</p>				

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大阪市小学校教育研究会国語部における研究指導者</li> <li>・ 大阪市立北田辺小学校校内研修会における指導助言（7回）</li> <li>・ 大阪市立東淡路小学校、南港桜小学校において校内研究国語科指導助言（各3回）</li> <li>・ 大阪市立丸山小学校学校協議会委員</li> <li>・ 大阪市教育研究会国語部研究大会で基調講演</li> <li>・ 大阪府北河内国語教育研究大会 講演</li> <li>・ 宝塚市立小学校で講演</li> <li>・ 神戸市立なぎさ小学校、本山第一小学校で講演</li> <li>・ 第23回国語教育研究大会で講演</li> <li>・ 明石市教育研究所スーパーバイザー（国語科教育、特別支援教育）</li> <li>・ 高大連携派遣授業において、兵庫県立播磨南高等学校、友が丘高等学校、舞子高等学校、三木北高等学校で模擬授業を行った。</li> <li>・ ERP 教育研究所「教師力向上研修会」幹事、及び講師</li> </ul>
今後の課題
<p>学生が主体的に学ぶ課題設定、講義に努める。</p> <p>教育現場との連携をより密にし、実践的研究を行うようにする。</p>

教員名	脇本 聡美	所属学科等	こども教育学科	職名	講師
委嘱委員・職務	教務、FD、国際交流センター、危機管理				
クラス担任	3年Bクラス	クラブ顧問			
担当科目名	(E)卒業研究、英語コミュニケーションⅡ、Ⅲ、英語教育論、海外研修(M)英語Ⅰ (O)コミュニケーションイングリッシュ				
担当科目コマ数	12.1				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当授業の充実を図る。</li> <li>・ 初等英語教育養成課程プログラムの開発に向けた研究を進める</li> </ul>					
本年度の目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度から担当の海外研修を準備し、充実したプログラムにする</li> <li>・ 収集したデータを分析し、学会発表を行い、論文にまとめる</li> </ul>					
主な活動内容					
<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ NZ 研修に向け、プログラムを企画・調整する。</li> <li>・ 前年度のデータを分析し、学会発表をして論文にまとめる。</li> </ul> <p>目標達成度の評価： <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1. できた</span> 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p>					
<p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <p>英語コミュニケーションⅡ、英語Ⅰ、コミュニケーションイングリッシュでは、コミュニケーションの道具として英語を使うという意識を学生が持つきっかけとなるような授業を</p>					

<p>目指した。英語コミュニケーションⅢ、英語教育論では、初等英語教育について学生の理解が深めるような授業をすることを目指した。さらに、近隣小学校の協力を得て、小学校1, 2, 4年生を対象に、英語絵本を用いた英語活動を4年生が担当させてもらう機会を作り、指導し、実践した。</p> <p>卒業研究では、学生が実践研究を行うための指導の充実を図った。</p> <p>2)研究活動  研究テーマ：初等英語教員養成のプログラム開発  研究の現状：前年度のデータを分析し、学会発表をして論文にまとめ本学紀要論文に投稿した。全国誌にも投稿し、審査中。  本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照</p> <p>学会発表（ 2 回） 論文（ 1 編） 著書（ 冊）</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究内容を担当授業に反映し、授業の充実を図る</li> <li>・今年度収集したデータを分析し、学会発表を行い、論文にまとめる</li> </ul>
--

教員名	柳原 利佳子	所属学科等	こども教育学科	職名	講師
委嘱委員・職務	就職，入試，学生相談室，自己点検・評価など				
クラス担任	1年	クラブ顧問	なし		
担当科目名	発達心理学Ⅰ，発達心理学Ⅱ，こころの理解，基礎研究演習Ⅰ，保育実践演習，教職実践演習（幼稚園・小学校），人間関係論，生涯発達論				
担当科目コマ数	14.4				
本年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新カリキュラムで迎える新入生が大学生活に馴染めるようにサポートする。</li> <li>・卒業研究ゼミでは個別指導と集団指導のメリハリをつけて進めたい。</li> </ul>				
本年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生からゼミ形式でスタートする授業の中で，担当する学生理解に努める。</li> <li>・年間を通して卒業研究を計画的に進める。</li> <li>・新しく担当する委員会業務を学び，早く慣れる。</li> </ul>				
主な活動内容	<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生ゼミ担当の学生理解に努めた。</li> <li>・年間を通して卒業研究を計画的に進めるつもりではあったが，学生の就職活動期間中の卒業研究に停滞がみられた。</li> <li>・3つの新委員会への委嘱を受けた。定例会議には授業の重なる時もあり欠席することもあったが，他の委員からの助けを借りて業務を学んだ。</li> </ul> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. <u>ほぼできた</u> 3. あまりできなかった 4. できなかった</p>				

<p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動 クラス担任として、面接・指導などの機会を利用し学生理解に努めた。</p> <p>2)研究活動 テーマ：1. 女子青年のSexuality形成に関する要因， 2. 学生同士による学びの内容の伝達 研究テーマの現状：1. 将来展望をもったライフコースの構築のためにできる情報提供の仕方を検討中。2. 昨年度に行った授業の1プログラムを抽出し分析を行った。 本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 1 回）</p> <p>3)社会的活動等 ・神戸松蔭女子学院大学， 武庫川女子大学へ出講。 ・6月， 3月：入試説明会大阪会場 本学・学部・学科についての説明広報 ・10月：百合学院 分野別説明会 教育（幼児教育）</p> <p>今後の課題 ・新カリキュラムスタートに伴う新規担当科目の教材研究に励む。 ・1年生ゼミを計画的に進める。 ・研究を少しでも進める。</p>
---

教員名	松尾 寛子	所属学科等	こども教育学科	職名	講師
委嘱委員・職務	研究倫理委員会委員、ハラスメント防止対策委員会委員、こども教育学科臨地実習委員会委員長、こども教育学科就職委員会委員				
クラス担任	2年生担任	クラブ顧問	なし		
担当科目名	乳児保育Ⅰ、乳児保育Ⅱ、障がい児の理解と援助Ⅱ、保育所実習Ⅰ、保育所実習指導Ⅰ、保育所実習Ⅱ、保育所実習指導Ⅱ、基礎実習Ⅱ、保育実践演習、卒業研究				
担当科目コマ数	14.7				
本年度の課題	社会的活動については、昨年度以上に多くなることが予想される。学内業務については今まで以上に責任を持って取り組みたい。また一つ一つ丁寧かつスピーディに行っていきたい。 研究活動については、足を止めることなく、保幼小接続期についての調査を開始したい。				
本年度の目標	社会的活動について丁寧に要請に応える。 学内業務については、こども教育学科臨地実習委員長就任にあたり、委員会運営を滞りなく行う。 研究活動について保幼小接続期についての研究論文を執筆する。				
主な活動内容					

<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>社会的活動については、昨年度より大幅に増えた。学内業務や教育活動に支障が出ないようにするために、時間の工面に苦勞した。</p> <p>研究活動については、保幼小接続期についての調査について、支援を必要とする子どもに特化した研究を開始した。ただ、平行して認定こども園における送迎時の保護者と保育者との連携についても研究活動を開始したいと考え、研究を深めることができていないと感じている。</p> <p>学内業務については、副委員長からアドバイスをもらいながら進めていった。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <p>教育活動については、4年生の卒業研究と3年生の保育実践演習がスタートし、学生との個別の指導に多くの時間を費やした。特に後期は授業担当科目が多く、時間の捻出に苦勞した。</p> <p>昨年度同様、ゼミ学生自身も意識が高い学生が多く、提出などの督促は必要なかったため、中身についての指導に労力を費やすことができた。</p> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：支援を必要とする子どもに対する接続を視野に入れた保育者のかかわり</p> <p>研究の現状：認定こども園における送迎時の保護者と保育者との連携について研究を進めるために、科研費申請を行った。</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照 学会発表（1回） 論文（1編） 著書（1冊）</p> <p>3)社会的活動等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西脇市就学前教育・保育カリキュラム策定部会副部長</li> <li>・西脇市幼保交流研修講演会講師</li> <li>・八尾市私立保育所巡回指導担当</li> <li>・兵庫県保育連絡協議会第2回研修会実行委員</li> <li>・明石市公立保育所年齢別研修会講師</li> <li>・西脇こども園保育指導</li> <li>・こべっこランド障がい児保育ゼミ講師</li> <li>・尼崎市公立保育所研修計画プロジェクト、報告会</li> </ul> <p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究について、緑葉ではなく、査読付き論文を出す。</li> <li>・委員会活動等の学内業務について、広い視野で多様な立場を理解しながら参画する。</li> <li>・社会的活動について、引き続き要請があれば丁寧に取り組む。</li> <li>・教育活動について、学生の知識が深められるように授業改善を試みる。</li> </ul>
---

教員名	戸川 晃子	所属学科等	こども教育学科	職名	講師
委嘱委員・職務	広報委員、学生委員、地域交流センター委員、就職委員				

クラス担任	3年生	クラブ顧問	
担当科目名	音楽Ⅰ、音楽Ⅱ、音楽AⅡ、音楽AⅢ、保育内容（リズム表現）保育・教育内容研究E（こどもと音楽）、保育教育内容研究F（ピアノ実践奏法）、卒業研究、キャリアの基礎Ⅲ		
担当科目コマ数	14.3		
本年度の課題			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容の充実</li> <li>・研究を進める</li> </ul>			
本年度の目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新カリキュラムとともにコース制が始まることに準じ、授業内容の精査をする</li> <li>・研究成果を演奏、論文にまとめる</li> </ul>			
主な活動内容			
<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>授業、学生の就職支援等で時間を捻出するのが、困難であった。保育内容（リズム表現）では、新しい非常勤講師との打ち合わせを念入りに行った。研究については、実験デザインを精査し、実行した。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <p>授業、就職委員、担任としての学生支援</p> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：ピアノ演奏法、ピアノ教授法</p> <p>研究の現状：</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照</p> <p>学会発表（ 2 回） 論文（ 1 編） 著書（ 1 冊）</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>兵庫教育大学への出講。本学公開講座、コムスタ神戸でのレクチャーコンサート、兵庫県立美術館における「戸川晃子&amp;大フィルの仲間たちによるピアノトリオスペシャル2」などの演奏発表及び日本クラシック音楽コンクールピアノ部門審査員。</p>			
今後の課題			
来年度さらに授業が増え、コマ数が増える。その中で、さらなる教育の充実が求められる。また、研究においては、少しずつでも進めていきたい。			

教員名	國崎 大恩	所属学科等	こども教育学科	職名	講師
委嘱委員・職務	入試委員、就職委員、教職支援センター委員、地域交流センター委員				
クラス担任	4年Bクラス	クラブ顧問			
担当科目名	特別活動の指導法、法と教育、生涯学習論、現代こども教育論、道徳教育の理論と実践、人間と教育、教職実践演習、卒業研究				

担当科目コマ数	13.0
本年度の課題	
<p>科研費の終了年度にあたるため、科研費研究を中心的にすすめる。また、教育に関しては、教員採用試験等を中心に、昨年度以上に学生の状況をふまえた指導を行う。</p>	
本年度の目標	
<p>研究成果をまとめ、査読付きの学会誌に投稿を行う。また、教育に関しては教員採用試験合格者を昨年度並みにする。</p>	
主な活動内容	
<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>学会発表を2回、論文投稿を1本おこなった。また、著作物を共著で1冊出版した。教員採用試験については、昨年度をやや下回る合格者となった。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <p>授業についてはmanabaを活用した授業改善を行った。また、教員採用試験にむけて個別の補習などを積極的に行った。</p> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：教育実践をめぐる関係性の動的記述と教育実践リフレクションモデルの構築</p> <p>研究の現状：今後の研究発展にむけた基礎固めができた。</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照</p> <p>学会発表（2回） 論文（1編） 著書（1冊）</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>教育学会の国際交流委員幹事を務めるとともに、教育学会および日本乳幼児教育学会の大会準備委員となって学会開催にむけた準備をおこなった。</p>	
今後の課題	
<p>現在の研究テーマを発展させ、科研費獲得を行う。また、教員採用試験については今年度を上回る合格者となるよう支援をおこなう。</p>	

教員名	川井 綾	所属学科等	こども教育学科	職名	助手
委嘱委員・職務	臨地実習委員会・子育て支援センターえん				
クラス担任		クラブ顧問	ハローベビー部		
担当科目名					
担当科目コマ数	3.5				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習準備室開設の初年度として、新しいカリキュラムの実習について教務課から事務を移行し、スムーズに事務手続きが進むよう検討する。</li> <li>・実習に向かう事務手続き以外に、学生のメンタル面でのサポートができる環境を整え、状況にあわせて対応ができるようにする。</li> </ul>					

<p>本年度の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教務からの事務手続きを移行してきた部分についての内容を把握し、より効率的に実習準備が整うように努める。</li> <li>・学生と実習担当教員、或いは実習先との中継の役割として、実習がより充実した経験になるよう連携を図る。</li> <li>・実習に向かう学生をサポートする事と、日頃の各施設のボランティアやアルバイト、就職フェア等の紹介を通して、学生自らが自主性を育める環境を整える。</li> </ul>
<p>主な活動内容</p> <p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習関係の演習の場で、個人の資質や現状を把握し、コミュニケーションを図るよう努めた。それによって実習準備をスムーズに進める事に役立てる事ができた。</li> <li>・実習準備室に学生の学習スペースを確保し、学習が出来る環境を整えた。学生の集まるスペースができた事で、教員と学生のコンタクトを取る場所にもなった。</li> <li>・各施設のボランティアやアルバイトの紹介や就職フェアの紹介をし、学生の自主的な学びの場が提供できるような環境作りについて検討してきた。</li> <li>・ハローベビー部やボランティアの学生と共に、子ども達の遊びの環境作りについて話し合いを進め、健康フェアでは地域の方々に人形劇を披露し、遊びの場を提供できた。また、オープンキャンパスでの制作活動の参加にも役立てた。</li> </ul> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習に必要な教材の貸し出し、提供をする中でのアドバイスや実習のサポート。</li> <li>・健康フェアやボランティア活動での遊びの環境作り、人形劇や遊びを作り出す学生の活動をサポート。</li> </ul> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：</p> <p>研究の現状：</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照</p> <p>学会発表（ 回） 論文（ 編） 著書（ 冊）</p> <p>3)社会的活動等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常盤女子高等学校、子育て支援センターえんでの見学体験会での制作活動。</li> <li>・大学コンソーシアムひょうご神戸キッズフェスティバル学生参加についての業務。</li> <li>・H28 長田区カンガルーフェスタに出席。H29 カンガルーフェスタにむけての業務。</li> </ul>
<p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動に参加したり、教員とコンタクトを取ることに消極的な学生にも目を向け、日頃のコミュニケーションの中で励ましが必要と考える。実習に積極的に取り組めるよう言葉をかけ実習先へ送り出す事。</li> </ul>

#### 4. 短期大学部口腔保健学科

教員名	野村 慶雄	所属学科等	口腔保健学科	職名	教授
委嘱委員・職務	学科長、口腔保健研究センター長、短期大学部歯科診療所責任者、第三者認証評価委員、研究倫理委員会委員、判定部会委員、高大連携委員、問題作成委員（社会人論文）				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	口腔衛生学概論、病原微生物学・免疫学、臨床歯科I、臨床歯科II、臨床歯科V、海外研修、地域口腔保健支援実習I、健康科学総論（看護学科） こどもの歯と健康（こども教育学科）				
担当科目コマ数	6.4				
本年度の課題					
① 学科教授会、学科会議を適切に運営し、歯科衛生士教育を充実させる ② 中長期における口腔保健学科の歯科衛生士教育を検討する ③ チューター制（元教養ゼミ）を定着し、学生と教員との間を身近なものとし、その結果早期退学者を減少させる ④ 学内・外部の研究資金を獲得し、教員の業績（論文・学会発表）を蓄積する					
本年度の目標					
① 適切な学科運営を心がけるとともに各種提案を行う ② 今後の口腔保健学科の教育の在り方を検討する ③ 各種対策で新入生の早期退学を減少させる ④ 研究に関する勉強会を主催し、教員が学内・外部の研究資金獲得にチャレンジし、業績（論文・学会発表）を蓄積することを支援する					
主な活動内容					
1. 目標達成に向けた活動内容 ① 定期的に学科教授会（月1回）を開催し各種提案を行った。また、学科会議においても各種提案を行い堅実な学科運営に努めた。 ② 学科の将来構想委員会を設置し、今後予測される社会情勢の変化に伴う当学科の歯科衛生士教育について検討を開始した。 ③ 前期にチューター制（元教養ゼミ）を実施し、その結果、前期退学者を2名に留めることができた。後期5名の退学者が出たことに関して継続的にその要因と対策を検討する必要がある。 ④ テーマ別研究費（3件採択）、科学研究費（1件採択：継続）。					
目標達成度の評価：1. できた <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2. ほぼできた</span> 3. あまりできなかった 4. できなかった					
2. 教員としての主な活動内容 1)教育活動 ① 前年度学生の授業評価の結果を踏まえ、学生の理解度を上げるための授業対策（小テ					

<p>ストの実施)を講じるとともに中間調査を行い授業方法などを改善した。配布資料のカラー印刷を採用した。</p> <p>② 歯科基礎分野の定期試験不合格者への補習授業実施した。</p> <p>③ 国家試験対策の補講(口腔衛生学概論、生化学、口腔の構造、病理学、病原微生物学・免疫学、臨床歯科I、臨床歯科II、臨床歯科IV,臨床歯科V)を担当した。</p> <p>④ 隣地実習(保護者参加型実習)における指導を行った。</p> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ:歯周病の全身疾患特に糖尿病との関わり</p> <p>研究の現状:歯周病と糖尿病の関わりに関する文献的考察(医療費)</p> <p>本年度の研究業績:詳細は「研究実績報告書」を参照</p> <p>学会発表(1回) 論文(2編) 著書(1冊)</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>① 長田区の口腔保健啓発事業(長田区子どものむし歯予防のための検討会)</p> <p>② 口腔疾患と全身疾患のかかわりに関する啓発事業(講演等):3回</p> <p>今後の課題</p> <p>次年度取り組む課題</p> <p>退職のため記載不可</p>
---

教員名	柳 敏晴	所属学科等	口腔保健学科	職名	教授
委嘱委員・職務	教育イノベーション機構・機構長、図書紀要委員				
クラス担任		クラブ顧問	バスケットボール部		
担当科目名	キャリア基礎、健康スポーツ科学、保健行動論、健康科学総論				
担当科目コマ数	7.7				
本年度の課題	幅広い教養を持つ学生を育て、小さくてもきらりと輝く「いのちに寄り添う大学」を目指し、教育の変革(イノベーション)を続ける。				
本年度の目標	平成29年度4月より教育改革を実施する。 学内に、協働と挑戦の風土を醸成する。				
主な活動内容	<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>1) 教育イノベーション機構会議による審議(32回)</p> <p>2) ワーキンググループによる作業の推進(基盤教育科目の構築、ときわ教育目標、ときわコンピテンシー、DP、CP、AP、SSP、ASPの原案作成等)</p> <p>3) 学内への発信(基盤教育科目担当者説明会、教学マネジメント改革説明会、パブリックコメント実施、寺子屋WG、SSPWG、ASPWGの開催等)</p> <p>4) 大学生基礎力調査の実施</p> <p>5) 系列校入学前教育の実施</p>				

目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった

2. 教員としての主な活動内容

1)教育活動

①キャリア基礎（科目責任者）、健康スポーツ科学（科目責任者）、保健行動論（担当者）、健康科学総論（担当者）として

②基盤教育設置のために、機構会議で準備し、学長会議に提案し新教育課程を機構として設置した。

2)研究活動

研究テーマ：海洋スポーツ指導者養成、野外教育のマネジメントと人材育成、ウエルネスの普及と展開

研究の現状：本年度は、学内の教育イノベーションが中心のため、学会発表を中心にしか行えなかった。

本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照

学会発表（4回） 論文（0編） 著書（3冊）

3)社会的活動等

①神戸常盤地域交流センター講師 ②神戸市シルバーカレッジ講師 ③日本セーリング連盟普及指導委員会アドバイザー ④日本海洋人間学会副会長 ⑤日本ウエルネス学会第10回大会実行委員 ⑥B&G財団海洋性レクリエーション指導者講師 ⑦ヤマハ発動機スポーツ振興財団理事 ⑧国際ボランティア学会理事 ⑨園田学園女子大学非常勤講師 ⑩日本体育学会名誉会員証授与（第355号）

今後の課題

1. 基盤教育科目の運用、推進、点検
2. 学生支援の展開
3. 次世代教員の養成

教員名	原 久美子	所属学科等	口腔保健学科	職名	教授
委嘱委員・職務	図書紀要委員会・副委員長，保健管理センター学生相談室・室長， 臨地実習委員会・委員長，カリキュラム検討小委員会・副委員長，				
クラス担任	1年主担任・Aクラス担任	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科衛生学概論，歯科保健指導論Ⅰ，歯科保健指導論Ⅱ，歯科保健指導演習Ⅰ，歯科衛生ケアプロセス論，予防と歯科衛生ケアプロセスⅡ，う蝕予防の実践Ⅱ，歯科衛生ケアプロセスの実践，地域口腔保健支援実習Ⅱ，診療補助実習Ⅰ，口腔保健衛生学実習Ⅰ，口腔保健衛生学実習Ⅱ				
担当科目コマ数	13.3				
本年度の課題	学生が知的好奇心を抱き、自分で考える力を養う授業方法を検討する。				

本年度の目標
体験授業を導入し、知的好奇心を向上させることで、授業の理解を深める。 小テストを導入する。
主な活動内容
<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験授業は、学生が興味を持ち一定の成果がみられた。</li> <li>・小テストとその解答調べ、解説を導入した。小テストの理解ができる学生は、再試にならなかった。次年度はこの方法を充実させたい。</li> <li>・グループワークや調べ学習を行い、それらを発表させ、自己評価・他者評価をすることで学びを深めさせた。このことから図書館より利用回数が増えたとの評価を得た。</li> <li>・集団指導について、指導案作成・講話原稿作成・媒体作成を考えさせたことから、考える必要性を理解させ実施後の達成感を感じさせることができた。</li> </ul> <p>目標達成度の評価：1. できた <b>2. ほぼできた</b> 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他職種への口腔ケア普及研修会で講義・実習を行った（広島市）。</li> <li>・歯科衛生士リカレント研修会で講義を行った（広島市）。</li> <li>・開業前の歯科医師に歯科衛生士の理解を深めるための講義を行った（広島市）。</li> </ul> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：①唾液腺機能の賦活，②口腔機能の維持向上</p> <p>研究の現状：学会発表および継続的にデータ収集中</p> <p>本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照</p> <p>学会発表（ 1 回） 論文（ 編） 著書（ 冊）</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>学会等の委員・・・日本歯科衛生学会企画委員会副委員長，日本歯科医療福祉学会評議員，日本口腔ケア学会評議員，口腔ケア研究会ひろしま副代表，「歯科衛生士用語辞典」編集委員，日本健康体力栄養学会評議員，日本老年歯科医学会歯科衛生士関連委員会委員</p>
今後の課題
学生が、知的好奇心を抱き、積極的に授業に参加し、考える力を養う授業方法を検討する。 小テストの方法を検討し、充実させる。

教員名	足立 了平	所属学科等	口腔保健学科	職名	教授
委嘱委員・職務	KTU研究開発推進センター長、健康保健センター健康管理室員、自己点検評価委員会、危機管理（災害）委員会、発明委員会、利益相反委員会、遺伝子組換え実験安全委員会委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	医療安全、健康科学総論（口腔保健学科）、臨床歯科Ⅲ、臨床検査学、健康科学総論（看護学科）、人体のふしぎ（こども教育学科）、いのち				

	の理解（こども教育学科）、災害援助と救急医療、災害時の歯科衛生士の働き
担当科目コマ数	9.3
本年度の課題	
1) 授業への学生参加型アクティブラーニングの積極的導入 2) 授業時間外学習時間を確保するための仕掛け推進 3) 認知症患者への口腔からのアプローチに関する研究遂行	
本年度の目標	
1) TBL の導入 2) 事前学習用教材の作成とすべての授業でのプレテストの実施 3) 認知症患者への口腔からのアプローチに関する研究の成果報告	
主な活動内容	
<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>① 医療安全、医療検査学において事前課題とその課題に関する学生との対話形式の授業を実施した。学生の授業評価に昨年との差は認められなかった。</p> <p>② 授業科目に関するビデオを youtube から探し、事前学習の教材として使用した。また、ほぼすべての授業においてプレテストまたはポストテストを実施した。臨床歯科Ⅲにおいて定期試験の平均点の上昇が認められた。</p> <p>③ 認知症患者への口腔ケアおよび口腔機能向上プログラムの実施による認知機能等の変化について、高齢者施設で実施した結果をまとめ、兵庫県、および兵庫県歯科医師会より冊子（「認知症QOL向上事業関連資料(平成28年度最終版)」）として発行した。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. <u>ほぼできた</u> 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <p>① 教科書（最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」－医歯薬出版）執筆 ② 用語集（最新歯科衛生士用語辞典－クインテッセンス）執筆 ③ こども教育学科（人体のふしぎ、いのちの理解）、看護学科（健康科学総論）の授業も担当</p> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：①災害関連死 ②口腔機能と脳機能 ③フレイル、オーラル・フレイル 研究の現状：兵庫県歯科医師会、日本バイリン、サンスターからそれぞれ奨学寄附金を獲得し上記研究費に充当している。利益相反には該当しない。 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照</p> <p>学会発表（筆頭 3 回） 論文（共著 2 編） 著書（ 7 冊）</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>① 兵庫県 8020 運動推進委員（兵庫県健康増進課） ② 神戸市歯科口腔保健推進検討会会長（神戸市保健福祉局）</p>	

③ 神戸市歯科保健推進懇話会委員（神戸市保健福祉局）
④ 兵庫県病院歯科医会会長
⑤ 長田区在宅医療推進協議会災害対策部会委員
⑥ 長田区歯科医師会学術委員
⑦ 全国大学歯科衛生教育協議会教育・研究委員長
⑧ 日本有病者歯科医療学会理事
⑨ 長田区在宅医療推進協議会災害対策部会委員
⑩ 講演活動：28回（テレビ出演1回、ラジオ出演1回）
今後の課題
1. 授業時間外学習時間の確保
2. 教育・研究活動のフィールドとしてのときわ病院の活用
3. 健康較差と経済格差に関する研究

教員名	上原 弘美	所属学科等	口腔保健学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	入試広報委員会副委員長・合否判定部会短大部委員長・高大連携委員・就職委員会委員長・臨地実習委員会委員				
クラス担任	2年Aクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科診療補助論、アシスタントワークⅡ、アシスタントワークⅢ、歯科診療補助演習Ⅰ、口腔保健衛生学概論、ベッドサイドの口腔ケア法、臨床歯科Ⅲ、医療安全、臨床検査学、歯科衛生ケアプロセスの実践、診療補助実習Ⅰ、診療補助実習Ⅱ、総合歯科実習、地域歯科保健実習Ⅱ				
担当科目コマ数	12.2				
本年度の課題	・学生の興味を引く授業内容の教授方法の検討				
本年度の目標	・事前課題を提示、授業後のレポートを課すことにより学生の授業の理解度を深める。 ・学内の授業と臨地実習との継続性・連続性を意識した授業内容とすることで、学習効果を高める。				
主な活動内容	<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>毎授業前に、nmanabaを利用して、事前課題を提示した。また、授業の最後に小テストを実施して、授業の理解度を測るとともに、次の授業の最初には小テストの解説、学生の理解不足な点を再度解説するなどの時間を取った。学内の授業は、効果的な臨地実習へと繋げることができるよう、内容を組立てた。</p> <p>目標達成度の評価：1.できた ②.ほぼできた 3.あまりできなかった 4.できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <p>「診療補助実習Ⅱ（臨地実習）」では、実習中に自己の課題を見つけ、実習後に課題</p>				

<p>レポートを作成・提出させた。3年次後期の「歯科衛生士ケアプロセスの実践」ではそのレポートを使用し、授業をおこなった。臨地実習で得た知識を学生間で共有することができた。</p> <p>2)研究活動  研究テーマ：全身疾患と口腔衛生管理  研究の現状：情報・資料の収集中  本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照  学会発表（0回） 論文（0編） 著書（1冊）</p> <p>3)社会的活動等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公益社団法人兵庫県歯科衛生士会 会長</li> <li>・歯科衛生士の人材確保・復職支援等に関する検討会委員</li> <li>・神戸市歯科口腔保健推進検討会委員</li> <li>・神戸市歯科口腔保健推進懇話会委員</li> <li>①兵庫県立西播磨総合リハビリテーション病院口腔ケア研修講師 2016. 2. 23</li> <li>②兵庫県歯科衛生士会北但馬支部研修会 2016. 3. 12</li> </ul> <p>【非常勤講師】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・神戸市看護大学大学院「慢性病ヘルスアセスメント」</li> <li>・兵庫県立総合衛生学院看護学科全日制・定時制「老年援助論演習－口腔ケア」</li> <li>・兵庫県立総合衛生学院歯科衛生学科「口腔保健管理Ⅶ」</li> </ul>
<p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が理解しやすい授業内容を工夫する</li> <li>・研究のための時間の確保</li> <li>・教員としての活動と社会的活動(歯科衛生士会会長)とのバランスのとれた活動を心がける</li> </ul>

教員名	福田 昌代	所属学科	口腔保健学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	教務委員会委員・国家試験対策委員会委員長・臨地実習委員会委員				
クラス担任	3年Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科予防処置論A・B・チェアサイドの口腔ケア法・歯科予防処置演習A I、歯科予防処置演習B I、・歯科衛生士ケアプロセスの実践・地域口腔保健支援実習 I 他臨地実習科目巡回担当				
担当科目コマ数	12.7				
本年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家試験対策委員長として、国家試験受験対象者全員が合格できるように取り組む。</li> <li>・3年生担任として、国家試験ならびに就職の支援を行う。</li> <li>・研究論文の投稿、学会発表</li> <li>・自己の研鑽（学位修得に向けて）</li> </ul>				
本年度の目標					

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国家試験合格100%</li> <li>・ 学生の自己学修の支援</li> <li>・ 継続している研究成果の発表と新しい研究の構築</li> <li>・ より良い授業内容の工夫、資料の工夫</li> </ul>
<p>主な活動内容</p>
<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>&lt;国家試験対策&gt;</p> <p>国家試験対策では、新カリキュラム構成に合わせて対策方法の変更を行い、その中でも100%合格に向けて学生支援ができるよう取り組んだ。業者模試と校内模試を充実させた。学生には自己の状態を把握し、次の目標を設定できるように「自己評価・振り返りシート」を記入させ、自分自身で目標設定をさせた。それをもとに個別に指導を行った。学生の個別学習状況に応じた支援として、必要に応じて個別面談を実施し学修を促した。</p> <p>&lt;研究&gt;</p> <p>昨年度学会発表した内容を論文として投稿した。また継続した研究発表を行った。学位取得のための研究も継続して行っている。</p> <p>&lt;授業&gt;</p> <p>今年度大きく資料を改正し、講義科目については1冊の冊子として構成し、学生に授業開始時に配布した。それにより、事前に予習ができること、試験対策の資料として学生が利用できたと思われる。今後改訂しながらより良い資料にする予定である。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. <b>ほぼできた</b> 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1) 教育活動</p> <p>認と評価ならびに成長の記録となるように使用する予定である。歯科衛生ケアプロセ</p> <p>2) 研究活動</p> <p>研究テーマ：</p> <p>①インドネシア・バリ島における歯科医療の実態調査</p> <p>②専門英語教育にグループ制作を取り入れることの学修効果</p> <p>③地域在住高齢者における口腔機能向上プログラム効果と口腔機能および体力との関連性</p> <p>④manabaシステム利用による教育効果について</p> <p>研究テーマの現状：</p> <p>① 2016年日本歯科衛生学会第11回学術大会で第5報を発表</p> <p>② 2016年度の学会誌に論文を投稿</p> <p>③ 日本歯科衛生教育学会で発表</p> <p>④ 科研費採択に伴い分担研究者として4年間研究を行う。調査を開始した。</p> <p>専門領域：歯科衛生士教育，海外の歯科医療</p> <p>本年度の研究業績：</p> <p>テーマ別研究・ジョイント研究・<b>科研(分担研究者)</b>・その他の外部資金)</p>

<研究テーマ：> 学会発表（2回） 学術論文（1編） 著書（ 冊） 3) 社会的活動 高大連携 東灘高校「基礎看護」講義担当
今後の課題 ・ 国家試験対策委員長として受験者全員合格できるように取り組む。 ・ 研究論文の投稿 ・ 日本の高齢者と台湾の高齢者の口腔機能等の比較縦断研究の実施 ・ 学位取得 ・ 自己研鑽

教員名	御代出 三津子	所属学科等	口腔保健学科	職名	講師
委嘱委員・職務	学生委員、学生相談室委員、臨地実習委員、口腔保健研究センター委員				
クラス担任	1年生Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科予防処置演習AⅠ・BⅠ、予防と歯科衛生ケアプロセスⅡ、診療補助実習Ⅰ、総合歯科実習、地域口腔保健支援実習Ⅰ、こどもの歯と健康				
担当科目コマ数	15.3				
本年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯科診療所の利用者を増やすために学生への働きかけを行う</li> <li>・ 地域にでることを増やす</li> <li>・ 学生指導においては個別対応を心掛ける</li> </ul>				
本年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「えん」を利用している方への指導を個別対応</li> <li>・ コミュニティハウスを活用する</li> <li>・ 学生相談室の委員としての業務をしっかりと行う</li> </ul>				
主な活動内容	<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>歯科診療所の利用者数は588名となり、口腔保健学科の学生中心ではあるが、積極的に働きかけを行い学生の利用者数は284名となった。一般の方々も次回の予約を取って帰られる方が増えてきている。</p> <p>子育て支援センター「えん」には後期毎週水曜日の午前に訪問し、「えん」に来られた方々に口腔に関するアドバイスや質問などに対応した。</p> <p>本学のコミュニティハウスを使用して「お口の健康道場」を成人コースで5回、高齢者コースを5回で実施した。毎週金曜日の10時～11時に開催した。トータルで20回開催したが参加者数はのべ26名だった。またこの時間に参加できる人は70歳以上の方なので、本学の歯科診療所受診へはつながらなかった。</p> <p>学生相談室委員として、自分の研究室で対応できるようにしているが、去年はほとんど相談を受けなかったが本年は数名が訪れた。</p>				

目標達成度の評価：1. できた ② ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった

## 2. 教員としての主な活動内容

### 1)教育活動

主に技術面を指導しているが、言葉で表現しにくい部分も多くあるので、使い方を説明しながら、理解できているかを確認しながら進めているが、効率よく訓練する指導はないか常に考えてしまう。学生は真面目に取り組んでいるが、練習してもできないと不安に思うようで、理解できていないことと手が思うように動かないことで悩んでしまう。

### 2)研究活動

研究テーマ：歯科衛生士法の考察

研究の現状：歯科衛生士の業務内容は変化してきているが歯科衛生士法が置き去りになっている

本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照

### 3)社会的活動等

「むし歯予防とフッ素について」～フッ化物洗口法を始める前に～  
ときわ幼稚園 2016. 4. 29

「お口の健康について」蓮池公会堂 2016. 6. 22 (蓮池消費者学級)

「歯ができるまで」丸山子羊幼稚園 2016. 6. 24

「お口から健康を見つける」～おいしく、楽しく、食べるために～  
パティオホール 2016. 6. 29

「歯の健康について」高畑町集会場 2016. 8. 28

「口腔ケアと嚥下障害」大阪府介護情報研修事業 2016. 10. 24

「学童期におけるお口と歯の健康をめざして」北五葉小学校保護者 2016. 11. 8

介護予防プログラム「口腔機能向上」蓮池ディサービス 2016. 5. 17・7. 5・9. 20・11. 22  
スクーリング研修会 2016. 4. 17・11. 23

### 今後の課題

歯科診療所の年間利用者数が588名となり、口腔保健学科の学生を中心に利用を進めることができたので、次年度は他学科の学生にも広げていくことができればと考える。

一般の方々は立地条件もあるので、どんどんは増えていかないが、継続して下さる方も決まってきたので、次回の予約日を決めて、帰っていただくようにしていきたい。

学生相談員の一人として、今後も個別に対応できるように心がけていきたい。

教員名	澤田 美佐緒	所属学科等	口腔保健学科	職名	講師
委嘱委員・職務	入試委員、個人情報保護委員、ハラスメント防止対策委員、臨地実習副委員長				
クラス担任	2年Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科衛生学概論、歯科診療補助演習Ⅰ、アシスタントⅡ・Ⅲ、臨床歯科Ⅴ、歯科衛生ケアプロセスの実践、ベッドサイドの口腔ケア法、診療補助				

	演習Ⅰ、総合歯科実習、口腔保健衛生学実習Ⅱ、地域口腔保健支援実習Ⅰ、こどもの歯と健康
担当科目コマ数	11.5
本年度の課題	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動 学生の自ら学ぶ姿勢を引き出す働きかけをする。</li> <li>・研究活動 前年度に発表した内容を論文にまとめる</li> </ul>	
本年度の目標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動 学生が予備知識を持って授業に取り組むように事前課題を提供する</li> <li>・研究活動 前年度歯科衛生教育学会で発表した内容を論文にまとめ雑誌に投稿する</li> </ul>	
主な活動内容	
<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動：担当授業の前に manaba を用いて、課題の提供を実施した。</li> <li>・研究活動：雑誌投稿に向け、論文の作成を行った。</li> </ul> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <p>「アシスタントワークⅡ・Ⅲ、歯科診療補助演習Ⅰ」学生が学内実習の前に講義科目で学んだことを復習し、予備知識をもって授業に取り組めるように事前課題を課した。</p> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：歯科衛生士養成校における「口腔機能管理計画・アセスメント票」を用いて高齢者施設臨地実習を行った場合の教育効果</p> <p>研究の現状：論文を作成し、日本歯科衛生教育学会誌に投稿した。</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 回） 論文（ 1編） 著書（ 冊）</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>①太成学院歯科衛生専門学校 非常勤講師 「高齢者歯科学」</p> <p>②長野県在宅歯科医療保健研修会 講師 2016.7.2</p> <p>③「口腔ケア研修」兵庫県立西播磨総合リハビリテーションセンター 2017.2.21</p>	
今後の課題	
<p>教育活動：学生それぞれがどのような部分で学習に対し困難を感じているのかを知り、個別の支援方法を検討する。</p> <p>研究活動：超高齢社会に対応できる歯科衛生士を養成するために、在学中に修得すべき項目および効果的な教育方法についてさらに検討を重ねる。</p>	

教員名	高藤 真理	所属学科等	口腔保健学科	職名	講師
委嘱委員・職務	教育イノベーション機構、広報委員会、神戸常盤大学短期大学部歯科診療所				
クラス担任	2年生Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	キャリア基礎、災害援助と救急医療、災害時の歯科衛生士の働き、歯科				

	医療と経済、歯科保健指導演習 I、口腔保健衛生学概論
担当科目コマ数	8.2
本年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯科衛生士教育における災害教育構築に向けて</li> <li>・ 教育と研究の両立</li> </ul>
本年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当科目の教授内容見直し</li> <li>・ 研究まとめ</li> </ul>
主な活動内容	<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当科目の教授内容と教授方法の精査を行った</li> <li>・ 研究のまとめとして、学会発表を行った</li> </ul> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた <b>3. あまりできなかった</b> 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <p>学科と教育イノベーション機構の活動</p> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：</p> <p>摂食・嚥下障害、歯科医療マネジメント、歯科からの禁煙支援、災害時における歯科の役割、歯科衛生士教育における災害教育</p> <p>研究の現状：</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害者歯科医療施設の災害・防災対策の現状調査を実施</li> <li>・ 障害者歯科医療施設利用者とその関係者の災害・防災意識に関する調査を実施</li> </ul> <p>学会発表（ 2 回） 論文（ 編） 著書（ 冊）</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>&lt;社会活動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 熊本地震支援活動 熊本市益城町（2016. 4. 24～26）</li> <li>・ 神戸市危機管理センター「災害時の口腔保健の重要性」展示（2016. 10. 11～11. 30）</li> <li>・ ラジオ関西「寺谷一紀と！い・しょく・じゅう！“医療を知ろう”」『歯科衛生士による被災地と災害時の支援』（2016. 11. 17）</li> </ul> <p>&lt;講演・講義&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「キャリア教育」兵庫県歯科衛生士会卒後研修必修プログラム（2016. 7. 24）</li> <li>・ 「PHD 協会第 34 期研修生～口腔衛生と災害・防災について」（2016. 10. 6, 21, 27）</li> <li>・ 「口腔ケアについて」西宮市委託事業小児慢性疾患児と家族支援の交流会（2017. 1. 21）</li> </ul> <p>&lt;学会発表&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第11回日本歯科衛生学会「障害者歯科医療施設における災害時要援護者支援を考慮した災害・防災対策構築に向けて」（2016. 9. 18～19）</li> </ul>

<p>・第33回日本障害者歯科学会「障害者歯科医療施設における災害・防災の取り組みの現状について」、「障害者歯科医療施設利用者における災害・防災の意識について」(2016.9.30～10.2)</p> <p>&lt;その他&gt;</p> <p>・関西オーラルマネジメント研究会 世話人</p> <p>・保険医協会兵庫連絡会 世話人</p>
今後の課題
・教育と研究の両立

教員名	大川 直美	所属学科	口腔保健学科	職名	講師
委嘱委員・職務	教務委員、国家試験対策委員、臨地実習委員、神戸常盤ボランティアセンター委員				
クラス担任	1年Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科保健指導演習Ⅰ、予防と歯科衛生ケアプロセスⅡ、ボランティアの理論と実践、う蝕予防の実践Ⅱ、口腔保健衛生学概論、地域口腔保健支援実習Ⅰ、地域口腔保健支援実習Ⅱ、診療補助実習Ⅰ、口腔保健衛生学実習Ⅰ、海外研修				
担当科目コマ数	15.3				
本年度の課題					
研究活動の推進					
本年度の目標・方針	障害者の口腔状況と課題を探るための調査と、外部資金の獲得。				
主な活動内容	<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>障害者の口腔状況と課題を探る調査を行う前段階として、神戸市西区にある障害者の就労支援施設と次年度からの口腔保健活動プロジェクトの計画と調整を行った。</p> <p>目標達成度の評価：1.できた ② ほぼできた 3.あまりできなかった 4.できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1) 教育活動</p> <p>学生が授業で学ぶ歯科保健指導の場をイメージしやすいように、授業前の課題として視覚教材を用いたり、関連する書籍を使った課題を与えたりするなど、想像力を膨らませられるよう工夫した。国家試験対策では学生の理解度に応じて解説の手段を変えるなど、理解力の向上に努めた。</p> <p>2) 研究活動</p> <p>研究テーマ：障害者の歯科的現状と課題に関する研究</p> <p>研究の現状：昨年度の目標として挙げていた調査結果を論文にまとめることが出来なかったため、引き続き進めていく。</p> <p>専門領域：ケアマネジメント、スーパービジョン、専門職教育</p>				

<p>本年度の研究業績：</p> <p>テーマ別研究・ジョイント研究・科研・その他の外部資金（ ）</p> <p>&lt;研究テーマ：地域で生活する精神障害者の歯科的現状と課題&gt;</p> <p>学会発表（ 2回） 学術論文（ 編） 著書（ 冊）</p> <p>3）社会的活動等</p> <p>&lt;ボランティア活動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生と共に、「ながたっ子祭り」での口腔啓発活動、2016年10月9日</li> <li>・学生と共に、長田神社前商店街「おやつはべつばら」イベントでの口腔啓発活動 2016年10月15日</li> </ul> <p>&lt;講演&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・神戸常盤大学公開講座「口からいきいき介護」2016年8月31日</li> </ul> <p>&lt;委員等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公益社団法人兵庫県歯科衛生士会会員管理委員</li> <li>・長田区ユニバーサルデザイン研究会委員</li> <li>・NPO法人すまみらい「絵本を通じた教育機関へのこころの病に関する啓発事業」 実行委員</li> <li>・長田区障害者自立支援センター「つどう部会」委員</li> <li>・長田区自立支援協議会防災プロジェクト委員</li> </ul>
<p>今後の課題</p> <p>今年度から準備していた障害者就労支援施設との口腔保健向上に関するプロジェクトを進めていくにあたり、調査及び研究の構築や発信のための研究資金獲得の申請が課題となる。</p>

教員名	破魔 幸枝	所属学科等	口腔保健学科	職名	助教
委嘱委員・職務	入試委員会委員、広報委員会委員、臨地実習委員会委員				
クラス担任	3年Aクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科診療補助演習Ⅰ、歯科予防処置演習BⅠ（歯周病）、チェアサイドの口腔ケア、アシスタントワークⅡ、総合歯科実習、地域口腔保健支援実習Ⅰ、ベッドサイドの口腔ケア				
担当科目コマ数	14.2				
本年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教授方法の工夫</li> <li>・研究分野のフィールド調査</li> <li>・研究デザインの完成</li> </ul>				
本年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常に本学科の理念・ポリシーを意識し、学生を指導する。</li> <li>・研究分野の研鑽に努め、研究テーマを再検討し、調査へ移行する。</li> </ul>				
主な活動内容					

1. 目標達成に向けた活動内容

- ・担当科目において、教授方法を学生主体に改革し、その結果が学生の振り返りやレポートで確認することができた。
- ・研究では、新たな調査に進展することはできなかったが、調査方法を見直すことで研究デザインの再検討を図ることができた。

目標達成度の評価：1. できた  2. ほぼできた  3. あまりできなかった  4. できなかった

2. 教員としての主な活動内容

1)教育活動

学修の方法において、学生主体を促す工夫を行った。必ず、事前学習を具体的な内容や範囲で指示し、授業のなかでその活用にて実習を行った。そのことより、学修の理解は深まり、実習体系もスムーズに進行するため、学修内容を授業内で振り返ることが可能となった。また、毎回実習前に目標を明確にさせ、意識させる実習を行った。その結果、自ら改善点を見出し、中にはグループ間で教え合いながら学修を行っていた。学修する姿勢が定着するような学習方法をさらに展開していく。

2)研究活動

研究テーマ：教育における自己肯定感への影響や効果  
 研究の現状：研究データの分析  
 本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照  
 科研費申請  
 学会発表（      回） 論文（      編） 著書（      冊）

3)社会的活動等

今後の課題

- ・教授について学生主体は整ってきたが、学修意欲に繋がっていない。学習環境が良くなっても、学生の本心を聞くと、学習意欲は低いレベルとみられる。学習意欲を引き上げるためには、意識改革が必要であり、そのための学生支援が不可欠と考える
- ・研究においては、研究デザインの再構築を行ったので、新たな調査に進む計画である。

教員名	東 麻夢可	所属学科	口腔保健学科	職名	助教
委嘱委員・職務	国際交流センター委員、学生委員会委員、国家試験対策委員会委員、就職委員会委員				
クラス担任	3年Bクラス担任	クラブ顧問	なし		
担当科目名	アシスタントワークⅡ、アシスタントワークⅢ、予防と歯科衛生ケアプロセスⅡ、歯科診療補助演習Ⅰ、歯科保健指導演習Ⅰ、地域口腔保健支援実習Ⅱ、口腔保健衛生学実習Ⅱ、診療補助実習Ⅰ				
担当科目コマ数	15.3				
本年度の課題					

<p>教育：実習内容の見直し、充実化、学生の自ら学ぶ姿勢を引き出すための工夫          委員会：国家試験100%合格に向けての学習支援、国際交流に関する新規事業への取り組み、学生主体の活動のサポート、円滑な学生の就職活動の支援          研究：研究資金獲得および論文作成に向けた研究継続、学会参加による情報収集</p>
<p>本年度の目標</p>
<p>教育：事前課題ノートの実施および活用、提出物の内容の充実化          委員会：新規事業立ち上げ、学生へのサポートの充実化          研究：テーマ別研究、科研費による研究資金獲得</p>
<p>主な活動内容</p>
<p>1. 目標達成に向けた活動内容          教育：配布教材を削減し、事前課題に沿った授業の展開を行った。          委員会：新規事業を立ち上げた。面接練習や少人数制学習を行った。          研究：テーマ別研究費、科研費の獲得に向けて、調書作成に尽力した。          目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動          昨年に引き続き複数の実習科目に関わっていたため、情報を共有することで、円滑な学内実習の運営に活かすことができた。</p> <p>2)研究活動          研究テーマ：豆とばしにおける豆の飛距離に影響を与える口腔機能の検討          研究の現状：平成28年度テーマ別研究費を獲得。第6回神戸常盤大学公開講座にて報告予定。次年度以降も継続予定。          本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照</p> <p>3)社会的活動等          ①TOKIWA 健康フェア (H28. 10. 2) ②神戸常盤大学公開講座 実習サポート (H28. 8. 31)</p>
<p>今後の課題</p>
<p>教育：学生の自ら学ぶ姿勢を引き出すための工夫 委員会：学生主体の活動のサポート          研究：研究資金獲得および論文作成に向けた研究継続、学会参加による情報収集</p>

教員名	濱 清華	所属学科等	口腔保健学科	職名	助手
委嘱委員・職務	地域交流センター委員、国家試験対策委員、就職委員				
クラス担任	1年生Aクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科診療補助演習Ⅰ、アシスタントワークⅡ・Ⅲ、歯科予防処置演習AⅠ・BⅠ、チェアサイドの口腔ケア法、各臨地実習巡回担当				
担当科目コマ数	16.4				
本年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学内実習の工夫と改善</li> <li>・国家試験対策での学習支援</li> <li>・研究活動の実施</li> </ul>				

本年度の目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学内実習において、学生が円滑に実習に取り組めるよう事前準備を工夫する</li> <li>・臨床科目を中心に、国家試験対策を行う</li> <li>・研究活動成果の公表</li> </ul>
主な活動内容
<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内実習の準備、補助を行い、円滑な実施するように努めた。</li> <li>・国家試験対策の個別補講を担当し、模擬試験の解答解説を行った。</li> <li>・第7回歯科衛生士教育学会にて発表した。</li> </ul> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動 兵庫県歯科衛生士会歯科衛生学術研究発表 学生指導、引率 地域交流センター事業「小豆島地域交流合宿」学生引率</p> <p>2)研究活動 研究テーマ：①細菌カウンタを歯科保健指導教育に導入しての一考察 ②口唇閉鎖力訓練効果の定量的評価に基づく有効な訓練方法の検討 研究の現状：①第7回歯科衛生士教育学会にて発表 ②科研費申請、基礎データを収集中 本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照</p> <p>学会発表（ 1 回） 論文（ 編） 著書（ 冊）</p> <p>3)社会的活動等 公益社団法人兵庫県歯科衛生士会 普及啓発委員</p>
今後の課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学内実習において実習内容、方法の工夫</li> <li>・研究時間の確保</li> </ul>

## 5. 短期大学部 看護学科通信制課程

教員名	高宮 洋子	所属学科等	看護学科通信制課程	職名	教授
委嘱委員・職務	課程長・通信教育委員会（副委員長）・研究倫理委員会委員・入試委員会合否判定委員会委員・臨地実習検討委員会委員				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	看護学概論・看護行為論・基礎看護学演習・基礎看護学実習・看護過程演習				
担当科目コマ数	120時間				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学概論の学習を支援する補助教材の作成に取り組む</li> <li>・個人研究をまとめ学会発表する。</li> <li>・学修困難学生への働きかけを強化し、学修相談を活発化する。</li> </ul>					
本年度の目標					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護学概論レポート評価基準に基づき、レポート作成における学習の手引きを作る。</li> <li>2. 課程内の教務委員と協同し、学習の進捗に課題のある学生への働きかけを強める。</li> <li>3. 1年目の課題の進捗状況に合わせ、学修困難にある学生に学修相談日の活用への働きかけを強める。</li> <li>4. 継続中の研究をまとめ学会発表する。</li> </ol>					
主な活動内容					
<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>1) 看護学概論の評価基準について、添削指導員との意見交換を進めていたが、評価基準に基づき、「看護学概論レポート作成への手引き」の作成に取りかかり、ほぼ仕上げることが出来た。</p> <p>2) 昨年、教務委員と共に1年目の課題である基礎看護学実習を履修できなかった学生を対象に「学習計画の見直しと学習の進め方」の学習会を開催し、参加者について、その後のレポート提出に成果が見られたことから、今年度も開催したが取り組みが遅れたこともあり参加者が6名に留まった。</p> <p>3) 1年目の課題の進捗状況にあわせ8月に電話による対話を行った。留守番電話に関しては学習相談への呼びかけをおこなった。学修相談は電話、来校合わせて39件にとどまった。入学時やWe' 11などで呼びかけており頻回に活用する学生もいるが、まだ働きかけが不十分と考える。</p> <p>4) 継続中の研究のうち1部を、日本看護学養育学学会においてポスター発表することができた。また同発表を本学のフォーラムで発表した。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた ②. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <p>レポート添削指導：看護学概論、看護行為論、基礎看護学演習、看護過程演習</p>					

<p>スクーリング：基礎看護学実習スクーリングの実施（本学2回、京都会場1回）</p> <p>学修支援活動：基礎看護学実習未履修学生への勉強会における個別指導、学修相談日の企画実施、電話及び対面位より個別学修支援</p> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：本学通信制課程での学修成果と課題</p> <p>研究の現状：「看護師2年課程（通信制）短期大学卒業生の現状からみた学修成果と課題－教育ニードアセスメントツールを用いて－</p> <p style="text-align: center;">2016年度日本看護学教育学学会においてポスターで発表、 研究全体についてのまとめ及び整理継続中</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照</p> <p style="text-align: center;">学会発表（ 1 回） 論文（ 0編） 著書（ 0冊）</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>看護協会主催臨床実習指導者講習会講師「教育課程—2年課程通信制」（岡山県・奈良県看護協会、京都洛和学園）</p> <p>泉州看護専門学校非常勤講師「人間関係論」1単位 45時間</p> <p>医療社会法人同仁会耳原総合病院外部倫理委員、治験委員委嘱</p> <p>全国通信制看護学校協議会会長として会の活動を進行、</p> <p>平成27年度厚生労働科学研究費補助特別事業「看護師2年課程（通信制）への進学者の就業年限と就業内容に応じた教育内容に関する研究」研究者代表井部俊子の研究班員として参加</p>
<p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート作成の手引きを活用できるようにして、基礎看護学実習の履修が順調にすすむように学修支援を強化する。</li> <li>・教務委員と協同し学生の学習進捗状況に合わせた学修支援を行う。</li> <li>・継続中の研究をまとめる。</li> <li>・課程長として、スクーリング会場が金沢に変更になることに関連し、広報と協同し関係看護協会等に働きかけ、学生確保、実習地確保など環境調整を行う。</li> </ul>

教員名	金川 治美	所属学科等	看護学科通信制課程	職名	教授
委嘱委員・職務	通信教育委員 自己点検評価委員会（副委員長） 臨地実習委員会（副委員長）				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	成人看護学概論、成人援助論、成人看護学演習、成人看護学実習 看護過程演習				
担当科目コマ数	授業時間数 210時間				
本年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生のアセスメント能力の向上を図る。</li> <li>・ これまでの研究活動の総括及び研究テーマの探究と発表</li> </ul>				
本年度の目標					

<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の「看護実践をアセスメントできる力」の評価が向上する。</li> <li>・対応困難の要因に関する研究成果の発表及び論文の執筆</li> </ul>
<p>主な活動内容</p>
<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入学してくる学生にかなり幅があり、これまでの具体的に事例を用いて思考過程を示すという方法でも、理解に至らないことが目立つように感じられる。すくーりんぐじにこべつの指導をする時間をとることには限りがあるが、学生数の減少により個人に関わる時間を捻出する努力が必要であると感ずる。学生の自己評価は高いが教員の評価とかなり隔たりがある学生も目立つ。</li> <li>・ 研究テーマ「在宅看護における対応困難事例、暴言、暴力の現状と対策に関する研究」（平成24年度科学研究費助成金：基盤研究C課題番号24593282）で、全国の訪問看護師に対する対応困難事例に関する質問紙郵送調査の分析結果を在宅医学会で発表した。また、これまでの調査研究内容を総括し、混合研究学会で発表をした。</li> </ul> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動</li> </ul> <p>スクーリング：成人看護学概論（計4回）、成人看護学実習（3日間×5回）</p> <p>レポート添削指導：成人援助論、成人看護学演習、看護過程演習</p> <p>学習説明会：本学で入学式後に実施。</p> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：在宅看護における対応困難事例、暴言、暴力の現状と対策に関する研究 継続看護システムの構築、看護における健康教育の在り方</p> <p>研究の現状：本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照 学会発表（3回）論文（0編）著書（0冊）</p> <p>3)社会的活動等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国通信制看護学校協議会会長として活動</li> <li>・平成28年度看護職員確保対策特別事業「看護師養成所2年課程（通信制）における臨地実習のあり方に関する調査」研究者代表井部俊子の研究班員として参加</li> </ul>
<p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメント能力向上のための教育方法の工夫</li> <li>・「在宅看護における対応困難事例、暴言、暴力の現状と対策に関する研究」の結果から継続看護の在り方に関する研究を計画する。</li> </ul>

教員名	中野 順子	所属学科等	看護学科通信制課程	職名	准教授
委嘱委員・職務	国際交流センター委員、個人情報保護委員会委員、臨地実習委員会（通信）委員長				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	看護教育指導技術、看護管理、看護マネジメント演習				

担当科目コマ数	授業時間数 210時間
本年度の課題	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学会への論文投稿への取り組みと科研費申請の取り組み</li> <li>・担当科目及び実習後対面授業における授業内容と教材の工夫</li> </ul>	
本年度の目標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・論文投稿に向けた医療安全に関するセミナーへの参加と科研費申請の再チャレンジ</li> <li>・学生が主体的に学ぶことの出来る授業に向け研究会に参加し、自己の授業を振り返り活用できる内容と教材の工夫</li> </ul>	
主な活動内容	
<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療安全全国共同行動主催のセミナーに参加し、直近の知見を得て論文投稿の為の準備を開始した。科研費は医療安全に関する研究について前年度申請分の不採択の結果を得、再申請に向かったが期限切れとなり、引き続き早期より申請の取り組みを継続。</li> <li>・「協同学習を用いた看護教育研究会」に年間4回参加し、学生が主体的に学ぶための実践報告・体験学習・講演を通じ新しい知見を得、授業内容の振り返りが出来た。具体的取り入れの実施は今後継続を必要とする。教材は、テキストと資料の整合性を高める為内容の追加をはかった。</li> </ul> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた ③あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護教育指導技術の講義はオムニバスであったが、ほぼ全講義を担い実施。</li> <li>・看護マネジメント実習後の授業の実施。受講生120名、31施設のまとめを行った。</li> <li>・看護管理、看護マネジメント演習レポートの添削、電話、対面での指導の実施。</li> <li>・国際交流センター委員として、通信制学生2名のネパール研修派遣前後の支援の実施。</li> </ul> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：中小規模病院におけるヒヤリ・ハット事例の収集と報告を阻害する要因 研究の現状：本年度はセミナー参加に留まった。 本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 0 回） 論文（ 0 編） 著書（ 冊）</p> <p>3)社会的活動等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国境なき医師団、ユニセフ、マンスリーサポートの継続</li> <li>・通信制課程卒業生との交流（卒業後の活動、学生募集に関する情報の交換など）</li> </ul>	
今後の課題	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・論文投稿の取り組みと科研費申請の再実施</li> <li>・学生が主体的に取り組む協同学習の知識を用いた授業への取り組み</li> </ul>	

教員名	玉村 由紀	所属学科等	看護学科通信制課程	職名	講師
委嘱委員・職務	入試委員、広報委員、兵庫県看護協会代表				

クラス担任	なし	クラブ顧問	卓球部
担当科目名	老年看護学概論、老年援助論、老年看護学演習、老年看護学実習 災害時の歯科衛生士の働き（5コマ）		
担当科目コマ数	授業時間210時間		
本年度の課題			
①老年看護学概論の資料の再検討、実習スクーリングで学生が理解しやすい説明をする。 ②平成30年度入試から入試用件の変更があるため、次々年度入試に向けて、広報の検討。			
本年度の目標			
①老年看護学概論の資料の再検討、実習スクーリングで学生が理解しやすい説明をする。 ②新たな入試広報を考え実施し、受験者が増加する。			
主な活動内容			
<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>①配布資料の改善を行ったため、学生からの評価も少し上がり、前年よりは良くなったが、まだ改善の余地はあると考える。授業内容についての検討は行ったが、考えがまとまらず実施には至らなかった。</p> <p>②広報として、オープンキャンパスで個別相談を実施していることをホームページに掲載した。その成果が参加者が増えた。また、東京での受験者確保のため、本学主催の入学説明会を実施し、17名の参加があり内9名の受験があった。しかし、全体としては受験者数の増加にはつながらず、過去最低の入学者数となった。</p> <p>目標達成度の評価：1.できた 2.ほぼできた ③あまりできなかった 4.できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <p>実習スクーリングで行っている内容を国家試験を意識した説明の仕方をした。また、レポートのコメントの仕方を変え、教科書や参考文献の参考となる部分を示し、根拠の必要性がはっきり分かるようなコメントとした。</p> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：エンド・オブ・ライフケア</p> <p>研究の現状：施設看護師と昨年度エンド・オブ・ライフケアの勉強会を経て、実施内容の検討を行った。</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照 学会発表（0回） 論文（0編） 著書（0冊）</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>はすいけデイサービスでの介護予防プログラム「口腔機能向上」（1回）</p>			
今後の課題			
①概論スクーリングにおける配布資料等の更なる改善、国家試験を意識した内容の見直し、また、直ぐには手をつけられないかもしれないが、レポート課題の見直しが必要。 ②少しでも多く受験者が得られるように広報を行う必要がある。			

教員名	小坂 素子	所属学科等	看護学科通信制課程	職名	講師
委嘱委員・職務	通信教育委員、臨地実習委員、ハラスメント防止対策副委員長				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	母性看護学概論、母性援助論、母性看護学演習、母性看護学実習				
担当科目コマ数	授業時間210時間				
本年度の課題					
1. 学生が母性看護の苦手意識を軽減できる様、授業内容の工夫を考える。 2. 自己の教育力を高めるために、他学科の授業の聴講や研修会等に参加する。					
本年度の目標					
1. 学習者の学習への多様性を理解し、事例を組み入れ理解できる授業内容を提示する。 2. 教育効果を高めるために、他者からの学びを自己の授業内容や教材に繋げる。					
主な活動内容					
1. 目標達成に向けた活動内容 1) 理解できる授業内容：学生の反応から抽象的な内容やイメージ化しにくい内容は、臨床事例や社会状況を組み入れた。又、数量化したり写真や映像も活用をした。 2) 教育効果を高めるための工夫：他の教員の教材を見たり、考えを聞いた。又、自己の教材を他の教員から、客観的な視点でのアドバイスを得た。その結果、気づかなかった点や絞りきれていない点などが明確になった。 目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった					
2. 教員としての主な活動内容 1)教育活動：スクーリング：母性看護学概論（計4回）、母性看護学実習（計5回） レポート添削指導：母性援助論、母性看護学演習 2)研究活動 研究テーマ：在宅看護における対応困難事例 研究の現状：「訪問看護師にとっての対応困難事例の困難要素」の分析について論文にまとめて関連学会に投稿予定である。 本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 1 回） 論文（ 0 編） 著書（ 0 冊）					
3)社会的活動等 公益財団法人 日本助産師会 ：代議員 一般社団法人 兵庫県助産師会：理事（広報委員会、福祉・厚生委員会、定款担当委員会、組織強化委員会）、西宮市市民健康フェアに参加、たばこと健康を考える兵庫県フォーラム、歯科保健対策推進会議、音楽療法士交付式 姫路赤十字看護専門学校：「マタニティサイクルにある人々の看護」 講師					
今後の課題					
1. 自分自身が成長し続けるため、更なる他職種者間との人間関係を広げたい。 2. 広い視野を持つために、地域での活動にも積極的に参画したい。					

教員名	武 ユカリ	所属学科等	看護学科通信制課程	職名	講師
委嘱委員・職務	図書紀要委員、FD委員、実習検討委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問			
担当科目名	在宅看護概論、在宅援助論、在宅看護論演習、在宅看護論実習				
担当科目コマ数	授業時間210時間				
本年度の課題					
① 在宅療養者と家族への個別性に応じた援助について学生指導の向上に努める。 ② 研究テーマへの取り組み、学会発表や論文の執筆					
本年度の目標					
① 担当科目：在宅看護論実習のスクーリングにて、資料、教材の工夫を行い、学生に対する療養者と家族への個別性に応じた援助について理解を深める。 ② 研究テーマについての調査実施、結果分析、論文作成を行う。					
主な活動内容					
<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>① 実習でも、在宅療養者と家族の厳しい現実の側面にまで触れることは難しい。そのため実習スクーリングの中で介護殺人をテーマにしたドキュメンタリー番組の視聴を取り入れ、厳しい現実さらされる事例があることを紹介した。援助職の立場から、具体的な援助について検討することが重要であることを理解できるように指導した。</p> <p>② 以下2件のテーマについて活動した。</p> <p>研究テーマ1「在宅看護における対応困難事例、暴言、暴力の現状と対策に関する研究」日本在宅医学学会、日本混合研究法学会で調査結果を発表した。</p> <p>研究テーマ2「訪問看護利用者、家族による暴力の危険予知訓練プログラムの構築と実施効果の検討」全国の訪問看護ST管理者に対する暴力に関する質問紙郵送調査の実施、分析を行った。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動 在宅看護概論スクーリング（8限）計4回、在宅看護実習スクーリング（3日間×5回）、臨地実習支援、在宅援助論レポート添削指導、在宅看護論演習レポート添削指導</p> <p>2)研究活動 研究テーマ：上記に記載。 研究の現状：上記に記載。 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照。 学会発表（2回） 論文（0編） 著書（0冊）</p> <p>3)社会的活動等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・丹波市立看護専門学校非常勤講師「哲学（生命倫理）」4時限</li> <li>・徳島県訪問看護支援センター在宅医療提供体制整備事業研修会講師「訪問看護ステーションにおけるクレーム発生予防と発生時の対応」平成28年11月3日</li> <li>・訪問看護師等が利用者・家族から受ける暴力対策委員会（委員）【民間活動：平成29</li> </ul>					

年1月30日発足】
今後の課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅看護を取りまく社会背景や制度の変遷に沿い、学生が理解しやすい授業構築が必要である。</li> <li>・研究テーマの計画に応じた活動を継続する。（学会発表、論文執筆、訪問看護師に対する暴力に関する調査の実施）</li> </ul>

教員名	松原 渉	所属学科等	通信制課程	職名	講師
委嘱委員・職務	入試委員、危機管理委員				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	精神看護学				
担当科目コマ数	授業時間210時間				
本年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動における授業内容を精選するとともに授業方法の工夫をおこなう</li> <li>・調査内容を明らかにして研究に取り組む</li> </ul>				
本年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動における授業内容を精選するとともに授業方法の工夫（ゆっくり話すなど）をおこなう</li> <li>・スクーリング受講生に依頼し職場で受けた暴力のアンケート調査を実施する</li> </ul>				
主な活動内容	<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクーリングの準備として一部、配布資料の修正をするが、精神看護学概論の内容は難解な専門用語が多いことや授業に不慣れの為、授業評価は他の科目平均よりも低かった。相変わらず「スライドの切り替えが早く早口、配布資料が一致していない」等の感想・意見を受けた。したがって、引き続き授業内容の見直しや、ゆっくり学生の反応を見て、発問する。パワポだけでなく板書活用などで興味を引かせる工夫が必要であると考え</li> <li>・看護者に対する職場暴力に関する文献収集をして研究計画書を作成した。</li> </ul> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動 精神看護学概論、実習スクーリング、精神援助論演習レポートの添削指導</p> <p>2)研究活動 研究テーマ：准看護師が受けている職場暴力の実態調査 研究の現状：調査は終了し研究計画書通り進行中 本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 0 回） 論文（ 0 編） 著書（ 0 冊）</p> <p>3)社会的活動等 特になし</p>				

今後の課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容の中で学生が主体的に興味をもって参加できる授業方法を工夫したい。</li> <li>・2017年度に教科書が改訂されており、配布資料も修正する。</li> <li>・精神科病院に勤務する看護師の感情に関する研究計画書を作成したい。</li> </ul>

教員名	山岡 紀子	所属学科	看護学科通信制課程	職名	講師
委嘱委員・職務	国家試験対策委員会CCN委員長、臨地実習委員会、通信教育委員会				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	小児看護学概論、小児援助論、小児看護学演習、小児看護学実習				
担当科目コマ数	授業時間数 210時間				
本年度の課題					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生が自ら「苦手」と「不安」を克服し、学修を継続できるように支援する。</li> <li>2. 正・極および超低出生体重児のデータを3群間で比較・検討する。</li> </ol>					
本年度の目標					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生の「苦手」「不安」の原因を抽出し、それらを軽減する教育を実践する。</li> <li>2. 3群間のデータを解析し、明らかになった事実を整理し学会発表する。</li> </ol>					
主な活動内容					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目標達成に向けた活動内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>目標1：概論は授業内容を更に精選し、不安要因のレポート作成や学習計画のポイント説明に注力した。実習スクーリングでは、学生が苦手な看護過程と解剖生理を小児看護事例を通して具体的に教授したところ、授業後前向きな感想が得られた。学生による授業評価は、今年度も全カテゴリーにおいて学科平均を上回った。</li> <li>目標2：データ収集を継続し3群間で整理した内容を、小児科学会と小児神経学会で口演発表、The 49th APACPH Conference と公衆衛生学会でポスター発表した。</li> </ul> </li> </ol> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. 教員としての主な活動内容 <ol style="list-style-type: none"> <li>1)教育活動 <p>テキスト科目：小児援助論および小児看護学演習のレポート添削指導および事後指導</p> <p>スクーリング科目：小児看護学概論（春期および秋期、3会場にて4回）</p> <p>小児看護学実習（実習スクーリング3日間×5回）</p> </li> <li>2)研究活動 <p>研究テーマ：極および超低出生体重児における幼児期早期の共同注意行動の発達とその評価法の検討（科研費基盤研究C）</p> <p>研究テーマの現状：2群比較論文受理（PubMedリンク）、3群比較データ収集・整理</p> <p>専門領域：公衆衛生看護学、小児保健</p> <p>本年度の研究業績：テーマ別研究・ジョイント研究・<b>科研</b>・その他の外部資金（1）</p> <p>学会発表（4回：国内3・国際1、全て筆頭）学術論文（1編：英文、筆頭）著書（0）</p> </li> </ol> </li> <li>3)社会的活動等 <p>神戸市総合児童センター・神戸大学大学院保健学研究科地域連携センター「極低出生</p> </li> </ol>					

体重児とその家族のための子育て支援教室 YOYO クラブ」 (今年度 20 回参加)

今後の課題

1. 引き続き学生の「苦手」「不安」軽減に努め、学習が進捗する達成感につなげる。
2. 3群を比較した結果をまとめるとともに、新たな課題を抽出し今後の研究へつなぐ。

## 6. 教育イノベーション機構

教員名	柳 敏晴	所属学科等	教育イノベーション機構, 口腔保健学科	職名	教授
委嘱委員・職務	教育イノベーション機構・機構長、図書紀要委員				
クラス担任		クラブ顧問	バスケットボール部		
担当科目名	キャリア基礎、健康スポーツ科学、保健行動論、健康科学総論				
担当科目コマ数	7.7				
本年度の課題	幅広い教養を持つ学生を育て、小さくてもきらりと輝く「いのちに寄り添う大学」を目指し、教育の変革（イノベーション）を続ける。				
本年度の目標	平成 29 年度 4 月より教育改革を実施する。 学内に、協働と挑戦の風土を醸成する。				
主な活動内容	<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>1) 教育イノベーション機構会議による審議（32 回）</p> <p>2) ワーキンググループによる作業の推進（基盤教育科目の構築、ときわ教育目標、ときわコンピテンシー、DP、CP、AP、SSP、ASP の原案作成等）</p> <p>3) 学内への発信（基盤教育科目担当者説明会、教学マネジメント改革説明会、パブリックコメント実施、寺子屋 WG、SSPWG、ASPWG の開催等）</p> <p>4) 大学生基礎力調査の実施</p> <p>5) 系列校入学前教育の実施</p> <p>目標達成度の評価：1. できた <span style="border: 1px solid black;">2. ほぼできた</span> 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1) 教育活動</p> <p>①キャリア基礎（科目責任者）、健康スポーツ科学（科目責任者）、保健行動論（担当者）、健康科学総論（担当者）として</p> <p>②基盤教育設置のために、機構会議で準備し、学長会議に提案し新教育課程を機構として設置した。</p> <p>2) 研究活動</p> <p>研究テーマ：海洋スポーツ指導者養成、野外教育のマネジメントと人材育成、ウエルネスの普及と展開</p> <p>研究の現状：本年度は、学内の教育イノベーションが中心のため、学会発表を中心にしか行えなかった。</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照</p>				

学会発表（４回） 論文（０編） 著書（３冊）
3)社会的活動等
①神戸常盤地域交流センター講師 ②神戸市シルバーカレッジ講師 ③日本セーリング連盟普及指導委員会アドバイザー ④日本海洋人間学会副会長 ⑤日本ウエルネス学会第10回大会実行委員 ⑥B&G財団海洋性レクリエーション指導者講師 ⑦ヤマハ発動機スポーツ振興財団理事 ⑧国際ボランティア学会理事 ⑨園田学園女子大学非常勤講師 ⑩日本体育学会名誉会員証授与（第355号）
今後の課題
1. 基盤教育科目の運用、推進、点検 2. 学生支援の展開 3. 次世代教員の養成

教員名	岩越 美恵	所属学科等	教育イノベーション機構, 看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	学生部長、健康保健センター委員、教育支援センター委員				
クラス担任			クラブ顧問		
担当科目名	健康科学総論（N・O）、養護概説、症候論Ⅱ、障害児保育、養護実習Ⅰ・Ⅱ、事前及び事後の指導、教職実践演習、看護研究、臨床病態学Ⅰ・Ⅱ、臨床病態学演習Ⅰ・Ⅱ、医療から見た特別支援、キャリア基礎				
担当科目コマ数	6.9				
本年度の課題	・インクルーシブ教育における合理的配慮について、ときわ幼稚園をフィールドに研究テーマを探る。				
本年度の目標	・学生部において、学生自治会の活性化と協働を図る。				
主な活動内容	<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>年度初めに、学生自治会代表と話し合い、学生部の思いを伝え、具体的には2号館の改築に伴い、学習室「カルティベ」の使用ルールを自治会主体で作成した。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. <span style="border: 1px solid black;">ほぼできた</span> 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の障害児関係の授業では選択履修学生が多く、学外授業が実施できなかった。</li> <li>・「事前及び事後の指導」や「教職実践演習」ではグループワークを多く取り入れ、アクティブラーニング化を図った。</li> </ul> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：こども未来センターにおける障害児の地域支援の実践（教育委員会との協</p>				

<p>働推進の試み)</p> <p>研究の現状：センター内の診療部門と地域学校支援課のスタッフとの有機的な地域支援にしていくため、1月より石川道子教授（武庫川女子大）と共に研究会を立ち上げ、スタッフの交流を図った。その結果、少しずつ連携が深まる結果を得た。</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照</p> <p>学会発表（0回） 論文（0編） 著書（0冊）</p> <p>3)社会的活動等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西宮市社会福祉協議会「青葉園」の運営委員、NPO 法人青葉福祉会の評議員として定例会に出席</li> <li>・三木市教育センターにおける教育相談（1回/月）</li> <li>・NPO 法人みどり兵庫（成年後見制度）の評議員として総会、理事会に出席</li> </ul>
<p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発達障害児の個性としてのポジティブな自己認知に向けた支援について、医師の立場から考える。</li> </ul>

教員名	栗岡 誠司	所属学科等	教育イノベーション 機構、医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	入試委員・イノベーション機構・高大連携委員長				
クラス担任			クラブ顧問	サイエンスボランティア ，弓道，陸上	
担当科目名	検査学入門実習、基礎化学、基礎セミナー、自然と環境Ⅰ、有機化学、無機化学、分析化学実習				
担当科目コマ数	9.0				
本年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラウド型教育支援システム manaba を使った学修支援活動の実践</li> <li>・高大連携事業の精選</li> </ul>				
本年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎化学から、有機化学および無機化学へと連携を深め、化学好きの学生を増やす。</li> <li>・サイエンスボランティアへの学生の参加を促し、学生の社会貢献を図り、コミュニケーション能力を育成する。</li> </ul>				
主な活動内容	<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>manabaを活用しての教育活動の実施，サイエンスボランティア事業を実施</p> <p>目標達成度の評価：1.できた 2.ほぼできた 3.あまりできなかった 4.できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動；初年次教育の充実</p> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：クラウドやスマホアプリを使用しての学修の可能性の検証</p> <p>研究の現状：1年生及び卒論生対象に検証中</p>				

<p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照 学会発表（      回） 論文（ 1編） 著書（      冊）</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>① 文科省・JSTよりの委嘱にてSSH審査員</p> <p>② 明石市教育委員</p> <p>③ 県教委サイエンストライやる事業登録講師</p> <p>④ 独立行政法人青少年教育振興機構ゆめ基金の支援を受け、サイエンス教室を実施</p> <p>⑤ 長田区内児童館にて理科遊び教室を実施</p> <p>⑥ 第13回小柴昌俊科学教育賞受賞</p>
<p>今後の課題</p> <p>・クラウド型教員支援システムmanabaの活用方法の充実</p> <p>・キャリア基礎、卒業研究、化学の授業（基礎化学・有機化学・無機化学・分析化学実習）を通じての能動的学修が行える学生の育成</p>

教員名	松元 英理子	所属学科等	教育イノベーション 機構、医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	自己点検・評価委員会（副委員長）、入試委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	水泳同好会		
担当科目名	基礎生物、生物学、キャリア基礎、キャリア入門、臨床検査入門、分子生物学、遺伝子・染色体検査学Ⅰ・Ⅱ、遺伝子・染色体検査学実習、医療英語、卒業研究、総合医学検査学特論、総合医学検査学演習				
担当科目コマ数	9.9				
本年度の課題	<p>①カリキュラム改正に向けて、学生の自主的学修を引き出す授業案を検討する。</p> <p>②研究を進展させる。</p>				
本年度の目標	<p>①manaba コースを利用した教材を新たに作成し、学生の自主学修の助けとする。</p> <p>②cyclin D1 の細胞内局在について、より詳細なデータを得る。</p>				
主な活動内容	<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>①M4「総合医学検査特論」で学生の反復学修を促す教材として、manaba にドリル問題を作成した。学生による利用度の差はあるが、多くの学生が自宅学習に利用した。</p> <p>②蛍光免疫染色の観察に共焦点レーザー顕微鏡を導入し、解像度の高い画像を取得することが出来るようになった。</p> <p>目標達成度の評価：1.できた <b>2.ほぼできた</b> 3.あまりできなかった 4.できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <p>引き続き、授業内外で学生が能動的に学ぶ時間を増やす工夫をした。上記manaba教材作成の他、「遺伝子・染色体検査学実習」でも新たなグループワークを取り入れた。</p>				

<p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：白血病細胞の分化およびアポトーシス誘導のメカニズムに関する研究</p> <p>研究の現状：上記共焦点レーザー顕微鏡を用いて、cyclin D1細胞内局在の基本データを得る実験を継続している。</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照</p> <p>学会発表（      回） 論文（      編） 著書（      冊）</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>・高校生のための、なぜ？なに？サイエンス（子どもゆめ基金助成活動）、 「遺伝子検査の世界（実験講座）」講師。</p>
<p>今後の課題</p> <p>①新カリキュラム開始に伴い、「学生が自主的に学ぶ」ための授業を更に充実させる。</p> <p>②研究を進展させる。</p>

教員名	山崎 麻由美	所属学科等	教育イノベーション機構、看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	広報委員会・委員長				
クラス担任	なし	クラブ顧問	英語同好会		
担当科目名	外国語コミュニケーションIA、英語II、文献講読、医療英語（N科）、医療英語（M科）、医療英語（O科）、キャリア基礎、医学英語（通信制課程）				
担当科目コマ数	9.9				
本年度の課題	<p>①テーマ別研究の成果をまとめ発表すること</p> <p>②英文学分野での研究成果発表すること</p>				
本年度の目標	<p>①これまでに取り組んだ授業改善についてまとめ、学生が授業に能動的に向かい合うような取り組みを実施する。</p> <p>②19世紀イギリスにおける医療・看護についての研究を進め、発表する。</p>				
主な活動内容	<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>    * 協働学習を効果的に授業に取り入れた。</p> <p>    * 学会発表と論文執筆に取り組んだ。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた    2. ほぼできた    3. あまりできなかった    4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <p>    学生の自律学習を促すような授業内容・教材、教育法を検討し、授業に導入した。</p>				

<p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：①歯科衛生士を目指す学生のための専門英語教育（テーマ別研究課題） ②19世紀イギリスにおける医療と看護</p> <p>研究の現状：①論文出版予定（平成29年5月） ②論文出版予定（平成29年7月） 学会発表（ 2回） 論文（ 2編） 著書（ 冊）</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>今後の課題</p> <p>①授業の改善に取り組むこと ②英文学・文化研究の資料を収集し、学会発表と論文執筆を行うこと</p>
--

教員名	中田 康夫	所属学科等	教育イノベーション機構、看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	ボランティアセンター長、研究倫理委員会、情報インフラ整備ユニット、第12期長田区民まちづくり会議委員（いきいき部会副部長）				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	基礎統計学、電子コミュニケーション、ボランティアの理論と実践（以上、看護学科）、キャリア基礎、いのちと共生（以上、看護・医療検査学科）、対人援助技術演習（医療検査学科）、プレゼンテーション技法、アシスタントワークⅢ、福祉社会の理解（以上、口腔保健学科）				
担当科目コマ数	10.5				
本年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の能動的な学修をいかに促進することができるか？</li> <li>・学生の思考力をいかに涵養することができるか？</li> <li>・社会的要請に十分応えることができているか？</li> </ul>				
本年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の能動的な学修方略の検討と導入</li> <li>・学生の思考力の涵養の方略の検討と導入</li> <li>・社会的活動の可能な限りの推進</li> </ul>				
主な活動内容	<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>文献検討ならびに目標に関連する学外の講演会・研修会（「崇城大学（熊本県）への視察」「第35回教育サロンin九州 教員×職員×学生 学生と共に成長をする場創りとは？～「自分で決める」ことについて考えてみる～」 「2016年度大学ソリューションセミナーin大阪『教育学習支援につなげるIR～IE（Institutional Effectiveness）とエビデンス指標～』」「大学・地域連携サミット（愛称：学×地（ガッチ）リンク）大学・学生と地域をつなぐコミュニティデザインについて」など多数）に積極的に参加し、自己の教育・研究活動に反映した。また、社会的活動としては、長田区民まちづくり会議委員のほか、長田区における認知症カフェ「なあんカフェ」の運営支援、大谷町介護予防カフェ</p>				

「ひだまりサロン」の運営支援、介護予防カフェ「健康寿命を伸ばす会 いたやど」の運営支援に携わった。

目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった

## 2. 教員としての主な活動内容

### 1)教育活動

基礎統計学においては、今年度は従来型の講義を一新し、双方向的な授業になるように授業法方法を刷新した。また、電子コミュニケーションやプレゼンテーション技法では「peer teaching」「課題解決方法の修得」を導入したりするなど、いずれの科目においても、学生を成人学修者と捉え、従来型の知識・技術の一方通行的な伝達に終始するような方法を極力回避し、学生主体の講義・演習（自己主導型学修）になるように努めた。

### 2)研究活動

研究テーマ：

1. 大学教育の質向上を目指してーグローバル化とユニバーサル化の下での人材育成のための新たな教授ー学修法の開発
2. 高齢者のQOL向上に関する研究

研究の現状：

1. 能動的・主体的学修者育成するための教授ー学修法を教学マネジメント改革の中で検討中
2. 高齢者のQOLに及ぼす影響について多角的な視点から検討し、それを地域に還元しつつデータを収集中

本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照

学会発表（5回） 論文（2編） 著書（1冊）

### 3)社会的活動等

1. 第12期神戸市長田区民まちづくり会議の委員・同会議いきいき部会副部会長
2. 長田区老人クラブ連合会主催の体力測定回の講師
3. きたすま在宅福祉センターすこやか友が丘の運営推進委員会の座長
4. 平成28年度長田区地域づくり活動助成公開企画提案回審査員
5. 日本赤十字社和歌山医療センター看護部の指導者育成コース研修における人材育成や指導に関心のある看護師を対象とした「リフレクションとは？ その目的と方法」をテーマとした研修会の講師（全4回）
6. 姫路赤十字病院看護部の教育プログラム「リフレクティブな後輩育成」をテーマとした研修会の講師
7. 神戸市長田区における「なぁタンカフェ（認知症カフェ）」の運営スタッフ
8. 大谷町介護予防カフェ「ひだまりサロン」の講師
9. 介護予防カフェ「健康寿命を伸ばす会 いたやど」の講師
10. 駒ヶ林中学校における神戸市市民救命士AED講習会のインストラクター
11. 御影インターナショナルこども園における神戸市市民救命士AED講習会のインストラクター

今後の課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教学マネジメント改革に合わせ学生の能動的・主体的な学修方略のさらなる検討・導入</li> <li>・ 国際学会における発表の推進</li> <li>・ 社会的活動として、現在進行中の「なぁタンカフェ（認知症カフェ）」「介護予防カフェ」のより一層の推進</li> </ul>

教員名	永島 聡	所属学科等	教育イノベーション機構、看護学科	職名	講師
委嘱委員・職務	健康保健センター(学生相談室)、FD委員会				
クラス担任		クラブ顧問	軽音楽部		
担当科目名	人間関係論、生涯発達論、教育心理学、生徒指導論、教育相談、事前及び事後の指導、養護実習Ⅰ、養護実習Ⅱ、教職実践演習(養護)、こころの理解、生徒・進路指導論、キャリア基礎				
担当科目コマ数	12.0				
本年度の課題	学生が自ら興味関心を持って心理学を学び、かつ学ぶことによるこびを感じる契機となり得る授業を展開すること。				
本年度の目標	深遠な内容を理解しやすい形で提供するために、自身の専攻領域に関する自己研鑽を欠かさない。特に教職科目については、参加者全員で授業を作り上げていくことを意識し続ける。				
主な活動内容	<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 新たな心理学的知見の吸収</li> <li>● 視聴覚教材の駆使、講義における言葉の選び方、学生との直接的やり取り等、授業方法の工夫</li> </ul> <p>目標達成度の評価： <input checked="" type="checkbox"/> 1. できた    2. ほぼできた    3. あまりできなかった    4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 授業</li> <li>● 「学生相談サロン」等における学生相談活動</li> <li>● クラブの指導</li> </ul> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：教育相談へのフランク理論の応用</p> <p>研究の現状：特別支援学校等での教育相談活動において実践および情報収集中</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照</p> <p>学会発表（ 1回） 論文（ 1編） 著書（ 冊）</p> <p>3)社会的活動等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 高等学校、特別支援学校等での教職員研修</li> </ul>				

今後の課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>● さらなる新たな心理学的知見の獲得</li> <li>● 学生に対して難しい内容をわかりやすく伝えることで、学問のよろこびを学生とともに経験する</li> </ul>

教員名	高松 邦彦	所属学科等	教育イノベーション 機構、医療検査学科	職名	講師
委嘱委員・職務	KTU研究開発推進センター、ライフサイエンス研究センター、情報インフラ整備ユニット				
クラス担任		クラブ顧問	硬式テニス部		
担当科目名	基礎数学 (M)、統計学(M)、遺伝学(M)、バイオインフォマティクス(M)、卒業研究(M)、文献購読(M)、医療英語 (M)、キャリア基礎(I)、生命と科学(E)、プレゼンテーション技法(E、N、M)				
担当科目コマ数	10.2				
本年度の課題					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究活動</li> <li>・準正課活動</li> </ul>					
本年度の目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・論文製作と学会発表</li> <li>・授業外学習</li> </ul>					
主な活動内容					
<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>文献検討ならびに目標に関連する学外の講演会・研修会（「崇城大学（熊本県）への視察」「第35回教育サロンin九州 教員×職員×学生 学生と共に成長をする場創りとは？～「自分で決める」ことについて考えてみる～」）に積極的に参加し、自己の教育・研究活動に反映した。</p> <p>目標達成度の評価： <input checked="" type="checkbox"/> 1. できた    2. ほぼできた    3. あまりできなかった    4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <p>授業が不開講になった授業において、授業外学習として学生と自主的な勉強会を行い、次年度も引き続き学生への支援を行っている。また、同様に、授業が終了した科目において、継続した学びを希望する学生がいたため、次年度に継続して自主的な勉強会を行っている。</p> <p>2)研究活動</p> <p>研究テーマ：</p> <p>1. 大学教育の質向上</p> <p>2. 知のネットワーク理論</p> <p>専門領域：遺伝学、分子細胞生物学</p> <p>研究の現状：</p>					

<p>1. テーマ別研究課題「数理モデルによる試験問題群の再評価」について研究を行った。</p> <p>2. 研究を行い、本学紀要に投稿した。</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照</p> <p>国際学会発表1回、国内学会発表2回、原著論文1本（欧文）、レポート1本（欧文）、原著論文2本（和文）、学術論文1本（和文）</p> <p>3)社会的活動等</p> <p>1. 11/07 駒ヶ林中学校にて、神戸市市民救命士AED講習会を行った。</p> <p>2. 11/22 御影インターナショナルこども園にて、神戸市市民救命士AED講習会を行った。</p> <p>3. 10/02 TOKIW健康フェアにて、AED講習会を行った。</p>
今後の課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学全体に渡る、教育の質保証につながる研究</li> <li>・国際学会に於ける発表の推進</li> </ul>

教員名	近藤 みづき	所属学科等	教育イノベーション機構、こども教育学科	職名	講師
委嘱委員・職務	学生委員会・ハラスメント防止対策委員会・健康管理室委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	硬式テニス部・ダンス部		
担当科目名	健康スポーツⅠ・Ⅱ、体育Ⅰ・Ⅱ、保育教育内容研究D（こどもの運動学）、保育実践演習、卒業研究、健康スポーツ科学（0）、キャリア基礎（MNEO）				
担当科目コマ数	16.0				
本年度の課題					
① 学務を支障なく進め、個人研究活動を高める。					
② 今年度からの担当科目を滞りなく指導する。					
本年度の目標					
① 基盤教育科目カリキュラムの構築を図る。研究成果を論文にまとめ、進展させる。					
② 担当科目を確実に進め、学生が主体となる授業を展開する。					
主な活動内容					
<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>教学マネジメント（基盤教育分野）を進めることができた。研究成果を発表し、論文にまとめた。新たなデータを収集した。「卒業研究」滞りなく進めることができた。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>2. 教員としての主な活動内容</p> <p>1)教育活動</p> <p>保育教育内容研究D（こどもの運動学）では、指導者に必須の運動観察能力向上のため、学生の動きを撮影し、その動画を自分自身で分析し、発表する活動を取り入れた。その結果、深く運動を観察することができるようになった。</p> <p>2)研究活動</p>					

<p>研究テーマ：こどもの動感身体知について</p> <p>研究の現状：データを収集し、分析中である。</p> <p>本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照  学会発表（1回） 論文（2編） 著書（0冊）</p> <p>3)社会的活動等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第60回全国小学校体育科教育研究集会・横浜大会「ゲーム・ボール運動」助言者</li> <li>・甲南大学 非常勤講師「基礎体育学演習」担当</li> <li>・神戸常盤大学子育て支援センター 運動遊び講師</li> <li>・神戸常盤大学附属ときわ幼稚園キッズクラブ「跳び箱やマットで遊ぼう！」講師</li> </ul>
<p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常盤SSPの充実をはかると共に、さらに個人の研究活動を高める。</li> <li>・学生が主体となる授業を展開する。</li> </ul>

教員名	桐村 豪文	所属学科等	教育イノベーション機構、 こども教育学科	職名	講師
委嘱委員・職務	教務委員、広報委員、				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	日本国憲法、法学（日本国憲法）、教育行政学、教育社会学、情報処理Ⅰ、情報処理Ⅱ、キャリア基礎、教育実践演習				
担当科目コマ数	15.4				
本年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 基盤教育を平成29年度から開始するため、開講する科目・担当教員の調整、必要な書類の作成、関係者への丁寧な説明</li> <li>● 小学校教員採用試験合格者10名以上の目標に向けて数学・理科の指導をさらに充実させること</li> </ul>				
本年度の目標	<p>(1) こども教育学科教員の一員として、教員採用試験合格者を増やすよう、最大限の支援を行うこと</p> <p>(2) 教育イノベーション機構の一員として、大学改革の方向性を明確化すること</p>				
主な活動内容	<p>1. 目標達成に向けた活動内容</p> <p>(1) 教職支援センターと連携し、自主学習会を開催し、数学・理科を中心に、教員採用試験対策を行った。</p> <p>(2) 光成研一郎先生のお力添えのもと、基盤教育の平成29年度からの導入に向けて必要な作業に取り組んだ。</p> <p>(3) 光成研一郎先生のお力添えのもと、初年次教育科目「まなぶる▶ときわびと」を担当する教員の研修会を開催し、それに必要な準備を行った。</p>				
目標達成度の評価	1. できた <span style="border: 1px solid black;">2. ほぼできた</span> 3. あまりできなかった 4. できなかった				

## 2. 教員としての主な活動内容

### 1)教育活動

正課の教育活動としては、上記授業科目を担当した。

準正課の教育活動としては、教員採用試験に向けて、数学・理科を中心に学習会を担当した。

### 2)研究活動

研究テーマ：教育とエビデンス

研究テーマの現状：11月に関西教育行政学会にて研究報告を行った。

11月に日本教育社会学会に論文の投稿を行った。

本年度の研究業績：

学会発表（2回） 論文（2編） 著書（0冊）

### 3)社会的活動等

特になし

### 今後の課題

- （1）教員採用試験合格者を十分に確保するため、最大限の支援を行う
- （2）1月以降進み始めた教学マネジメント改革をさらに推進するため、必要なタスクを遂行していく必要がある。